

【包含層出土土器】(第69図)

全調査区が一次調査区と接しているため、統一を図るため、今回の調査区内での分類は、一次調査の分類をもとに行っている。遺構から出土したものに関しては先述のとおりであるため、以下では包含層出土の資料を主体に記述していきたい。

ただし、二・三次調査区は、該当時期の遺物包含層は一次調査ほどⅢ層以上の堆積状況がよくなかったため、小片が多く、全体を把握できる資料が少ない。確認できた当該期の土器はⅢ群が主となった。

【押型文土器】(第67図)

一次調査でいうⅢ群である。

I 山形押型文

口縁部は出土しなかったため、各類型に分類することが困難であった。

220・221は、外面にナデ調整の後、横走する山形押型文を施文している。内面はナデ調整である。200は、口縁部は残存していないが、頸部にあたる部分に文様は施文されていない。222～225は、外面に縦走する山形押型文を施文している。内面はいずれもナデ調整である。226・227は外面に施文された縦走する山形押型文が、ナデ消されている。特に、226に関しては押型文間にナデによって無文帯を形成していることがわかる。

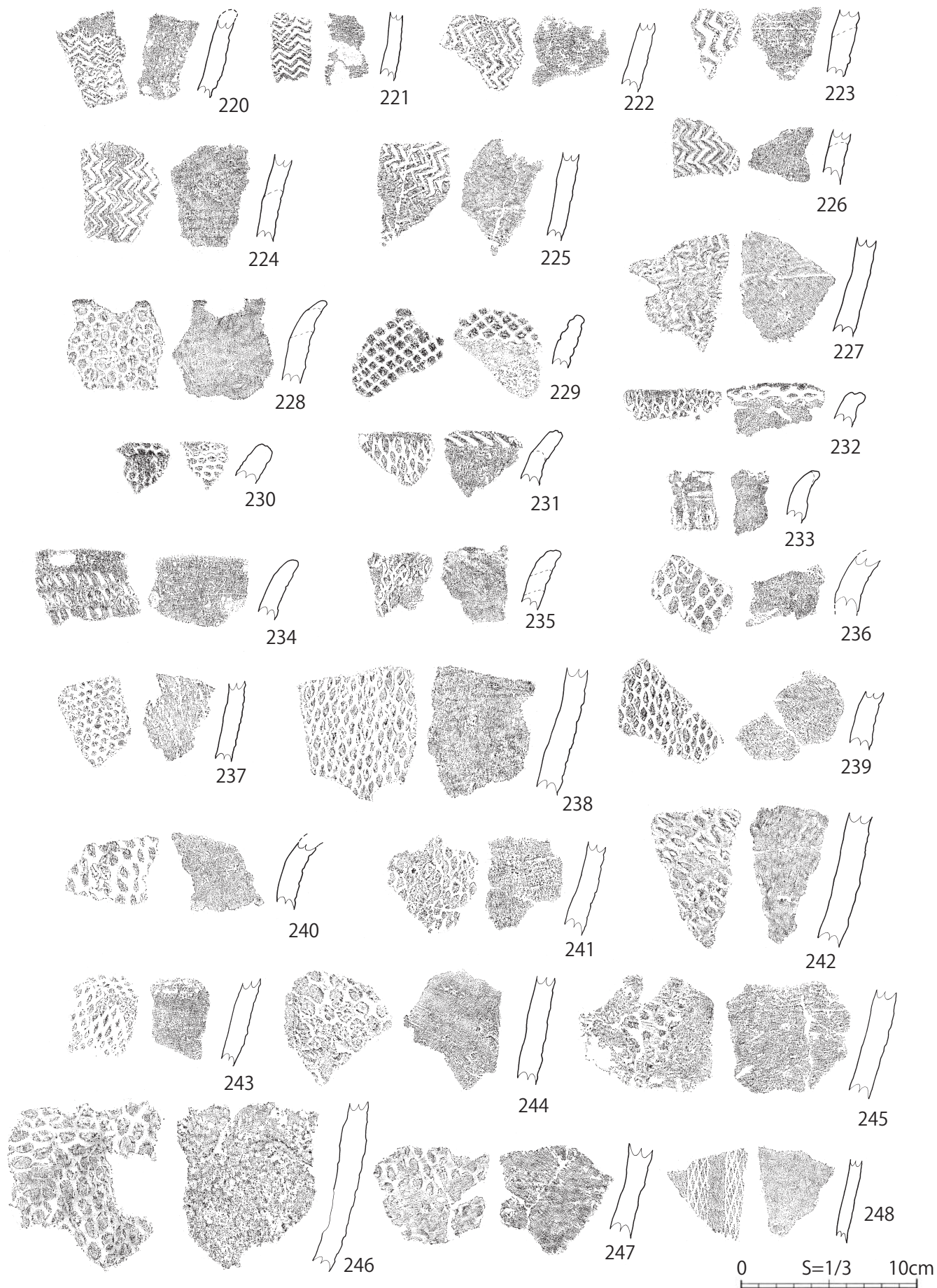
II 楕円押型文

4 D類

229～234が該当する。229は、口縁部、平らな口唇部に縦走する楕円押型文を施し、内面は上端部分に横走する楕円押型文を施す。やや外反した口縁部である。230は、外面は口縁部、内面はナデ調整後、口縁部上端まで縦走する楕円押型文を施す。234は、口縁部は

分類	分類基準	細分類	
I 群	爪形文土器	縄文時代草創期のいわゆる爪形文土器。二・三次調査では確認できていない。	
II 群	無文土器	口縁部	I やや内側にすぼまる II 直口または外側に開き気味
		口唇部	i 尖り気味 ii 丸みを帯びる iii 平坦
		文様	I 山形押型文 II 楕円押型文 III 複合押型文 IV 格子目文 V 枝回転文 VI 縄文 VII 燃系文 VIII その他
III 群	押型文土器	外面施文	1 文様小、横方向 2 文様小、縦方向・斜方向 3 文様大、横方向 4 文様大、縦方向・斜方向 A 横方向+原体条痕 B 原体条痕 C 2重の原体条痕 D 横方向 E 無文
		内面施文	① 直口または外側に開き気味。砲弾形に近い。 ② 頸部に括れをもち、口縁部外反、もしくは口縁部のみ外反するもの。
		口縁部	
IV 群	貝殻文系・条痕文系土器	文様(施文原体) 1類 貝殻腹縁刺突文+楔形突帯文 2類 貝殻腹縁押引文+楔形突帯文 3類 貝殻条痕で羽状文を施す 4類 連続貝殻腹縁押引文 5類 貝殻条痕文	
V 群	沈線文系土器	文様 1類 沈線文+連点文 2類 沈線文+網目状燃系文 3類 沈線文	
VI 群	その他	—	I～V群以外

第3表 縄文時代早期土器分類表



第 67 図 包含層出土縄文土器実測図

やや開き、内面には横走する楕円押型文を施す。口唇部は尖る。口縁部上端と、内面はナデ調整である。231はナデ調整を施された後、口唇部に刻みが施されている。

#### 4 E類

228・233・235が該当する。228は、口縁部が、外反しており、口唇部はやや尖り気味である。外面にはやや粒の丸い縦走する楕円押型文を施す。内面はナデ調整である。233は外反する口縁部で内面はナデ調整である。235は、口縁部はやや開く程度で、口唇部も丸い。口縁部上端に強いナデ、内面はナデ調整である。

各類型に分類することが困難であった資料については以下のとおりである。236～240は、外面に縦走する楕円押型文を施し、内面はナデ調整である。237はその中でも、粒径が小さい。244・245は、外面の文様が、ナデによって245は縦方向、244は斜め方向に一部消されている。243・246は、横走する楕円押型文と、縦走するものが混在する資料である。246の文様の粒径は大きく、施文が粗雑である。247は文様の施文が途中でとまっている。

### Ⅲ 撚糸押型文

248はベルト状の網目撚糸文を施したものである。1点のみ出土している。

#### 【石鏃】(第70図)

二・三次調査では計19点出土しており、そのうち11点図化している。すべてI層以上から出土しているが、中には、いわゆる鍬形鏃や、黒曜石の小形三角形鏃など、縄文時代早期と判断できるものも含まれるためII層以下からの上方拡散を考慮すべきである。掲載数が少ないため、縄文時代後期以降と思われる資料とあわせて報告したい。

出土層位と形態から縄文時代早期と判断できるものは、249～251である。249・250は、黒曜石の小型の三角形鏃である。基部は抉りの浅い凹基で、全面に剥離による調整がなされている。251は形態が正三角形に近く、基部はU字に大きく抉れた、いわゆる鍬形鏃である。剥離による全面調整を施したのち、鋸歯状剥離による周縁調整をおこなっている。

出土層位はI層であるが、技術・形態的に縄文時代早期の可能性が高いものは、252～257である。252は

251と同様の鍬形鏃であるが大きさが異なる。251・253～255は形態が長身二等辺三角形であり、基部の抉りが深い。鋸歯状剥離による周縁調整がなされる。253・254は鏃尻の両端に丸みを帯びる。

縄文時代後期以降と判断できるものは、255・258である。一次調査出土の縄文時代後期以降のものと判断された石鏃は、凹基無茎鏃で占められており、使用石材もホルンフェルス類が多い傾向にあると報告されている。これらと比較すると、技術的・形態的にも同様なものは2点である。255はホルンフェルス(HoII群)製で形状は長身二等辺三角形である。抉りは浅く、縄文時代早期としたものよりもカーブは緩やかである。剥離による全面調整であるが、石材に起因するものなのか、稜線は明瞭ではない。259はチャート(ChI群)製である。基部が破損しているため詳細は不明である。

### 縄文時代後・晩期の遺物

全調査区を通して、I層を中心とした包含層から当該期の遺物が出土している。遺構は確認できていない。(今回の調査で、一次調査時に確認していた調査区外に延びる竪穴住居跡の続きがH区で、確認できた。第I分冊にて報告済みである。)特に、I層の堆積の厚いF区からは多くの土器・石器類の出土が認められた。本遺跡の出土遺物に関しては、一次調査で詳細な分類をおこなっているため、二・三次調査分もそれに準じて石器・土器ごとに器種分類をおこなっている。

#### 【石器】(第68図～78図)

##### 【打欠石錘】(第68図～71図)

一次調査では5,000点近い、大量の打欠石錘が出土しているが、今回の調査でも553点出土している。そのうち図化しているものは54点である。

打欠部の位置で分類をおこなっている(第4表)。

##### I類(第68図～78図)

本遺跡出土551点中512点と、大半がこの類型である。紐掛け部は剥離、敲打、両極打法などによって作り出されている。以下では特徴的なものを挙げ、その他は観察表を参照されたい。

今回の調査で出土した石錘の中で、特徴的なものは260～277である。長径4～6cmと本遺跡で出土した全石錘のなかでも、小型の部類に入る石錘である。多くは紐掛け部の作出は剥離によるものだが、262・

打製石斧	無袂群	平面形の両側縁がほぼ直線ないし若干張り出すラインで構成されるグループ	
		I類	短冊形 長方形ないし隅円長方形の平面形。基端部ほぼ直線で構成される。 a: 両側縁がほぼ平行 b: 両側縁がやや膨らむ
		II類	亜短冊形 長台形の平面形。I類とほぼ同様であるが、刃部に向かってわずかに両側縁が広がる。刃部平刃または円刃 a: 両側縁がほぼ直線 b: 両側縁がやや膨らむ。広がりやの程度が進むとIII類となる
		III類	撥形 a: II a類に連続する長台形 b: 基端が尖り刃部を底辺とする二等辺三角形の平面形 c: 両側縁がやや内反る
		IV類	小判型 I類に含まれる平面形が隅円長方形のものがさらに丸みを帯び、長楕円形の平面形になるもの。刃部は円刃 a: 器長が長いもの b: ずんぐりとした楕円形
	V類	細形 細身の体形を有する a: 両側縁がほぼ平行 b: 刃部・基部の両端がすぼまり、紡錘形に近いもの	
	有袂群	体部中程ないし上半の側縁に袂りを有するグループ	
		VI類	体部上半の両側縁に袂りを有する。 a: 刃部形態が平刃 b: 刃部形態が尖刃 c: 刃部形態が円刃
	VII類	分銅形 体部中程の両側縁に袂りを有し、ほぼ上下対称の形態となる a: 隅円三角形の形態が連結するもの b: 円形が連結するもの	
	有柄群	体部上半と下半の幅が異なり、袂りではなく肩ないし段状の境目を有するグループ	
VIII類		下半が円形をなすもの a: 柄部が短小なもの b: 相対的に柄部が長く下半が狭小なもの	
IX類		漏斗形 短小な柄部から刃部に向かって両側縁が末広がりになるグループ	
X類	先鋭な肩部を有するグループいわゆる「有肩」と形容される資料を含む a: 正方形ないし長方形の長軸の一端に短小な柄部が組み合わさる(羽子板形) b: 長方形の短軸の一端に柄部が組み合わさる(凸字形) c: 尖った刃部を有する(矢印形: 弥生時代)		
磨製石斧	I類	撥形 基部から刃部に向かって両側縁が末広がりになるグループ	
	II類	短冊形 両側縁がほぼ平行し、隅円長方形の平面形をなすグループ	
	III類	紡錘形 胴部中央から刃部・基部に向かって両側縁がすぼまるグループ	
	IV類	細形 細長い棒状の体形をなすグループ	
	V類	石鑿	
打欠石錘	I類	長軸打欠 素材の礫の長軸方向だけに打欠き部をもつ	
	II類	短軸打欠 素材の礫の短軸方向だけに打欠き部をもつ。長短比が1:1のものも含む	
	III類	双軸打欠 素材の礫の長・短軸方向両方に四方ないし三方に打欠き部をもつ。長短比が1:1のものも含む。	
磨石	I類	基石形 円形ないし楕円形の扁平礫を素材とする。周縁部は未加工・未使用	
	II類	ボール形 球形の礫を素材とする。明瞭な使用痕が乏しい。	
	III類	タブレット形 円形ないし楕円形の扁平礫を素材とする。敲打痕が摩滅面にほぼ直交する面を側縁に形成する。 a: 敲打痕が単一の面が扁平礫の周囲を巡る b: 敲打痕が部分的に見られる	
	IV類	算盤玉形 敲石の範疇に入る。厚みのある扁平な礫を素材とする。側縁には摩滅面に對しやや斜めの角度から敲打痕がみられる。 a: 敲打痕は複数面見られ、両側縁には稜線が直線的に形成される。残存形態がいわゆる算盤玉形になるもの b: 敲打痕が部分的に見られる c: 敲打面によって形成される両側面の稜線がジグザグにはしるもの	
	V類	俵形 厚みのある棒状礫を素材と推定され、端部に敲打痕が観察できる。 a: 長軸端部に摩滅面に直交する形で敲打面が形成される。 b: 敲打痕が複数面みられる	
敲石	砂岩の棒状礫 尾鈴山産溶結凝灰岩の扁平円礫		

第4表 縄文時代後・晩期石器分類表

263・265・266の紐掛け部は剥離をおこなった後、敲打を加えている。281は、尾鈴山酸性岩類を素材とした石錘である。もともと厚みのある礫を手頃な大きさに割り、剥離によって紐掛け部を作り出している。287は、剥離面が少なく、紐掛け部の縁辺には、顕著な潰れが認められるため、紐掛け部は敲打もしくは擦りによる作出しと考えられる。片方には、紐掛け部を作り出した後におこなわれた剥離がみられる。また、紐掛け部に直交方向に溝がみられる。溝は剥離や敲打を切っているため、紐を掛ける時の摩擦によるものの可能性が高い。293～298は、やや厚めの礫を素材としている。299は、紐掛け部縁辺の抉りの度合いが低く、帯状に潰れが顕著に見られるため、両極打法の使用が想定される。295・296は棒状の礫を素材としており他のⅠ類と様相が異なる。

## Ⅱ類

Ⅱ類は、553点中34点とⅠ類に比べ数は極端に減る。紐掛け部の位置が短軸方向にあること、また、素材の礫自体が長短比1：1のものであることがⅠ類とは異なる点である。製作技法はⅠ類と同様である。

309は、もとは縦長であったであろう礫を器体の両端それぞれ1/3におよぶまで剥離によって紐掛け部を作出している。

## Ⅲ類

Ⅲ類もⅡ類同様、紐掛け部の位置に違いはあるものの、製作技法の点では、Ⅰ類でみられる技術がほぼあてはまる。出土総数553点中5点が該当する。

311は、四方に線状の顕著な潰れがみられる。すべて剥離のなかで潰れの範囲は収まるため、紐を掛けた時の痕跡の可能性が高い。315は、剥離と敲打、もしくは擦りによって作られた紐掛け部にまで赤化がおよんでいるため、石錘として使われたのち、礫が赤化していると判断できる。

### 【打製石斧】(第71～74図)

二・三次調査では、打製石斧は未成品・破損品等を含めると145点出土している。そのうち27点図化している。本遺跡の打製石斧は、着装の仕様や、破損後の変形と機能・用途の差を考慮した分類がなされている(第4表)。

## Ⅰ類

出土総数145点中29点が該当する。そのうち1点を図化している。316は、基部が欠損しており、詳細は不明であるが、両側縁はほぼ直線に近い。ただし、純粋に長方形というわけではなく、体部中央にわずかながら抉りが見られる。

## Ⅲ類

出土総数145点中14点が該当する。そのうち6点を図化している。317～319はⅡa類から連続する長台形のⅢa類である。317は幅が狭く器厚も薄い。体部上半にわずかであるが、抉りが確認できる。318は、砂岩製である。礫を薄く打ち割った後、周縁部に細かい剥離を施している。319は基部が欠損している。また、体部中央から刃部にかけて、板状に剥離しており、薄い。320は、やや小ぶりである。両面ともに両側縁に調整加工が施されている。321は片方に素材の礫面を残し、側縁に剥離を施している。風化が著しく稜線は明瞭ではない。322は、両面ともに粗雑な調整加工が施されている。縦断面は湾曲しており、刃部については、湾曲した側は、剥離は少なく、平らな面をもつ。擦痕等は、摩滅しており明瞭ではない。尖った刃部をもつ。上記のいずれもⅢb類にあたる打製石斧である。

## Ⅳ類

出土総数145点中10点が該当する。そのうち3点を図化している。323は、一方に礫面を残す。基部に細かい剥離を加え、刃部には一部擦痕が見られる。324は、両面中央部は節理面である。側縁と刃部に調整加工を施している。片方に、何かで引っ搔いたような筋状の痕跡が見られる。この痕跡は、剥離に切られていることが観察できるため、製作時についたものであると判断している。325は、Ⅳa類にあたる。両面に調整加工を施している。基部付近で装柄時の痕跡の可能性が高い、側縁の端から端に線状の潰れが確認できる。326は大型で、片方に素材の礫面を残す、円刃の打製石斧である。一方は主要剥離面を残し、粗雑な調整加工を施すのみである。Ⅳb類にあたる。

## Ⅴ類

出土総数145点中13点が該当する。そのうち2点を図化している。323は、338は、両側縁がほぼ並行するⅤa類である。基部と刃部の一部に敲く打痕がみられる。337は、刃部に擦痕が見られる。使用時の摩滅と

いうよりも、研磨で刃部を成形しているため、製作時  
についた痕跡の可能性が高い。V類である。

#### VI類

出土総数145点中7点が該当する。327は、刃部形態  
からVI b類とする。小型であり、括れ部分に若干の摩  
滅がみられる。328は、両面に礫面を残し、特に基部  
は礫本来の丸みが残る。円形が連結したような形状で  
ある。括れ部以外は粗雑な調整加工を施している。括  
れ部には、一部潰れが観察される。329は、基部が破  
損しているが、おおよそ体部中央に括れをもつ。粗雑  
な剥離が目立つ。括れ部の片方に小さな抉りが入り、反  
対側は、緩やかに括れる。330は柄部が欠損している。  
欠損面から推測して、柄部は短い。抉りを入れるため、  
丁寧な調整加工が施されている。いずれもVI類である。

#### VII類

出土総数145点中2点が該当する。331は、基部が欠  
損しており、全体の形状は不明であるが、欠損面から  
推測して、おそらくVII類と推定される。抉りが明瞭で  
はないが、両側縁の調整加工が、他と比べ細かい。片  
面には礫面を残す。VII a類である。

#### VIII類

339は、柄部が長く下半は狭小（VIII b類）である。  
風化が著しく調整加工は不明瞭である。

#### IX類

出土総数145点中4点が該当する。335は、柄部に細  
かい調整加工が施される以外は、粗雑な剥離が目立  
つ。刃部が斜めに欠損している。

#### X類

出土総数145点中9点が該当する。332は、全体的に  
風化が著しいため、調整は明瞭ではない。柄部が円形  
でVIII a類にも類似するが、明らかに肩部を持つため、  
X類とした。333は、器厚は薄く、肩部から刃部にか  
けて、側縁に細かい剥離が見られる。刃部が斜めに欠  
損している。334は、長方形の長軸の一端に柄部が組  
み合わさるX a類である。柄部から刃部にかけて側縁  
に調整加工を施す。幅広の刃部であり、一部欠損して  
いる。340・341は、いずれも平面形が、先端が尖った  
形状をしている（矢印型）。341は、基部の片面のみ、  
摩耗している部分がある。片面にしかみられないた  
め、着柄時の接地面として、平らに加工した際の痕跡

である可能性が高い。

#### 【磨製石斧】（第76～77図）

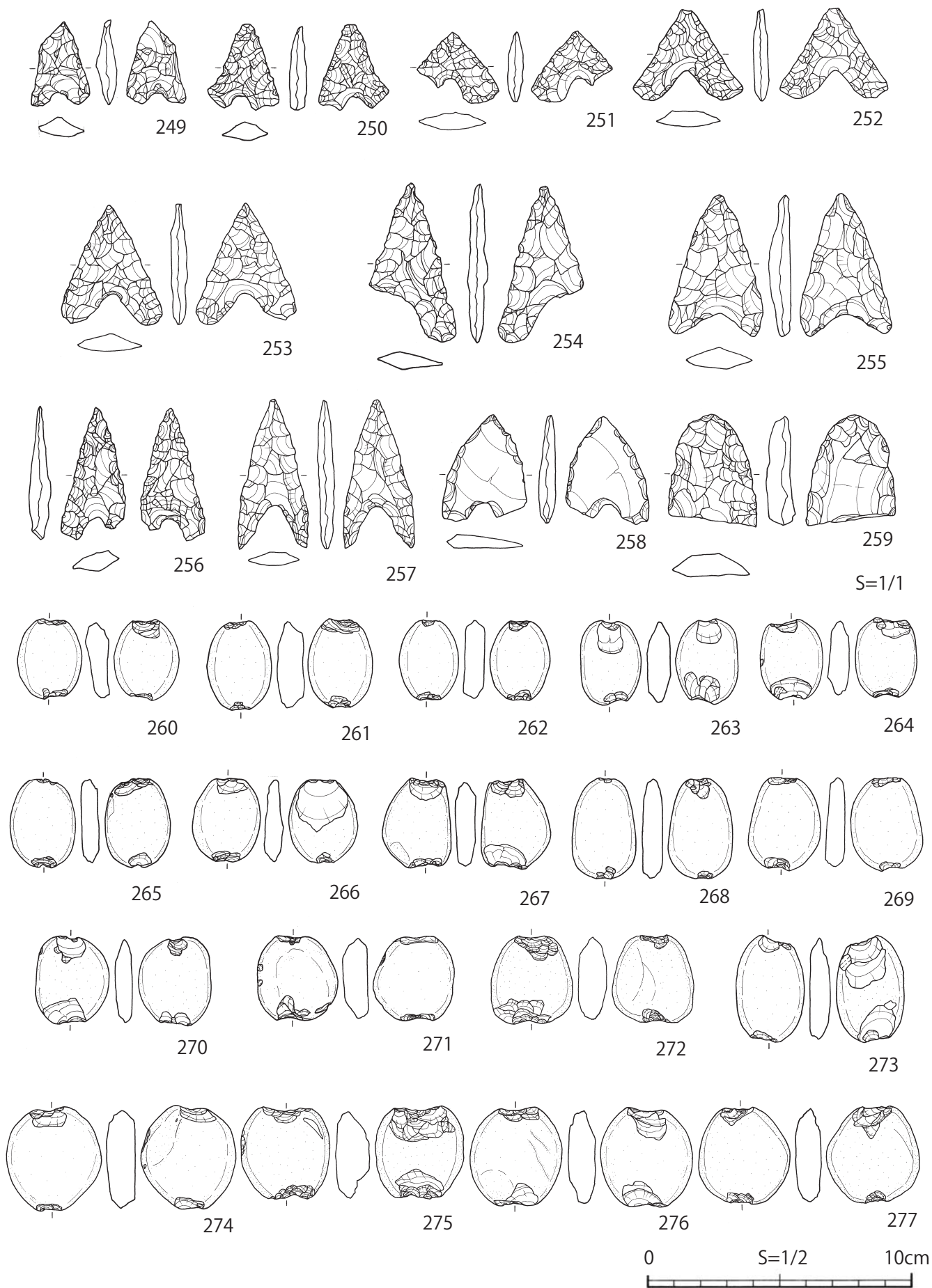
二・三次調査で出土した磨製石斧は総計63点であ  
り、そのうち9点図化している。一次調査での分類は  
平面形態をもとに、五つに大別しているが、今回は、  
掲載分すべてが、その分類に則さないため、個別の報  
告にとどめる。

342・343は、両側縁がほぼ平行する。いわゆる「乳  
棒状」の石斧である。細長い礫を素材とし、両側縁は  
敲打で整形し、表裏面に部分的であるが、研磨が見ら  
れる。342には敲打→剥離の成形工程が観察できる。  
ただし、刃部の剥離は、製作段階の可能性は低い。体  
部下半に鉄分の付着が見られる。343の基部は剥離で  
成形されている。344は刃部側に向かって、やや広が  
り、中央部に敲打による整形後の研磨が見られる。2  
点とも刃部が欠損している。345～347は、基部側が  
細くなる。敲打による整形はいずれも変わらないが、  
346は礫面のカーブをそのまま基部としており、側面  
も礫面をそのまま使用した部分と、敲打によって整  
形された部分がみられる。345・347は敲打による整形  
後、研磨を行っている。すべて刃部が欠損している。  
348～350はさらに基部が先細り尖っている。349は、  
大きな剥片を剥離によって成形し、基部は敲打によ  
って整形している。刃部は礫面を利用しているが、整形  
方法は不明。全体的に風化が進み、稜線が不明瞭であ  
る。348・350は全面、敲打による整形を行っている。  
この2本は、刃部が欠損している。

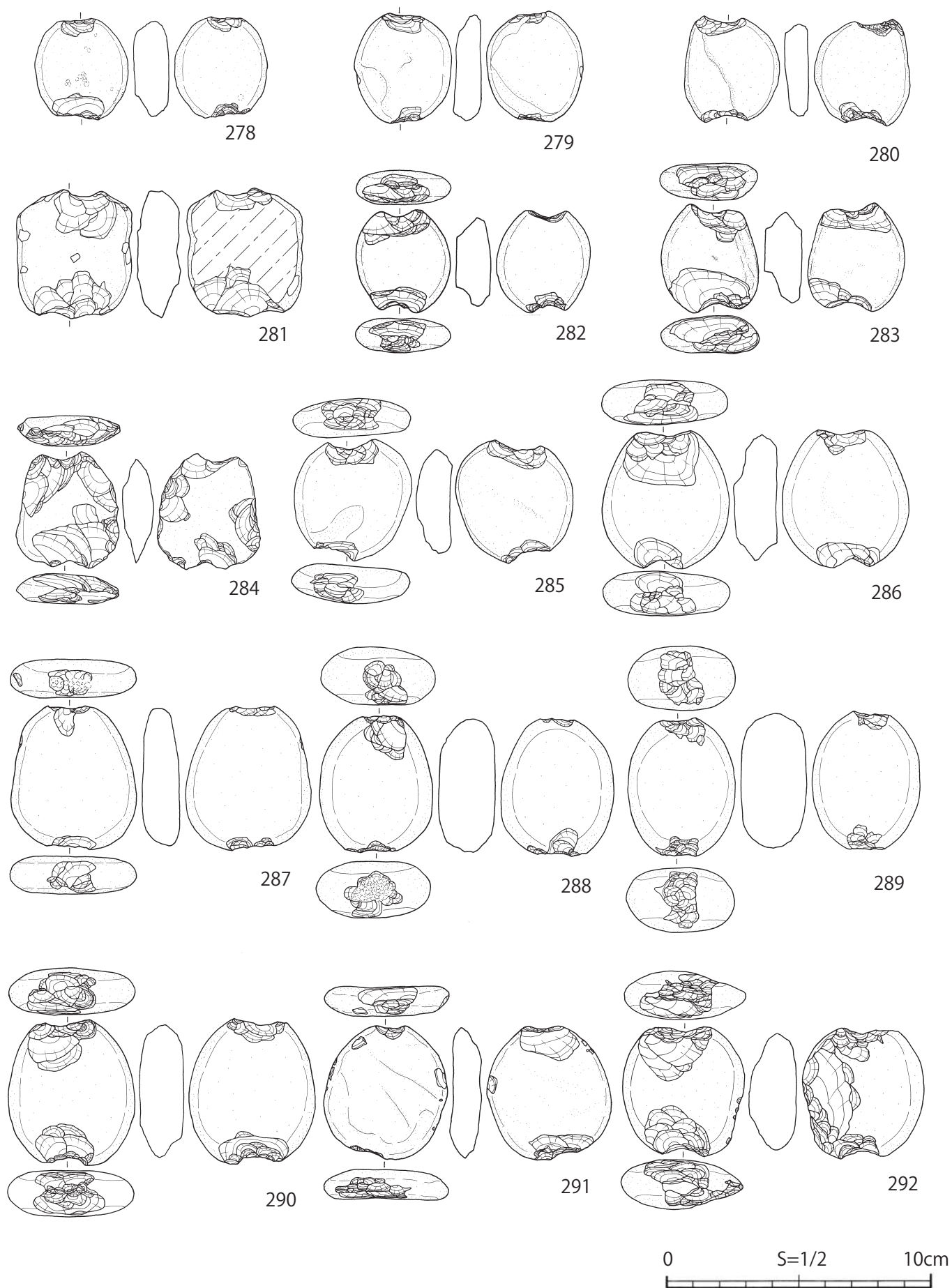
他の石斧と性格が異なるものに351（第75図）が挙げ  
られる。小型で、全面研磨を施している。側面に一部  
剥離がみられるが、全面研磨後の剥離であるため、意  
図的な剥離とは考えにくい。石材は、白色流紋岩がホ  
ルンフェルス化したものであり、白色の石斧である。  
上記の磨製石斧と比べ、この個体は、非常に小型で、  
石材も異質である。

#### 【磨石】（第76図）

59点出土し、そのうち12点図化している。主に円礫  
を素材とし、使用にともなう摩滅が見られるものを挙  
げている。一次調査のIV類にあたる、周縁に敲打痕が  
観察できる敲石の範疇に入る資料がほとんどである  
が、摩滅が観察できるものについては、磨石とした。

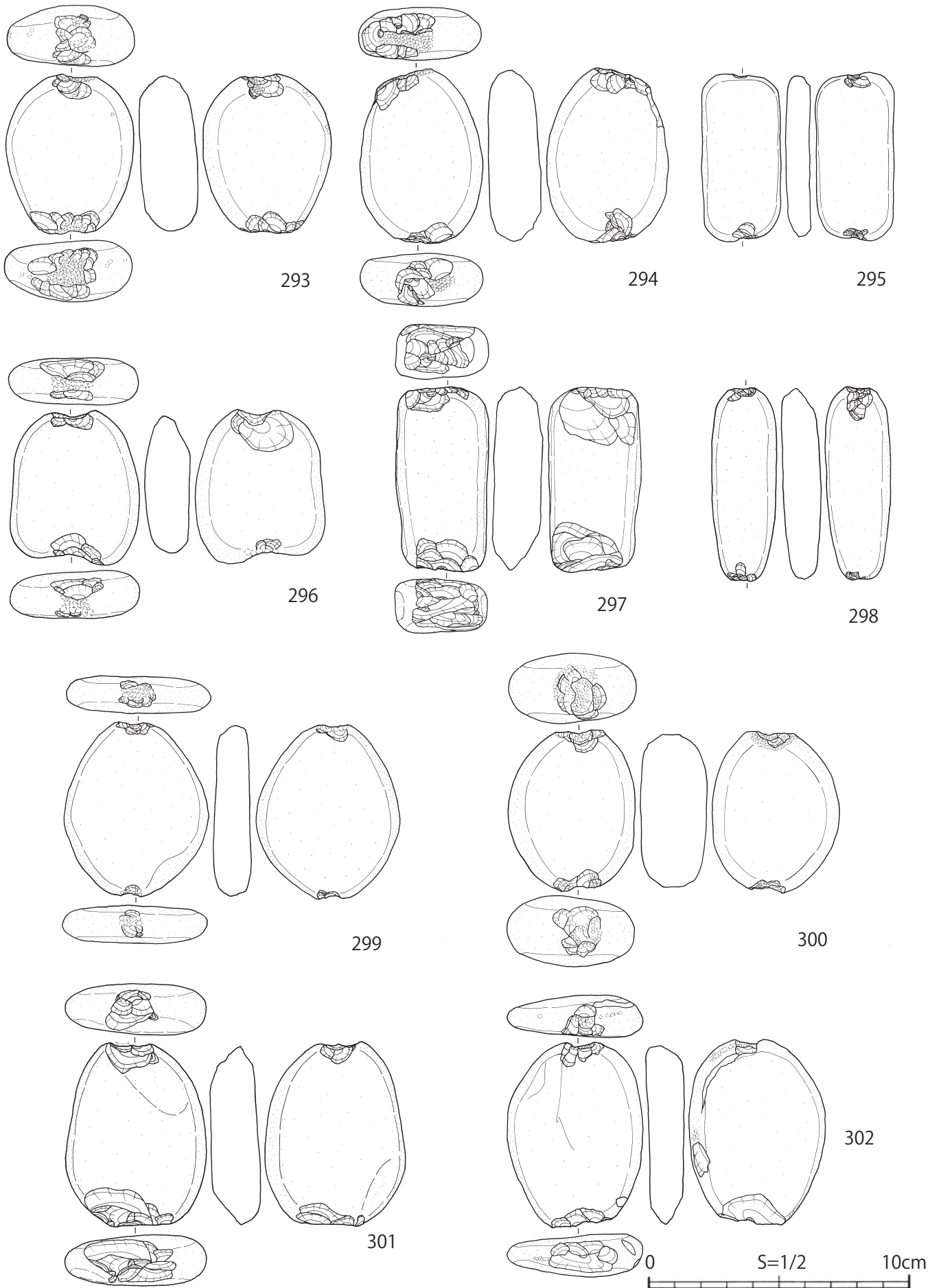


第 68 図 縄文時代早期・後・晚期石器（石鏃・石錘）実測図

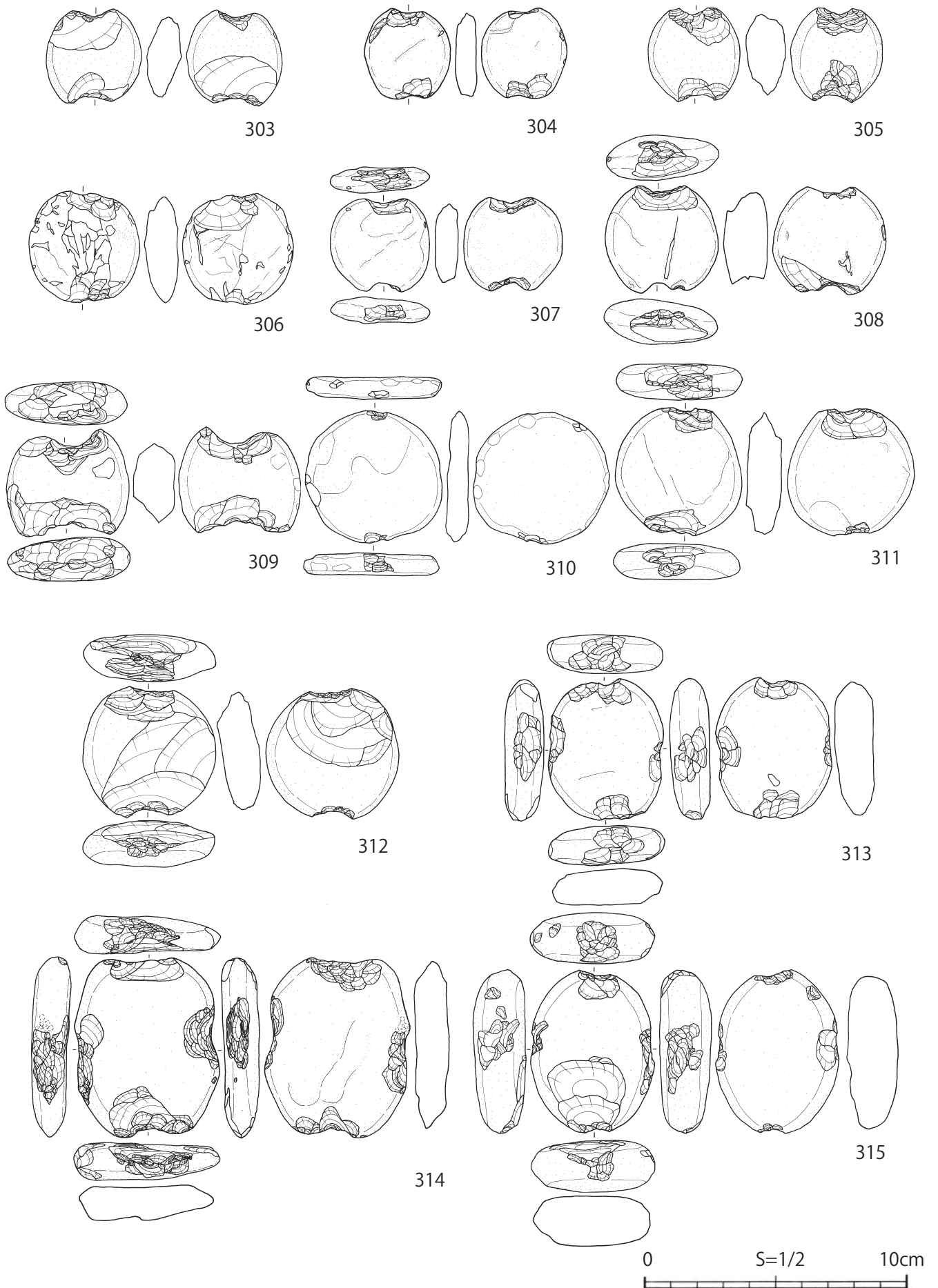


第 69 図 縄文時代後・晩期石器（石錘）実測図（1）

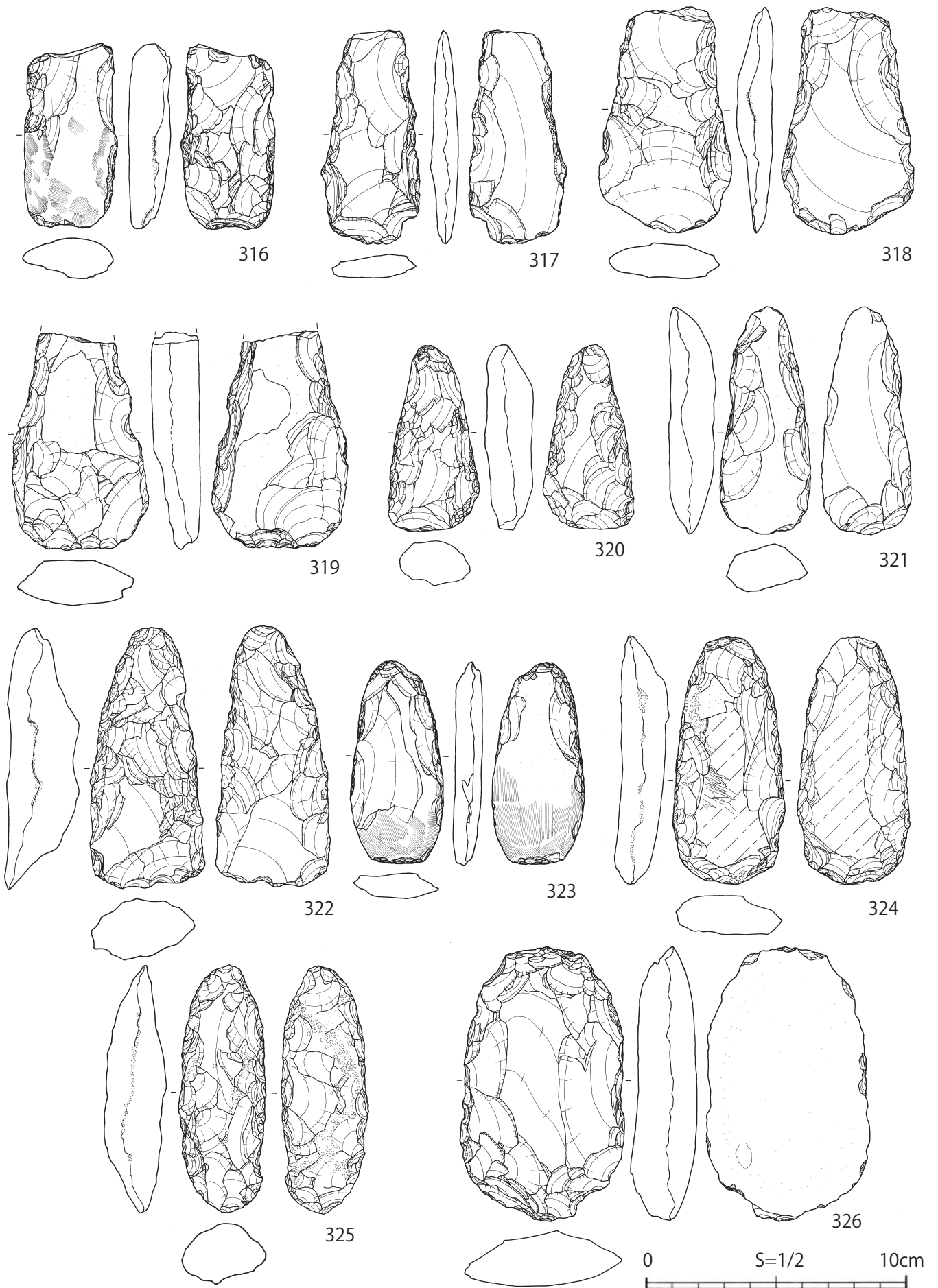




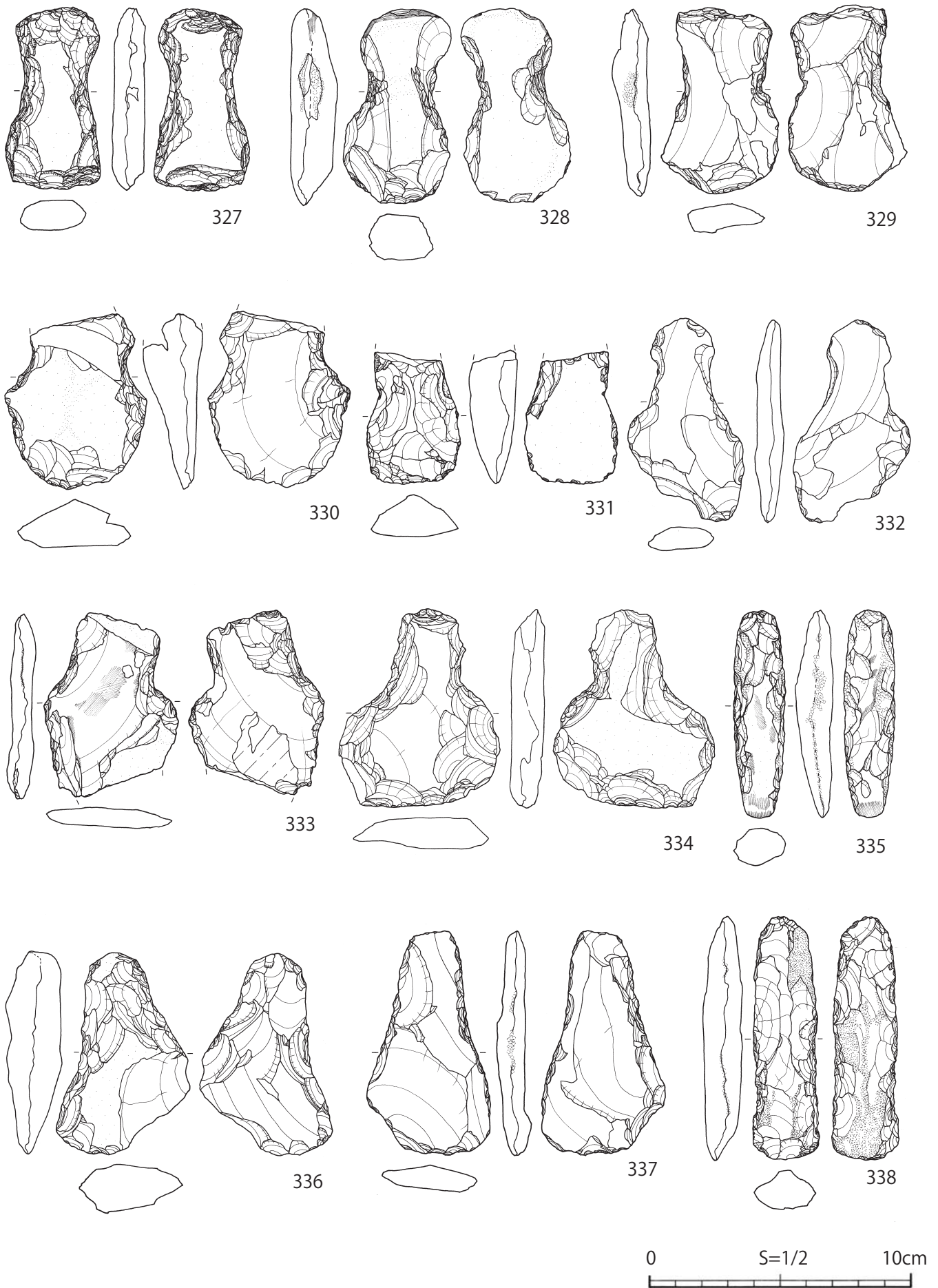
第 70 図 縄文時代後・晩期石器 (石錘) 実測図 (2)



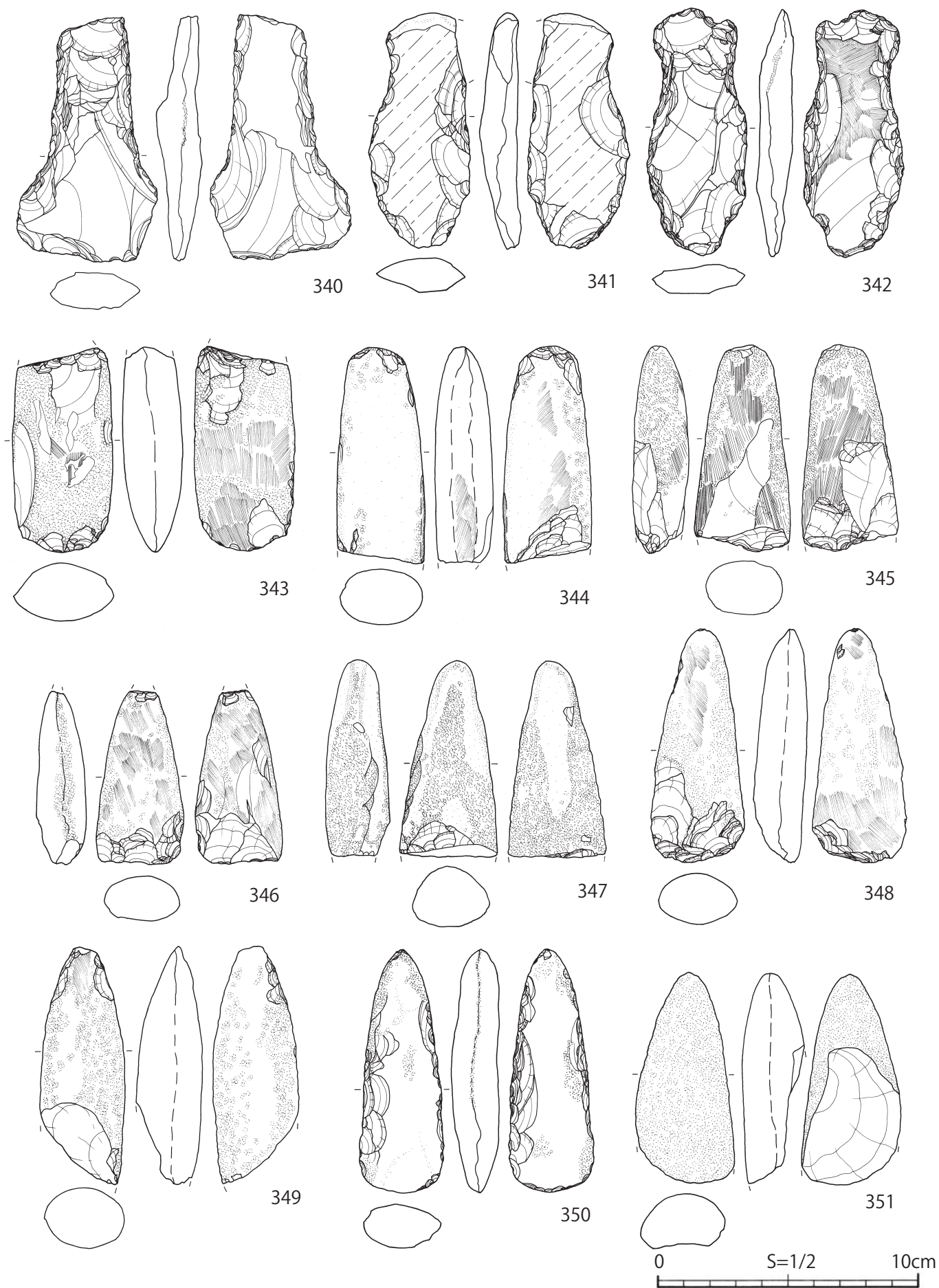
第 71 図 縄文時代後・晩期石器 (石錘) 実測図 (3)



第 72 図 縄文時代後・晚期石器 (石斧) 実測図 (1)



第73図 縄文時代後・晩期石器(石斧)実測図(2)



第 74 図 縄文時代後・晩期石器 (石斧) 実測図 (3)

## I 類

出土総数59点中15点が該当する。352は、両面に摩滅痕がみられる。周縁部は未加工・未使用であり、礫面を残す。

## III 類

出土総数59点中32点が該当する。大きさは大小様々である。354・356・358は単一面の敲打痕が周縁を巡るもの（III a 類）にあたり、352・355・359は敲打痕が、部分的に見られる（III b 類）ものである。

## IV 類

出土総数59点中12点が該当する。摩滅面に対して、やや斜め方向からの敲打痕が見られる。360・362・363は複数面の敲打痕が、周縁を巡り、側面の稜線が直線的に見える。361は、敲打痕は、周縁に巡るのではなく両端にしか見られない。

### 【凹石】（第77図）

円礫を素材とし、平坦に近い面を敲打によって凹みが形成された石器である。出土した7点すべて図化している。365・368は、平坦面の凹み以外に、長軸側縁に敲打痕が残り、敲石としての使用も想定できる。366は、平坦面ではなく、礫の一番盛り上がっている部分に凹みが見られる。369は、長軸側に石錘の紐掛け部のような剥離と潰れが、一方のみ確認できる。

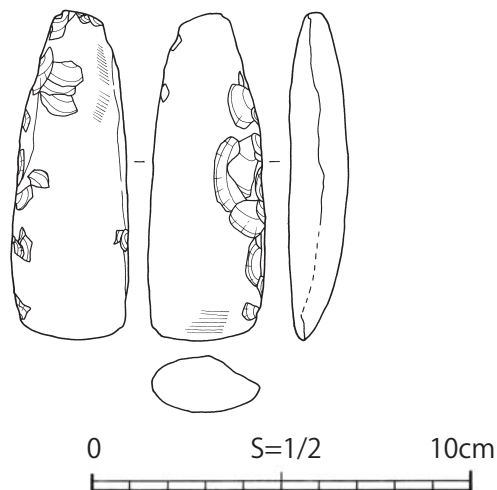
### 【敲石】（第77～78図）

今回の調査で46点の敲石が出土している。そのうち図化したものは7点である。棒状の礫を素材とし、長軸の両端もしくは、一端に敲打痕が見られるものと、磨石に含まれるもので、扁平な礫を素材とし、周縁に敲打痕が認められるものがある。

370～374はすべて前者にあたる。373・378は、長軸側だけではなく、短軸側もしくは側縁にも敲打痕が見られる。370は、扁平な礫を素材としている。風化が著しいため明瞭ではないが、周縁に剥離と、敲打痕がみられる。側面と平坦面の間に溝状の凹みが見られ、373・378のもののように、単純に使用による敲打とは性格が異なる。

### 【円盤状石器】（第78図）

3点を当該器種とした。380は小型品であり、素材の礫の周縁に部分的に剥離による整形を行っている。377は扁平な礫の周縁に剥離によって整形している。



第75図 縄文時代後・晩期石器（石斧）実測図（4）

381は、大きな礫から剥片を割出し、その剥片に剥離整形を行いさらに周縁には、細かい剥離を施している。

### 【台石・石皿】（第78図）

完形で残っているものがなく、2点のみ掲載している。379は中央部分に摩滅がみられ、一部敲打痕も確認できる。380は、扁平な礫の一部で中央付近が、摩滅している。全体が赤化しているため、集石遺構の配石に使用されていた可能性もある。

### 【土器および土製品】（第79～85図）

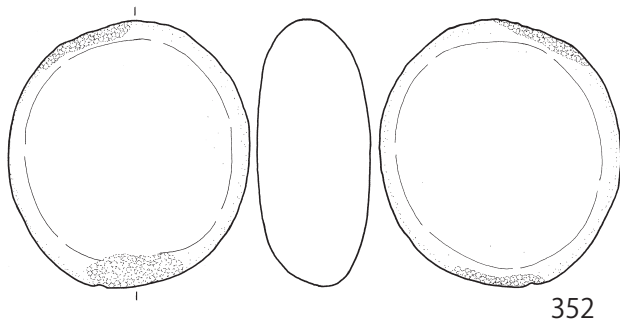
包含層出土の土器は破片資料が多く、全体の形状を把握できるものが無い。そのため、特徴のある文様をもつものや、口縁部、底部などの、パーツごとの抽出となった。接合に関しては、今回の調査区と隣接する一次調査区出土の膨大な資料との接合が必要となるため、時間的な制約上行えなかった。

各分類については、一次調査の報告で文様を中心にI～VI群に詳細な分類を行っているため、二・三次調査もそれに基づき分類を行い、以下で報告することとする。なお、遺構出土としているものであっても、ほとんどピットからの出土であるため、遺構の時期を決める上で、有効でない出土状況のものや一括性のない資料である。これらに関しては、包含層出土資料とともに、報告したい。

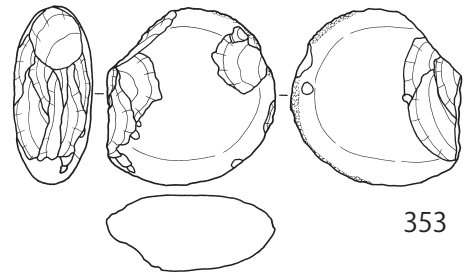
各分類基準は第5表に記したとおりであり、各遺物の詳細は第11表を参照されたい。

### 【第1群 貝殻文系】（第79図）

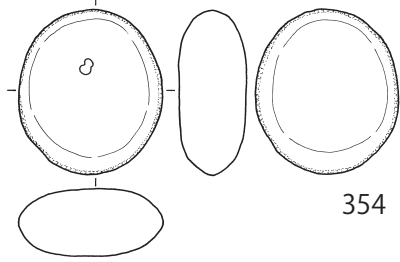
384～392が該当する。384・385は、口縁部が、ゆる



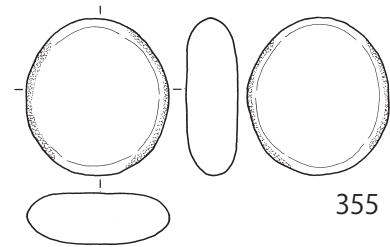
352



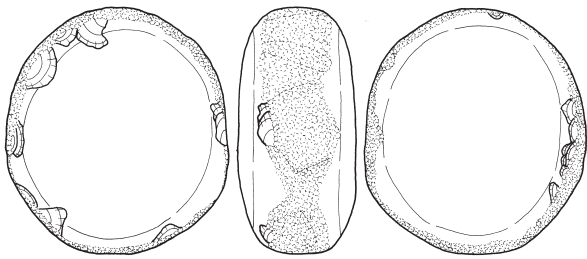
353



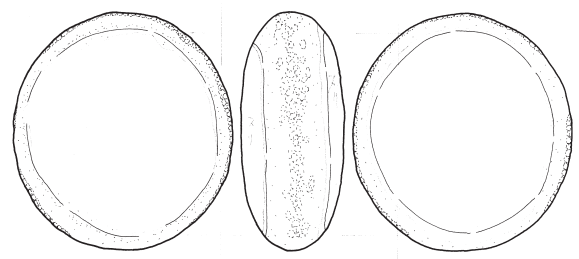
354



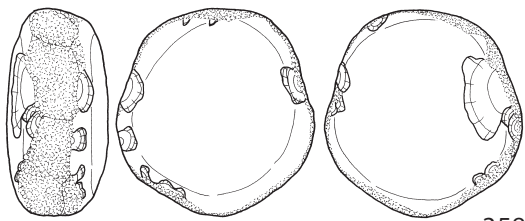
355



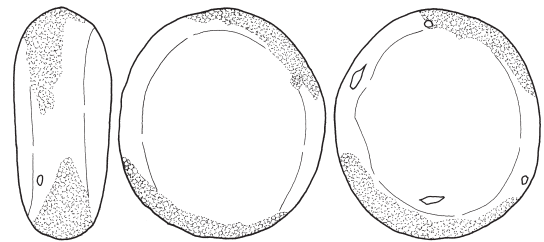
356



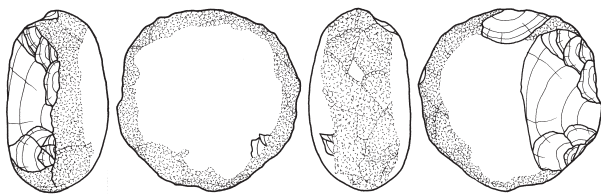
357



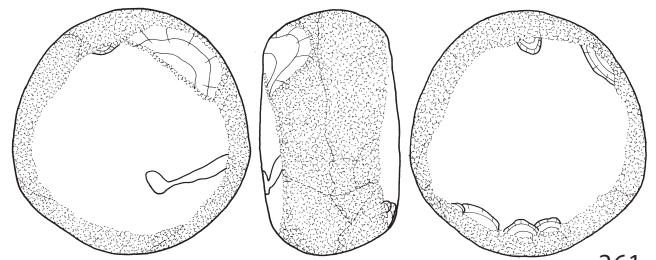
358



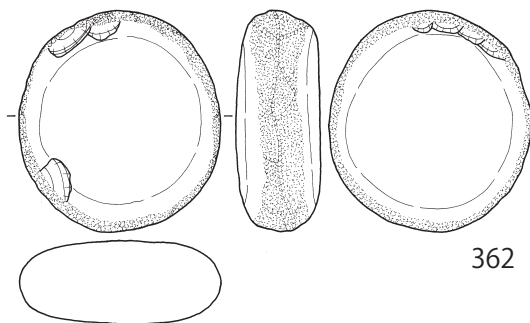
359



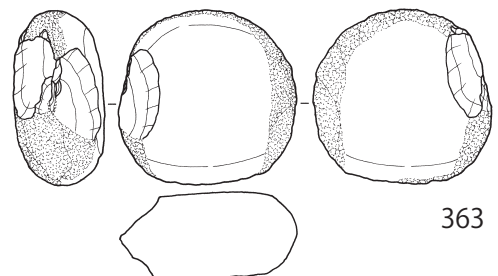
360



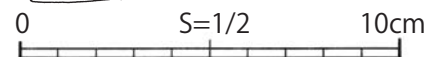
361



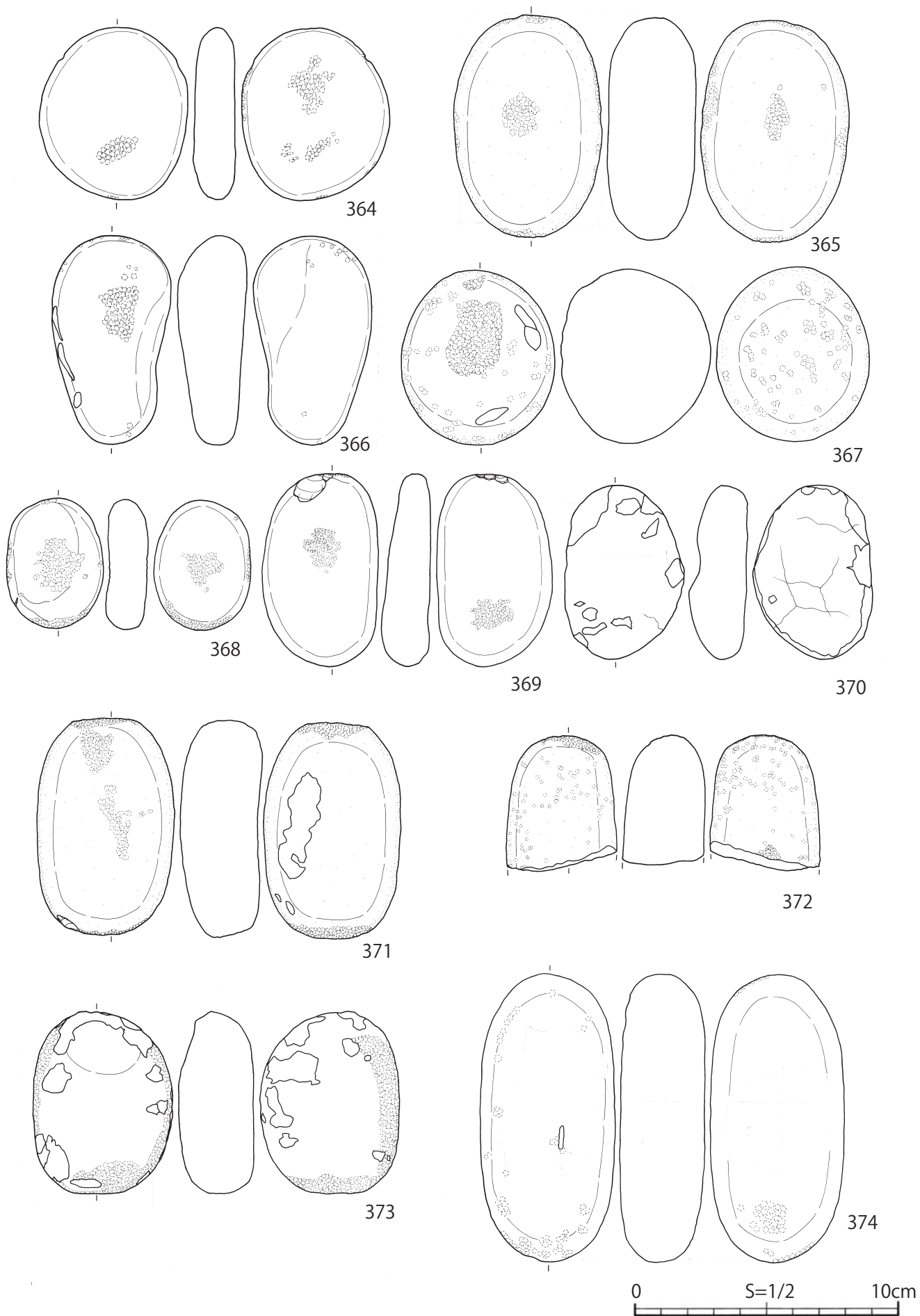
362



363

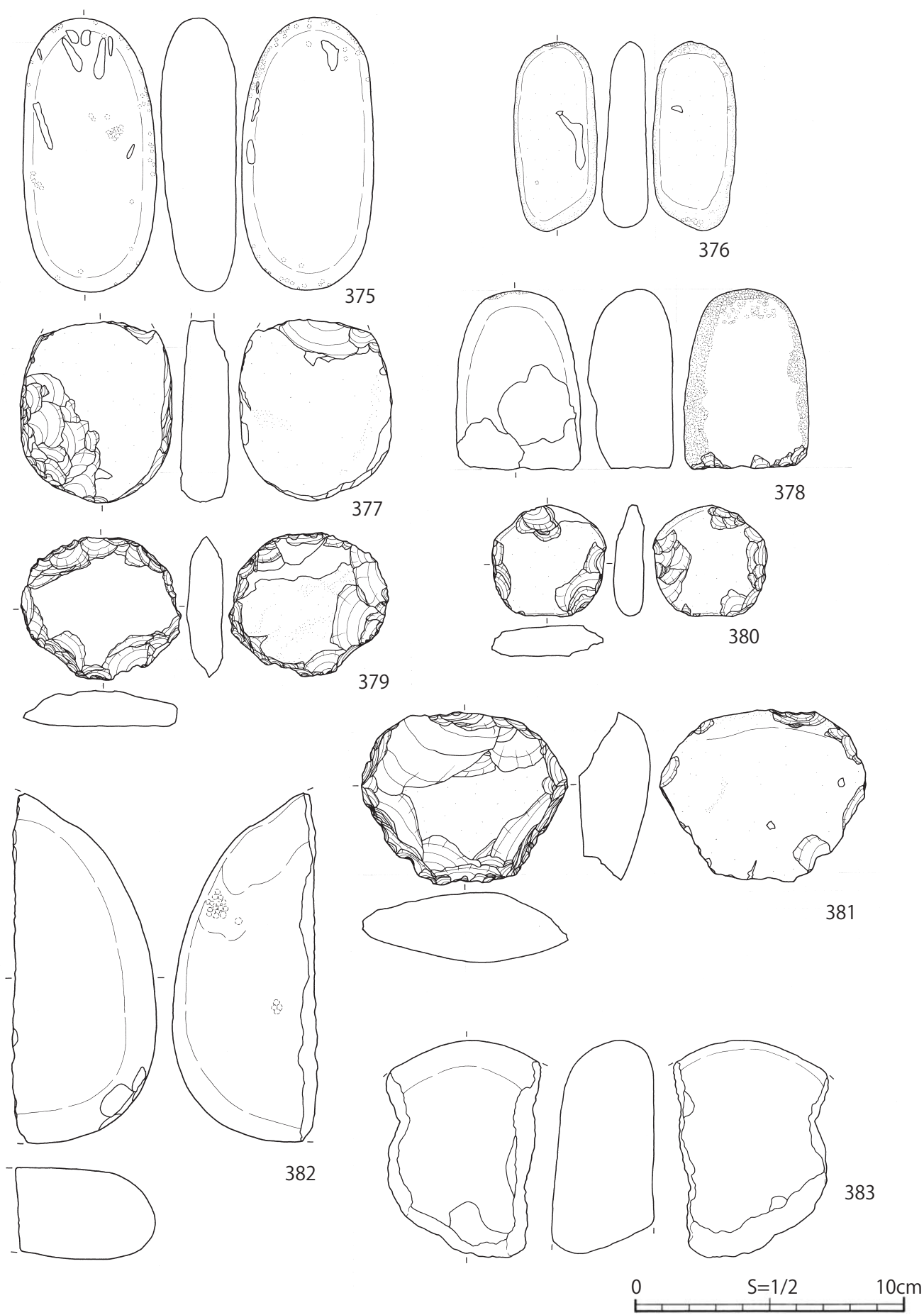


第 76 図 縄文時代後・晩期石器（磨石）実測図



第77図 縄文時代後・晩期石器（凹石・敲石）実測図





第 78 図 縄文時代後・晩期石器（敲石・円板状石器・台石）実測図

やかな「く」の字状をなす。貝殻腹縁刺突文が施されており、385は、二条施文している。内面と、外面の器面調整は、貝殻による調整の後、ナデ調整を行い、文様を施している。1類A-1にあたる。387は、丸みをおびる口縁をもつ。386・389は口唇部が平らに成形されている。いずれも内・外面の器面調整は、貝殻によるものである。1類A-2にあたる。396は、遺構出土である。施文部分は、粘土を継ぎ足している。竹管文が施されている口縁部以外はミガキ調整であり、施文部分は、ナデ調整後、ランダムに施文している。394も同様に内・外面ともに施文部分以外は、ミガキ調整である。竹管文施文部分と、口唇部に赤色顔料が確認できる。3段文様を施している。1類B-iである。393・395は、口唇部に粘土粒を貼り付けている。1類B-iiである。脚部は2点出土している。いずれも、内外面ともナデ調整である。397は、赤色顔料が付着している。

#### 【第2群 磨消縄文系】(第79～81図)

399～431が該当する。402～408は、3-①類にあたる。口唇部をつまみあげ、断面形が鋭角三角形である。いずれも内面に沈線文を施す。409～416は、口唇部は「く」の字状に屈曲し、上端部に平坦面をつくる一群である。412～416は内面に沈線文を施し、409・410は内面が無文であるが、411は粘土を重ね、上端部で折り返すことによって段差を作り出している。412は沈線ではなく、ナデによって、段差をつけている。これらは3-②類にあたる。418・419は、口唇部が屈曲せず、直線的で、上端は平坦である。内面には、一条の凹線を施している。417は内面に2条の沈線を施す。3-③類にあたる。

425～431は胴部である。425～429までの文様モチーフは、平行沈線文+磨消縄文で、425・429の頸部には、連続刺突文が施される。いずれも球形を基調とした器形である。430・431は頸部に平行沈線文、胴部に半円状の沈線文を施す。431は縄目が残っている。447は高杯の脚部である。内・外面ともにナデ調整であり、下部と、頸部に二条の沈線文を施している。また、2段の沈線文には挟まれた、中間に穿孔が確認できる。

#### 【第4群 黒色磨研系】(第83図)

432～439は、凹線が2条のものと、3条のものがある。すべて内・外面ともミガキが施される。432～438はミガキによる凹線文であるが、439は工具によって段差をつくっている。B-1類である。437は、口縁部は短く、頸部からゆるやかに外反する口縁部をもち、下部に明確な凹線文を施す。内・外面ともにミガキ調整が施されている。B-3類にあたる。440～444はB-4類である。440・441は口縁部が長く、442～444は短い。441・443・444は口縁部上端の外面にも沈線が一条入る。すべてミガキによる調整が施されている。445・446は、B-5類である。445は口縁部に凹線が入る。

#### 【第5群 突帯文系】(第82図)

1-①類は、448・449が該当する。口縁部の上端から粘土をかぶせるように継ぎ足し、突帯状に成形する。突帯の断面は、448はM字型で、449は半円形である。1-②類は、450～454が該当し、口縁部に粘土を貼付け、突帯をつまみ出し、突帯状文としている。2類にも突帯文の成形過程に違いが見られる。455～458は、粘土を上端から継ぎ足し、突帯文とし、その下に孔列文を施す。458は、突帯文として認識しづらいが、若干粘土を継ぎ足し、突帯状に成形している。459・460は粘土をつまみ出し、その下に孔列文を施している。461は単純に口縁部に粘土を継ぎ足し、突帯状に成形せずに孔列文を施している。また、穿孔についてであるが、455は、内面まで貫通しているが、その他のものは、途中で穿孔が止まっている。

#### 【第6群 無文系】(第83図)

468～470が該当する。いずれも口縁部の外反は緩やかであり、それに伴い、頸部内面の稜も緩やかである。

#### 【その他】(第83図)

471～476までは、各類型にあてはめるのが困難であった資料である。471・474は、皿の口縁部で474は、二条の沈線を施す。471は、口縁部にナデによる凹みが見られる。外面は貝殻条痕調整の後、ナデ調整を施している。476は深鉢の口縁部で、断面形態が「く」の字状に屈曲し斜め方向の刻みが施される。屈曲部のすぐ下に穿孔が認められる。473は、口唇に沿って貝殻刺突文を施し、外面はさらに二条の沈線を施した

1群 貝殻文系	1類	丸尾式	A 深鉢	1 貝殻による施文
				2 無文
			B 脚台付皿	i 半截竹管文
				ii 突帯文・粘土貼付
				iii 沈線文
				iv 貝殻文
				v i + ii
2群 磨消縄文系	1類	西平式		
	2類	太郎迫式	i 有文	
			ii 無文	
	3類	三万田式 並行期	① 断面三角形、口唇部つまみあげる	
			② 断面三角形、①より鈍角	
			③ ②より鈍角	
	4類	型式分類不可		
3群 沈線文系	1類	直線		
	2類	曲線		
	3類	弧状		
4群 黒色磨研系	三万田式～天城式 並行期		A 鉢	1 胴部から口縁部が屈曲して立ち上がる。口縁部が文様帯。
				2 胴部の上に内湾する頸部がある。口縁部は頸部から直線的に立ち上がり、口縁部と胴部最大径が文様帯。
			B 浅鉢	3 胴部の上に内湾する頸部がある。頸部からゆるやかに外反する口縁部が続く。
				4 3よりも口縁部が長く、外反する。
				5 屈曲する胴部から「く」の字形の口縁部が続く。
		C 注口土器		
	D 高坏	i 沈線文		
		ii 凹線文	① 2本 ② 3本 (一) 凹線間丸い (二) 凹線間の稜上尖る	
		iii 無文		
5群 突帯文系	1類	無刻目突帯文	① 口縁部上端から粘土継ぎ足し→突帯状に成形	
			② 突帯部つまみだし	
			③ 突帯断面半月形	
	2類	無刻目突帯文+孔列文		
	3類	刻目突帯文		
6群 無文系	1類	やや外反する口縁部+ゆるやかに屈曲する胴部		
	2類	やや外反する口縁部+砲弾形の胴部		

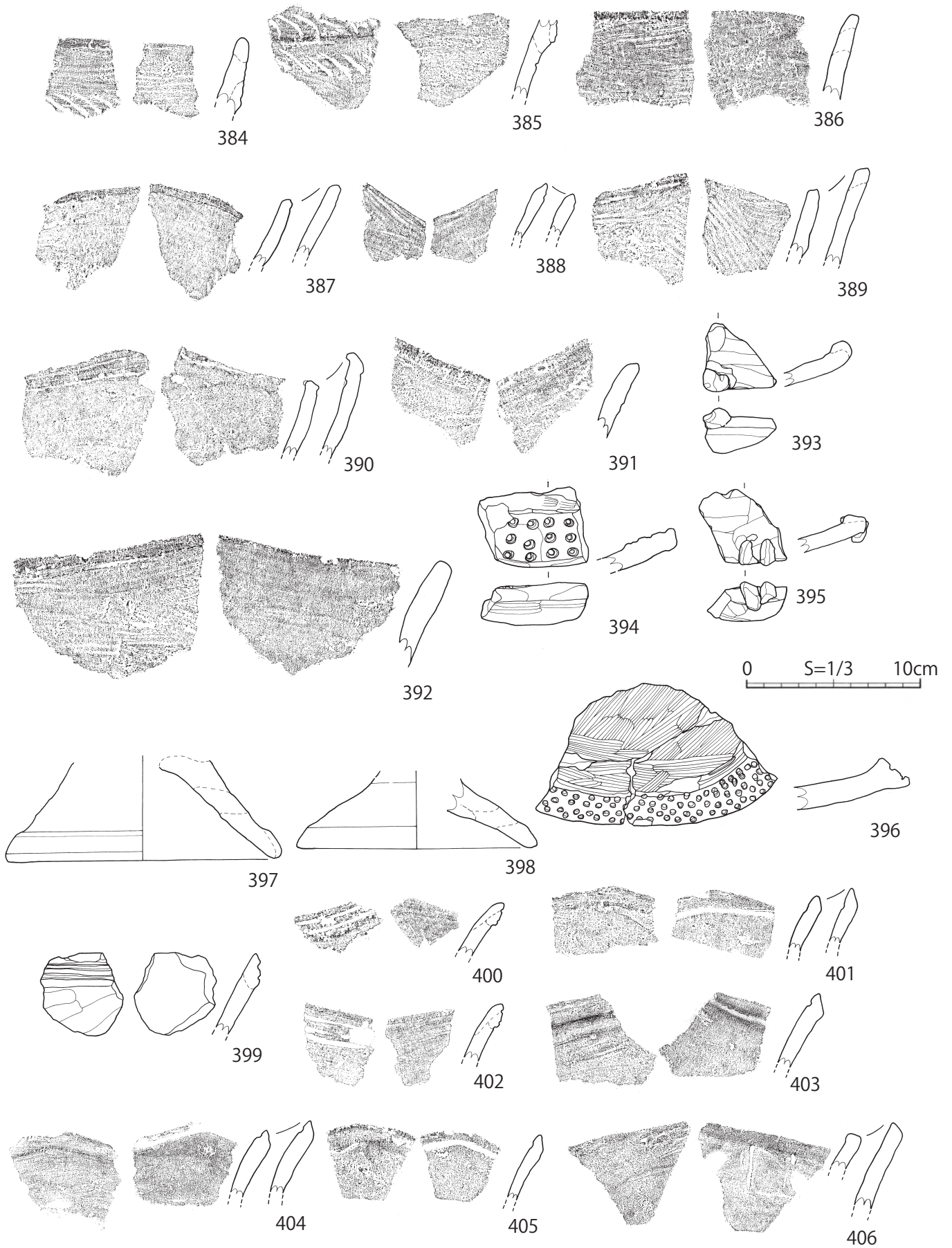
底部

1類	形態	①	大ぶりの底部から直線的な胴部へと至る。
		②	張り出しのある①
		③	小型の底部からゆるやかに張り出した胴部に至る。
2類	接地部	①	接地部が鋭角
		②	接地部が鈍角
		③	接地部が平坦

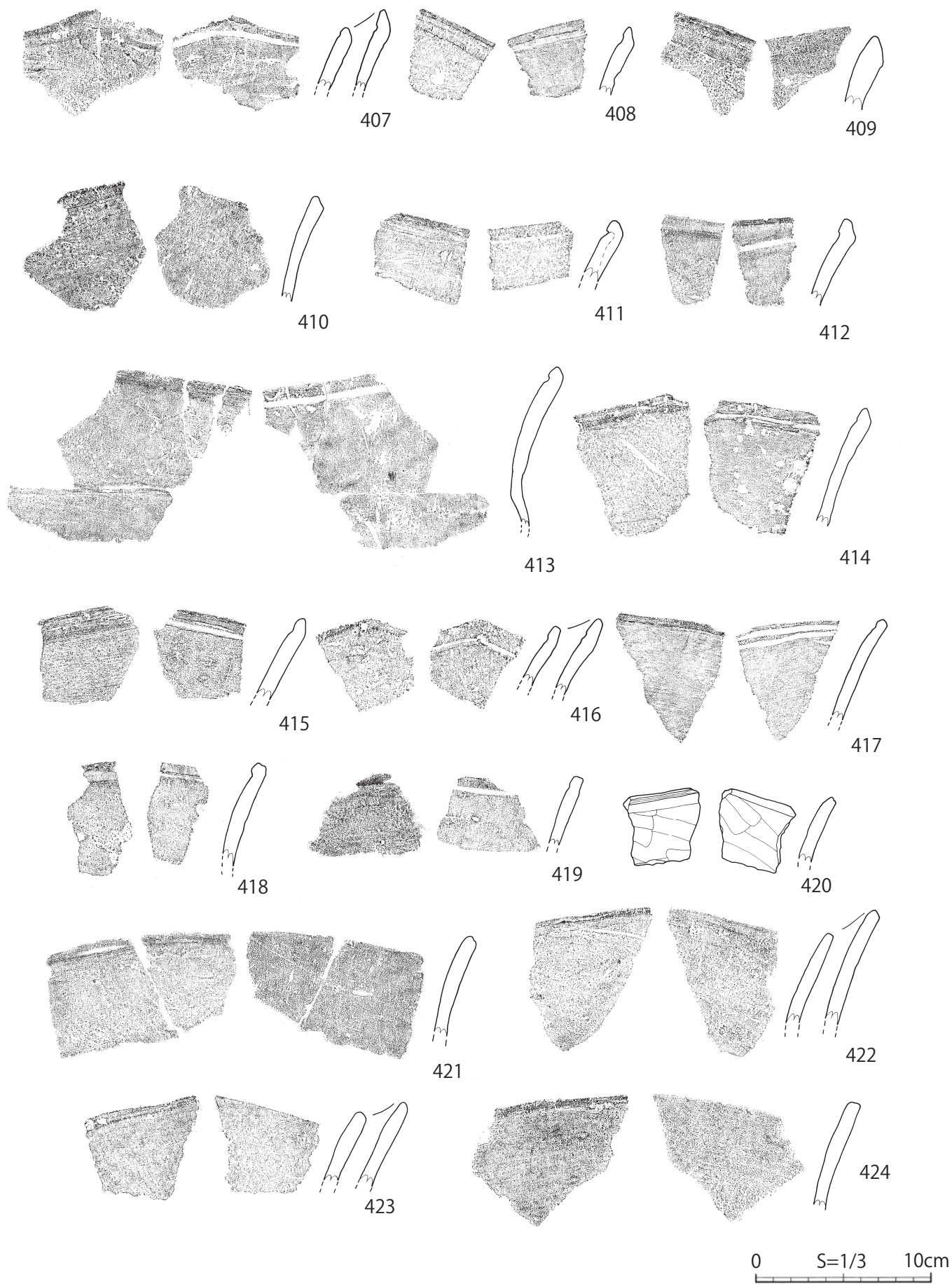
土器片錘

平面形態	1類	楕円形
	2類	方形（隅円方形）
紐掛部の位置	A	長軸側
	B	短軸側

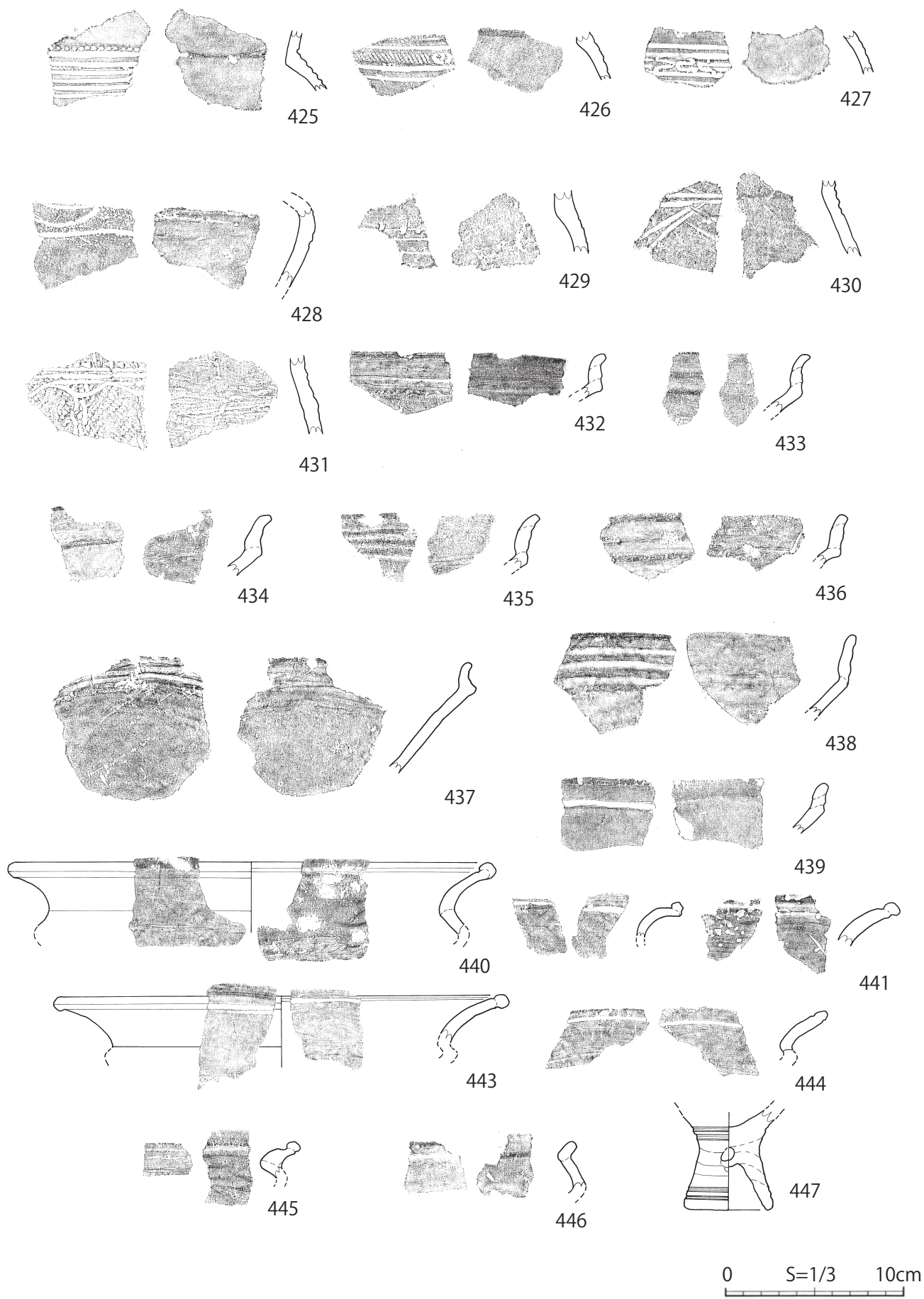
第5表 縄文時代後・晩期土器分類表



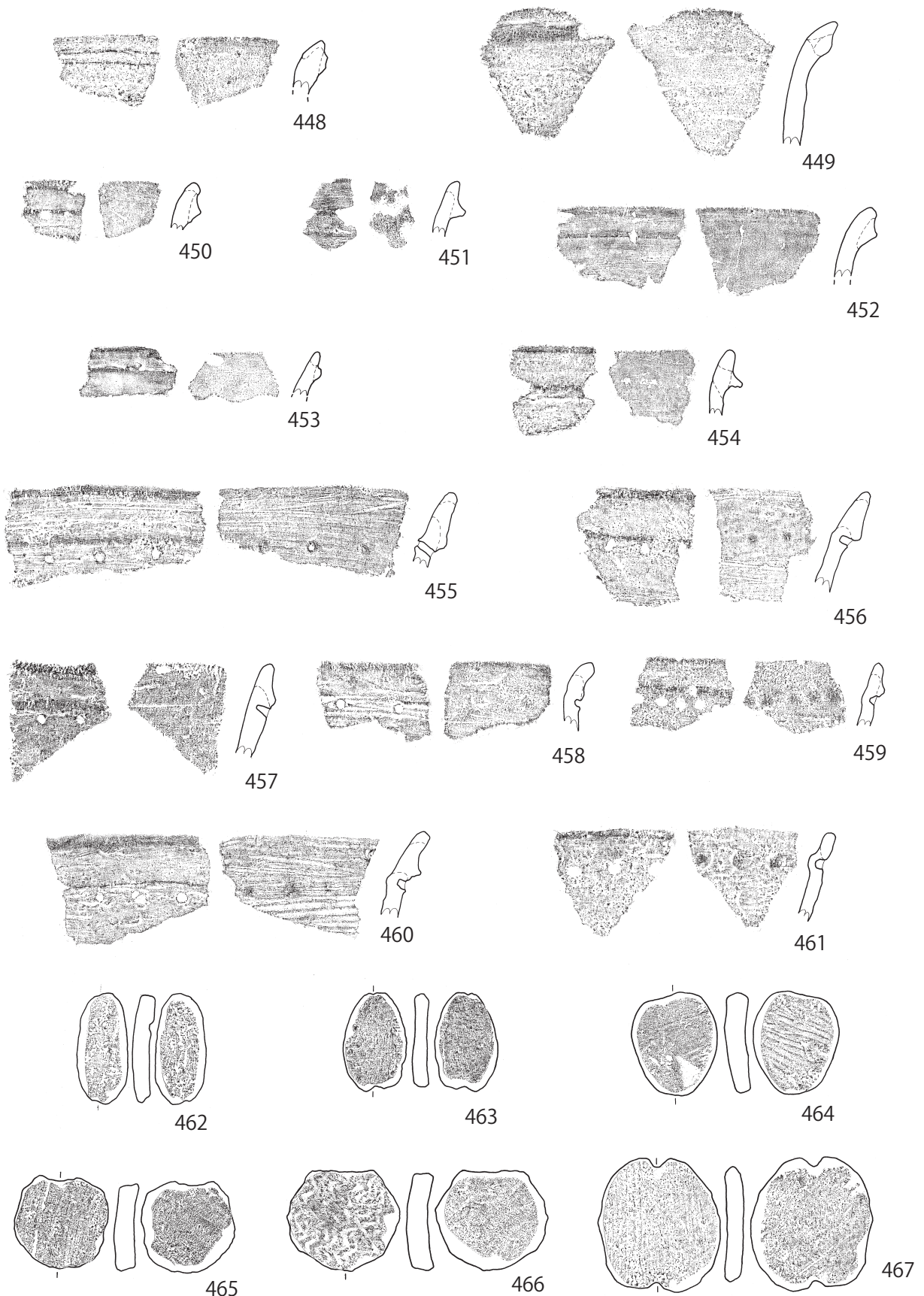
第 79 図 縄文時代後・晩期土器（第 1・2 群）実測図



第 80 図 縄文時代後・晩期土器 (第 2 群) 実測図

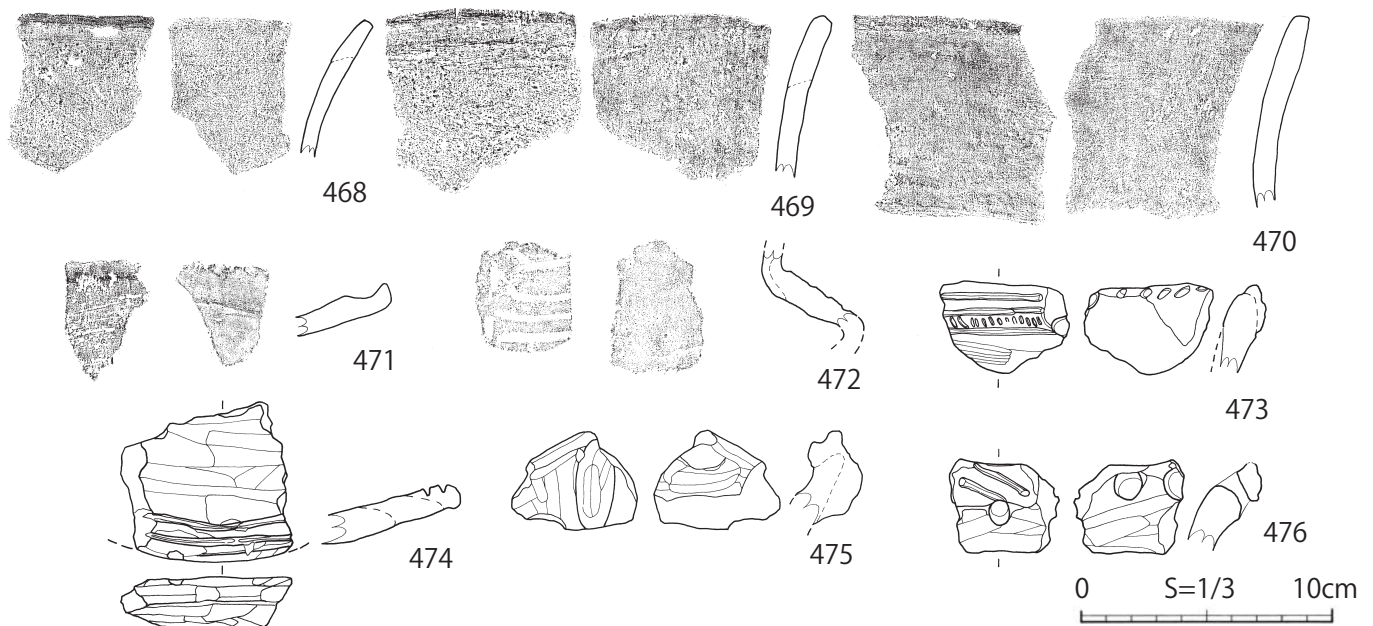


第81図 縄文時代後・晚期土器(第3群)実測図



0 S=1/3 10cm

第 82 図 縄文時代後・晩期土器（第 5 群・土器片錘）実測図



第 83 図 縄文時代後・晩期土器 (第 6 群・その他) 実測図

後、貝殻刺突文を施している。その下には、一条の沈線が施されており、内面はミガキ調整である。外面の調整より内面の調整は丁寧であり、穿孔は口唇部に対してほぼ垂直に穿たれているため、脚台付皿の皿部の類と推測される。472は胴部が強く屈曲し、幅の狭い施文帯に磨消縄文を施す鉢の肩部であろうか。475は口縁部に楕円形の突起を持っている。

【土製品】(第82図)

土器片錘

462～464は1-A類である。462・463は長楕円形で、小ぶりである。内・外面とも、ナデ調整が主体である。464は内面が貝殻条痕調整であり、第1群の土器を転用し、整形した可能性が高い。

467は大型のものである。内・外面ともナデ調整が主体である。一部、被熱によるものである可能性が高い変色が見られる。465は口縁部を転用したものであり、外面には、沈線が施され、一部ナデ調整により、潰れている。466は、横走する山形押型文の深鉢の口縁部を転用し製作したものである。

【底部】(第84・85図)

底部に関しては、一次調査の報告にもあったように、完形が出土していないためどの底部が、どの類型と組み合わせるのか、特定するのは非常に困難である。よって、ここでも底部は文様主体の分類ではなく、器形による分類をおこない報告することとする。

1類 平底

① (第84図477～480)

平底である。477は若干括れが見られるが、ほぼ直線的に胴部へ立ち上がる。底部から胴部への立ち上がり部分は、①底面内部、②底面もしくは底面外周、③胴部のパーツに分け、粘土を積み成形している。

② (第84図481～486)

底部が張り出す一群である。張り出した部分、あるいは、括れ部分に粘土を継ぎ足すのが特徴である。

③ (第84図487～497)

底部から緩やかに張り出した胴部をもつ一群である。底面は丸型の粘土で、そこから粘土紐を積み上げて胴部を成形している可能性が高い。

2類 上底

① (第84・85図498・499)

底部の設地面が鋭角である。出土量はきわめて少ない。底面の外周に粘土を継ぎ足し、底部から胴部を成形する際のナデ調整により設地面が鋭角になっている。

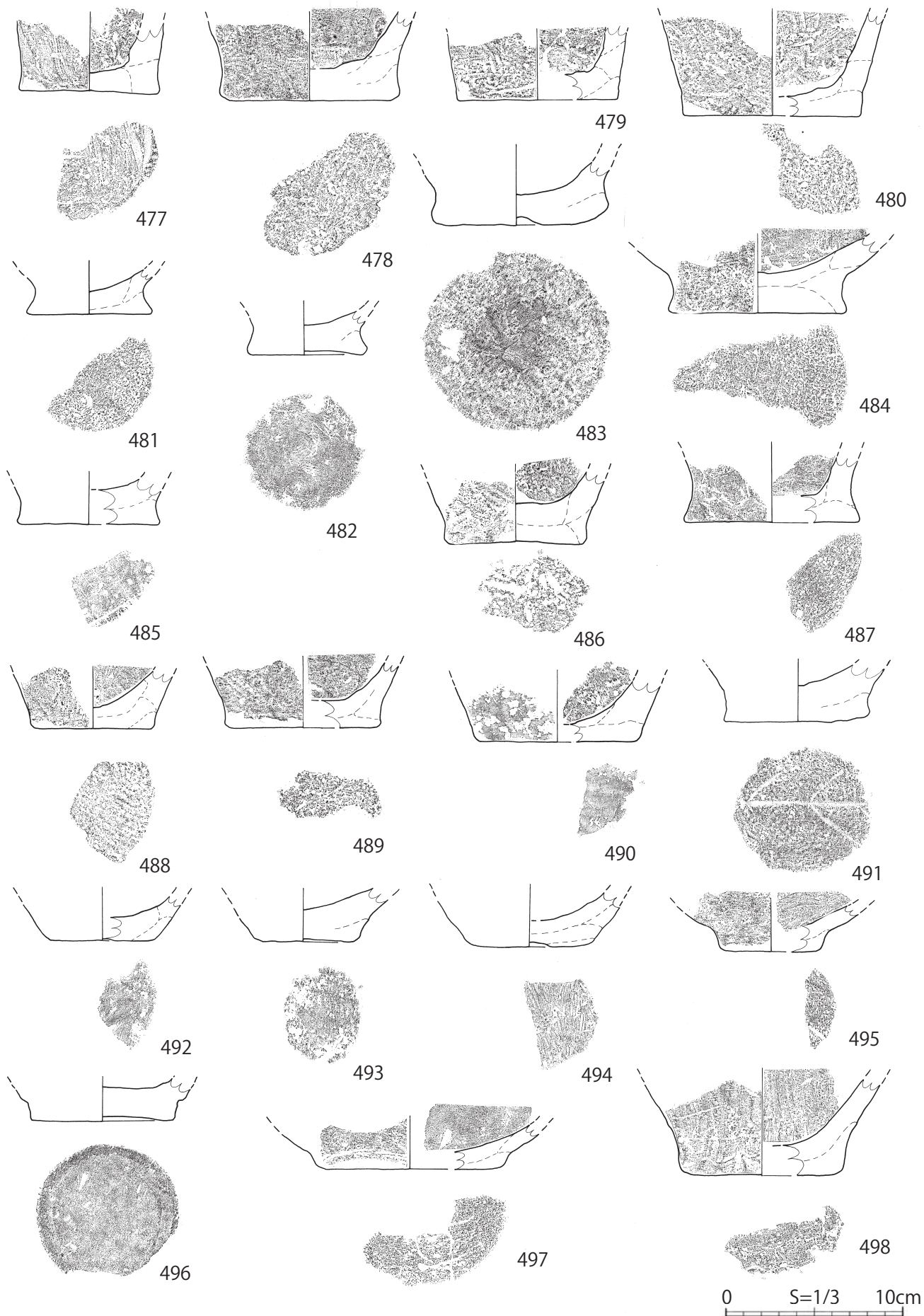
② (第85図500～509)

底部の設地面は鈍角である。基本的には①と成形手法は同様である。503は乾燥により、粘土の接着がうまくいっておらず、底部を残し、きれいに剥離している。調整はミガキ調整のものもある。

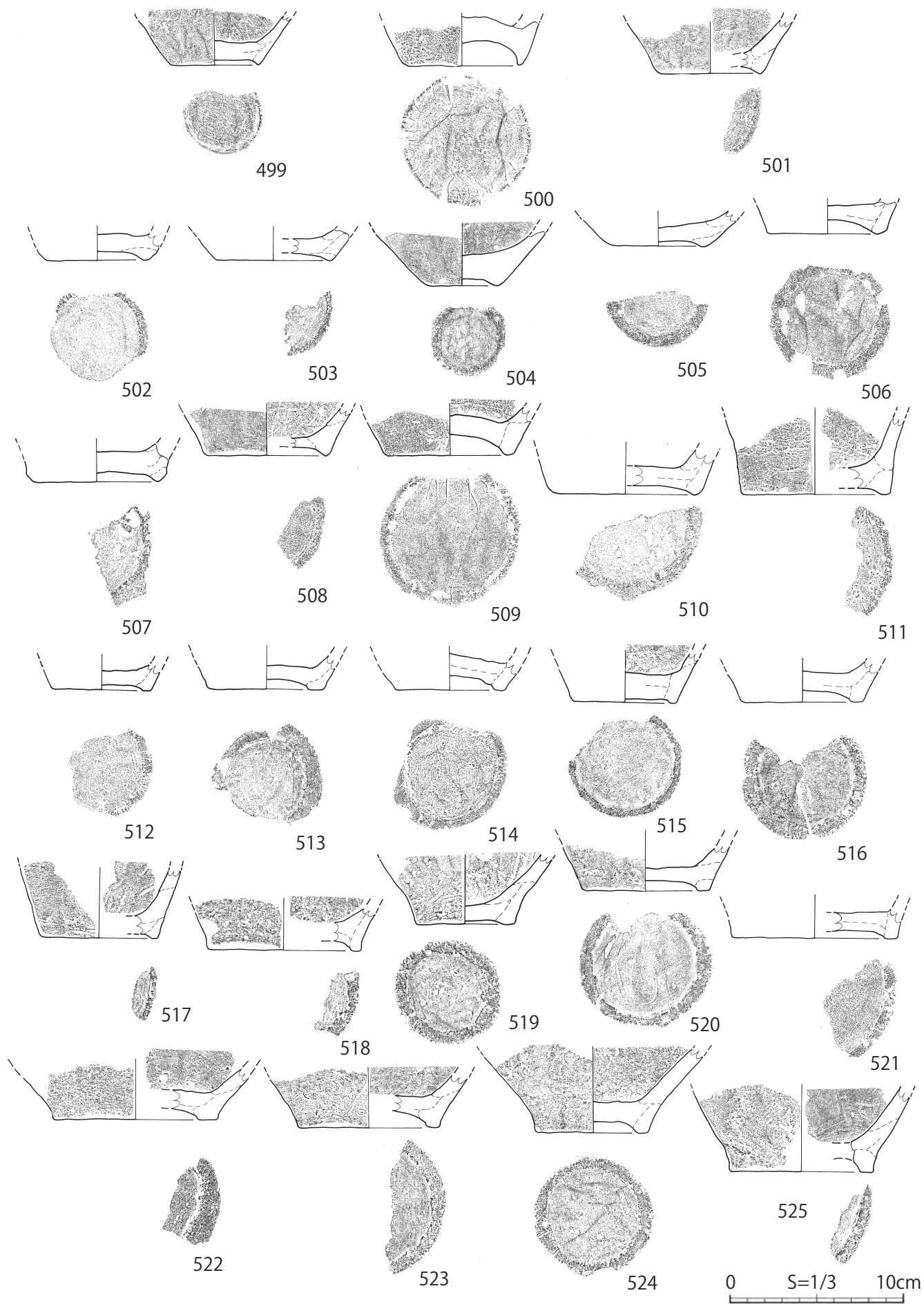
③ (第85図510～525)

出土量が多い一群である。設地面は、底面の外周に粘土を継ぎ足し、底面を平らに成形している。内部に丸くススが付着しているものが多い。





第 84 図 縄文時代後・晩期土器（底部 1 類）実測図



第 85 図 縄文時代後・晩期土器（底部 2 類）実測図

## 第3節 古墳時代以降の遺構と遺物

### 古墳時代の遺構と遺物

#### 【竪穴住居跡】(第86図)

今回の調査では、一次調査のA区で一部確認できていた竪穴住居跡の続きを検出している。

一次調査では、二軒が切り合うと予想されていたが、掘り上げた最終形態が、一次調査時に記録していたプランと軸が一致し、土層堆積状況からも二軒が切り合うような様子が見受けられなかったため、二次調査では一軒の住居跡として記録した。

遺構番号は、一次調査の際つけられた「SA8」としている。4×4mの方形で、中央部分に不定形の凹みを持ち、壁帯溝がめぐる住居跡である。南西側に1×1.5m、深さ約1mの土坑が掘り込まれている。壁に沿って掘られているものであり、土層の堆積状況からも竪穴住居に伴う住居内土坑と判断している。

#### 【遺物】(第87図)

遺物は、埋土中及び床面直上から甕、鉢、高坏などが出土している。また、瑪瑙の小玉も出土している。そのうち、床面直上の遺物としているものは、甕、鉢、高坏であり、そのうち6点図化している。526・527は鉢で、525はミニチュアの鉢である。527は底部が特徴的で、底面を指で押し、上底にしている。528は高坏である。外・内面とも調整は摩滅しており、不明瞭である。529～531は甕である。外面調整はタタキが主体で、内面はハケ目調整とナデ調整の2種類ある。528・529は他の住居跡から出土したものより、小ぶりである。532は、瑪瑙の小玉である。穿孔部の周囲に、研磨されずに、剥離面が残っている。遺物の出土状況は床面直上で、甕、鉢それぞれ住居跡の南東側に集中しており、中央部分には遺物はほとんど見られなかった。

一次調査では、住居の廃絶時期を甕の編年に頼っており(文献12)、口縁部形態が「く」の字状になり、頸部の稜線が明瞭なA類と、A類よりも立ち上がり角度が大きく直立気味に緩やかに広がり、頸部の稜線が不明瞭なB類の2種類見られることからSA10との切り合い関係を指摘している。一次調査で出土資料の中で、明らかに時期の異なるものは頸部の稜線は不明

瞭で外面のタタキ調整が見られないものが1点ある。しかし、出土状況および、層の詳細が明らかではない。その他は、二次調査出土の529は、内面にハケ目調整があるが、外面はタタキ調整を行うものの、粘土紐接合痕を消しきれておらず、同様のものが一次調査の資料でも確認できている。また、中型品のサイズではあるが、内面はナデ調整で頸部の屈曲も緩やかになるといった一次調査時報告の1551などを挙げると、今塩屋・松永編年でいう4期の範囲内ととらえることができる。このことから、SA8の廃絶時期は5世紀中頃を想定したい。

### 古代以降の遺物

表土中から、古代の遺物が出土している。いずれも小片であるため、図化したものはわずかである。

#### 【須恵器】(第89図533～534)

2点のみである。533は埴である。534は高台付埴の蓋で、回転ナデ後ケズリが一部見られる。内面が硯として使用されている。

#### 【陶磁器】

出土したものは全て表採資料で、図化に耐えうるものが少ないため掲載していない。

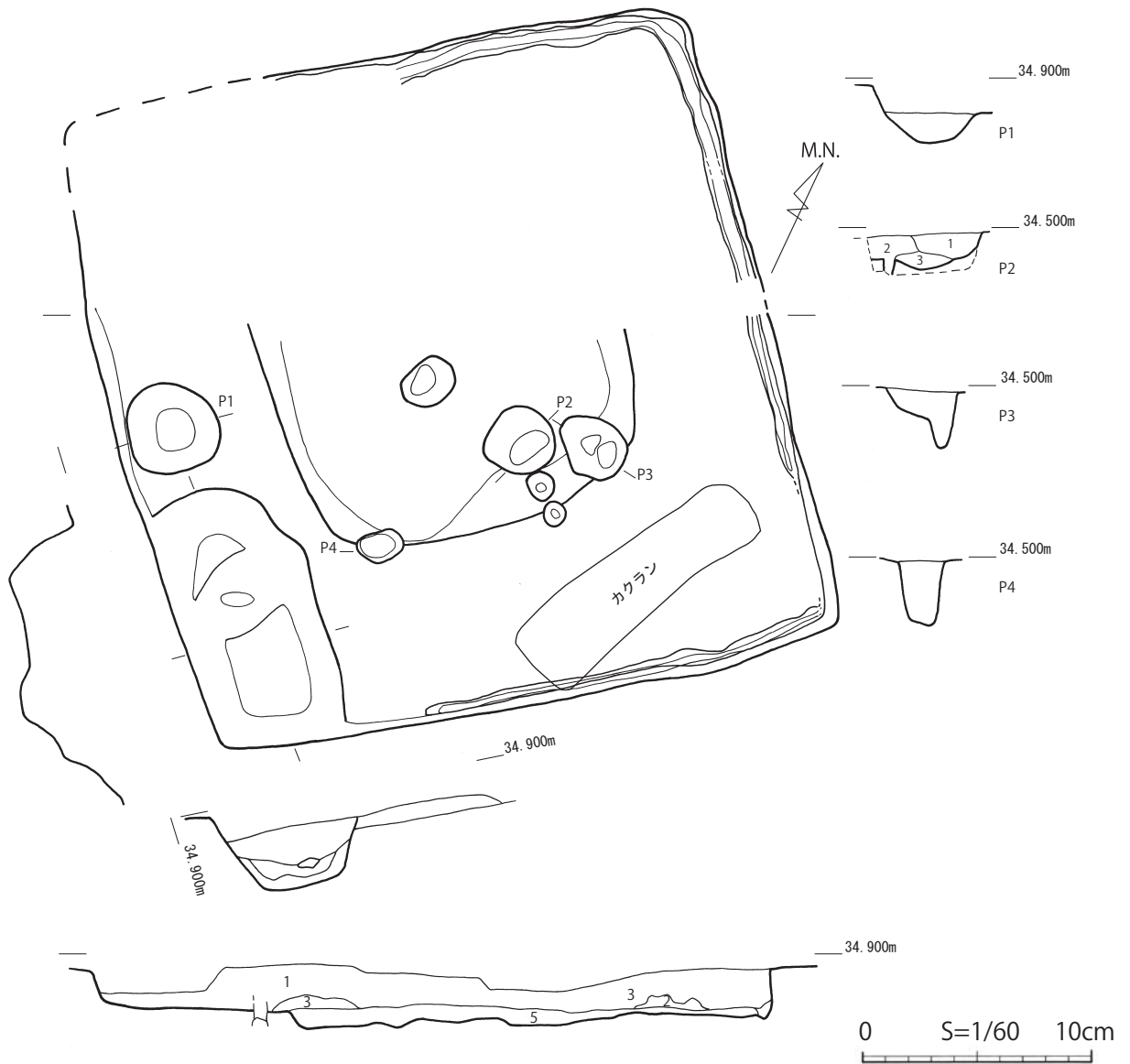
## 第4節 その他の遺構と遺物

### その他の遺構

二・三次調査では、溝を3条検出している。その中には、一次調査で、報告されている溝状遺構の続きがF区北側で見つかっている。プランははっきりせず、深さも浅いため溝というよりも流路に近い。また、F区で時期不明の溝が、H区では近代以降の遺物を多く含む溝が検出されている。

### その他の遺物

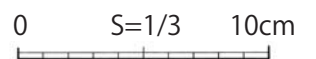
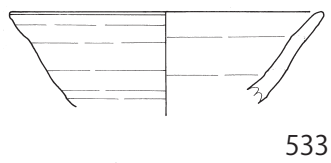
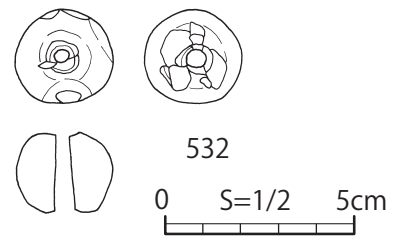
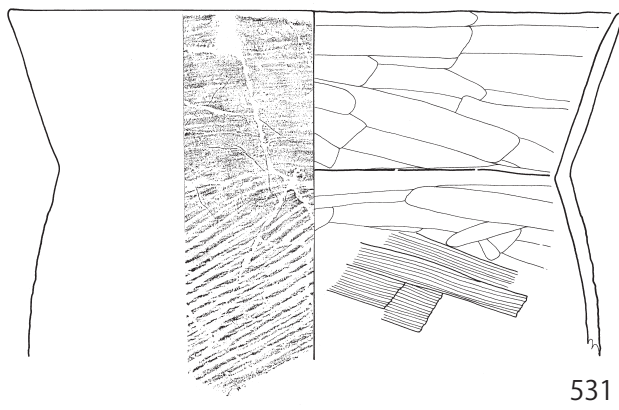
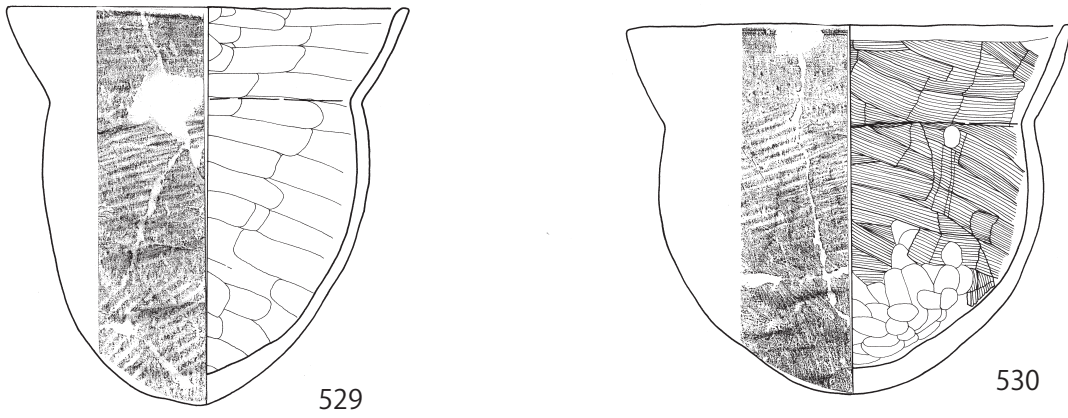
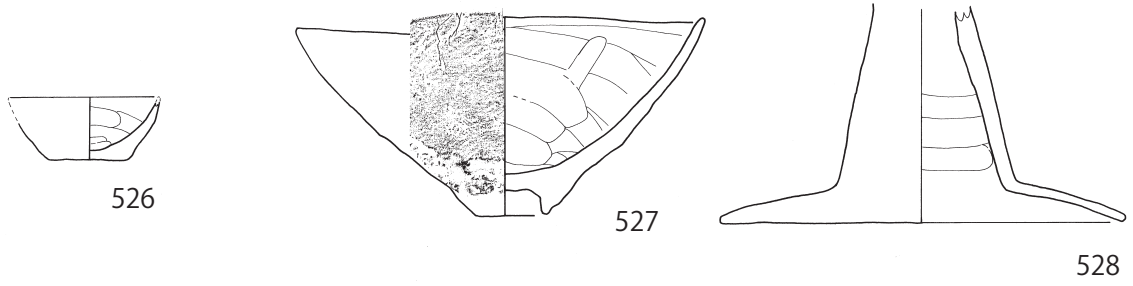
その他遺物としては、三次調査中に表土から「南部8mm弾」の不発弾が表土から出土している。8mm(弾頭直径)×21mm(莖莢)の銃弾である。ドイツでは弾頭が9mm、アメリカでは0.45インチのものを使用しているため、この銃弾は、日本軍使用の銃弾であるといえる。使用拳銃として挙げられるものは十四年式拳銃か九十四式拳銃である。第二次世界大戦関連の遺物では、南中原第1遺跡(一・二次調査)出土の認識表や銃剣がある。



SA8

- 1 黒褐色 (7.5YR2/2) しまり強い、粘性弱い、φ 5cm程度の暗褐色土ブロック (Kr-Kb 由来か) 少量含む。
- 2 黒褐色 (7.5YR2/2) しまり強い、粘性弱い、φ 5cm程度の暗褐色土ブロック (Kr-Kb 由来か) 中量含む。
- 3 黒褐色 (10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、φ 5cm程度の暗褐色土ブロック (Kr-Kb 由来か) 少量含む。
- 4 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや弱い、粘性やや強い、壁溝埋土か。
- 5 黒褐色 (10YR3/2) しまり非常に強い、粘性弱い、φ 5cm程度の暗褐・黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや強い、粘性弱い。
- 7 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い。

第 86 図 古墳時代 SA 8 実測図



第 87 図 SA 8 出土遺物・古墳時代以降の遺物実測図

## 第Ⅳ章 調査成果と課題

### 第1節 縄文時代早期の遺構について

野首第2遺跡の縄文時代早期の遺構で主なものは、炉穴と集石遺構である。今回の報告では、一次調査分も含めておこなっているため、検討対象数は多く、遺跡内である程度の傾向を見いだすことができた。

以下では、本遺跡でみられる集石遺構の形態と集石遺構・炉穴の分布状況について、若干の考察を行っている。

#### 集石遺構について

本遺跡で集石遺構として認定しているものは、一～三次調査を含めて206基である。これらは、Ⅲ章で述べたように、5タイプに分類することができた。

#### 配石と土坑の形状

配石を有する集石遺構は、47基検出されており、本遺跡での検出数の約3割を占めている。土壌消失現象により削平を受けていたり、二次的な移動が考えられる上部の礫と同様の条件が考えられるⅠ類は今回の検討対象から外し、製作者の意図が反映され、かつ削平・二次的移動の影響を受けにくい配石と土坑の底面形状について検討していきたい。

#### 【Ⅱ類】

配石を持つⅡa類は、土坑の形状・規模にばらつきがある。配石の配置方法も幅広の底面に扁平であることは共通しているが、大きさが一定ではない礫を平置きするものが多い。Ⅱa類は配石をされているものの、その配置の規則性は乏しい集石遺構と考えられる。

#### 【Ⅲ類】

Ⅲa類の土坑は、検出面から30cm以上掘り込まれているものが多く、最も深いもので75cmを測る。上部が土壌消失現象の影響を受けたと仮定すると、掘り込みはさらに深いものであったことが想定できる。このような深いものは、すべて底面に向かって先細りしていくのが特徴である。その中で、今回の分類では細分しなかったが、S I 61のように、土坑の下部に配石が収まる程度のさらに小さな土坑をもつものが確認されている(第41図)。このタイプの土坑を便宜上「二段土坑」

としておく。「二段土坑」の配石は底面中央に礫を平置きし、それを囲うように、壁に沿って配置する方法がほとんどであり、Ⅲa類全体を通して配置は「二段土坑」に見られる配石の配置方法は共通するものである。二段土坑も含め、底面に向かって段状に狭く掘り込むⅢ類は、同一類型内の配石の配置方法の共通性から、配石をあらかじめ想定した集石遺構であると言える。また、配石に使用される礫に注目してみると、Ⅲa類の配石に使用される礫はどれも扁平で、人頭大以上のものである。重量も上部の礫やⅡa類の礫と比較すると格段に重く、安易に持ち運ぶことが難しいものばかりである。このような礫は、河原か礫層が露出する場所までわざわざ調達しにいかなければ手に入らない礫である。持ち運びが難しい礫を調達する労力を考えると、配石を置くことをあらかじめ想定し、極力少ない回数で礫を調達したと考えるのが妥当である。今回の調査では検討に耐えうるデータの集積がなされていないため、今後のデータ収集の視点として提示するにとどめたい。

#### 【野首第2遺跡出土の集石遺構の性格】

物的根拠が乏しいため、集石遺構の機能まで言及することは難しいが、Ⅲa類は土坑の大きさや形態、配石方法について同一の規格をもった集石遺構であり、用途は限られたものであろう。平面規模や配石の有無にばらつきがあるⅡa類は、Ⅲa類に見られるような規格性の強い集石遺構ではなく土坑は大小様々であり、用途に応じて規模や規格が変化した集石遺構であった可能性もある。

#### 【炭素14年代測定と集石遺構】

清武町の滑川第1遺跡では、炭素14年代測定の結果と、集石遺構の特徴から使用時期の時期大別を行っており、川南町の尾花A遺跡でも検討の結果、滑川第1遺跡と同様の結果が得られている。本遺跡でも、13基の集石遺構に対して炭素14年代測定法を実施している。その中で、8200～8400年BPにかけての集石遺構は、土坑・配石を伴うものであることがわかっている。

ただし、上記の2遺跡のように集石遺構に伴う土坑形態の特徴と年代測定の結果からⅡa類とⅢa類の使用時期に明確な差を確認することができなかった。

## 集石遺構と炉穴の展開

### 【集石遺構の展開】

本遺跡の集石遺構の分布範囲は、主にA区に中心に押型文土器を伴う集石遺構が集中する傾向にある。B・C区には集石遺構はほとんど見られないが、G区の南側に3基、H区に2基、E区に20基と再び集石遺構が展開している。C・E区で検出された集石遺構は、貝殻痕文土器を伴うものである。また、北側にⅢa・b類の分布範囲は収まり、南側にはⅢ類の集石遺構がなく集石遺構形態ごとにも分布の差がみられる（第35図）。

### 【炉穴の展開】

本遺跡で確認された炉穴はA・I区を中心に北側に多く分布し、B・C区は空白地帯である。南側は、H・E区に分布している。集石遺構と同様の状況であり、お互いを切り合うことは少ない。基本的に集石遺構の密度が低い場所に炉穴は分布している。

本遺跡の炉穴は、赤化面を一つしかもたない単独のもの、複数もつものとは大別できる。また、第Ⅲ章でも触れたとおり、底面がVI層（AT層）のものとV層のものがある。V層を底面とするものは明確な赤化面は存在しないが、埋土の質感や炭化物を含むなどの特徴から炉穴と断定している。一次調査でも同様に明確な赤化面を持たないが炉穴が確認されている。

また、複数の赤化面を持つ炉穴のそれぞれの先後関係に関しては、極めて近い時期に複数の土坑を掘削したためか土層断面では切り合いは確認できなかった。

### 【集石遺構と炉穴の分布】

集石遺構と炉穴の先後関係については、A・I区で見られる限りでは、炉穴→集石遺構、集石遺構→炉穴の両方が確認できるため、集石遺構と炉穴は一定の期間内に両者が存続していることがわかる。しかし、北側調査区のA・I区に分布する集石遺構はⅢ類が主体であり、南側調査区であるC・E・H区にはⅢ類は存在しないことや、出土土器や検出数の違いは明確であり、遺跡の中央部を空白地帯とし、遺跡の北南で空間利用の違いがある可能性が高い。

## 今後の課題

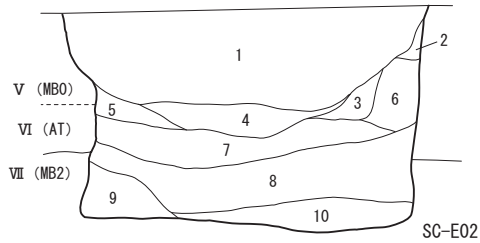
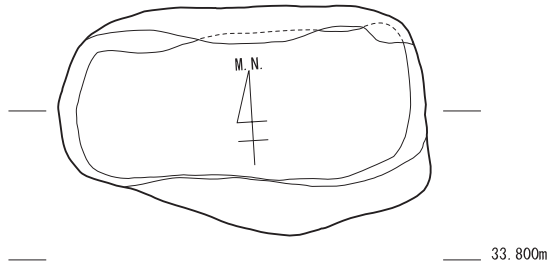
今回の調査により、本遺跡における縄文時代早期の遺構の粗密は、上に挙げたように遺跡の北側と南側に

偏って分布することがわかり、縄文時代早期における本遺跡の空間利用の一端を検出することができた。

しかし、本遺跡の特徴として、縄文時代早期の層は「土壌消失現象」によって削平を受けていることが挙げられる。よって、I群及び、配石を持たないⅡb、Ⅲb群、また炉穴に伴う土器との関連性の評価は難しいという問題もあるため、時期によって遺跡内で空間利用がどのように変遷するかは検討できていない。

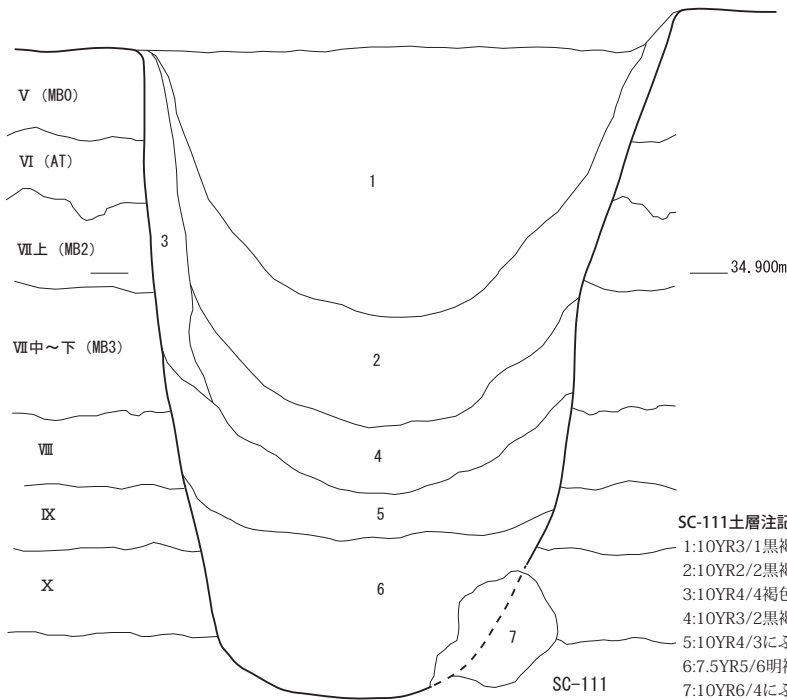
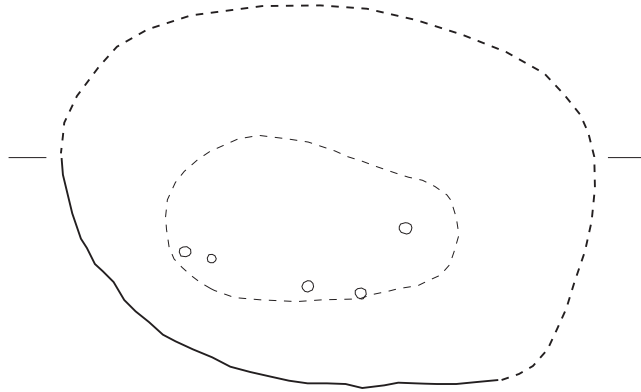
## 陥し穴状土坑の分布

本遺跡では一次調査において、陥し穴状土坑が2基確認されている。検出面に違いがあるため、深さにはばらつきがあり、底部に逆茂木の痕跡もみられない。陥し穴の厳密な時期比定は難しいが、いずれの土坑も、小林軽石を含む埋土から、小林軽石降灰以降、アカホヤ降灰以前のものの可能性が高く、後期旧石器時代終末～縄文時代早期の範囲に収まる。



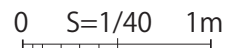
**SC-E02土層注記**

- 1:10YR3/3暗褐色土。しまり・粘性が非常に強い。直径1mm程度の黄橙色・白色粒を非常に多く含む。
- 2:10YR3/4暗褐色土。しまり・粘性が非常に強い。直径1mm程度の黄橙色・白色粒を非常に多く含む。
- 3:7.5YR3/4暗褐色土。しまり・粘性がやや強い。ザラザラした感触。直径1mm程度の黄橙色・白色粒をやや多く含む。
- 4:10YR3/3暗褐色土。しまり・粘性がやや強い。ザラザラした感触。浅黄橙色ブロックを斑状に含む。
- 5:10YR3/4暗褐色土。しまり・粘性がやや強い。直径1mm以下の白色粒をやや多く含む。
- 6:10YR3/2黒褐色土。しまり・粘性が強い。黒色ブロックを斑状に含む。直径1mm以下の白色粒をやや多く含む。
- 7:10YR3/4暗褐色土。しまり・粘性がやや強い。ザラザラした感触。直径1mm以下の白色粒をやや多く含む。
- 8:10YR3/2黒褐色土。しまり・粘性が強い。浅黄橙色ブロックを斑状に多く含む。
- 9:10YR3/2黒褐色土。しまり・粘性が強い。ザラザラした感触。
- 10:10YR4/3にぶい黄褐色土。しまりが強く、粘性が非常に強い。ネジリ鎌で削るとケバ立つ土質。



**SC-111土層注記**

- 1:10YR3/1黒褐色土。しまりが非常に強い。小林軽石粒を非常に多く含む。
- 2:10YR2/2黒褐色土。しまりが非常に強い。小林軽石粒をやや多く含む。
- 3:10YR4/4褐色土。しまりが非常に強い。小林軽石粒をわずかに含む。ブロック状に崩壊。
- 4:10YR3/2黒褐色土。しまりが強い。オガクズ状に剥落。一部にラミナ構造。
- 5:10YR4/3にぶい黄褐色土。しまりが強い。ブロックの集合。一部にラミナ構造。
- 6:7.5YR5/6明褐色土。しまりが弱い。ラミナ構造。
- 7:10YR6/4にぶい黄褐色土。粘性が強い。遺構の崩落。X層を母体とし、部分的に7層の土壌が混入。



第 88 図 縄文時代陥穴状遺構実測図



## 第2節 黒曜石の原石について

本遺跡では、F区で桑ノ木津留産と推定される黒曜石が65点出土している（すべて肉眼観察による）。いずれも剥離面はほとんど見られない原石であった。出土層位は、IVb層～V層に集中しており、出土状況もまとまりが見られる（第90図）。これらは、出土層位からすると後期旧石器第VI～VII期の遺物としてとらえられるのだが、層位が下層になるにしたがって数が少なくなるといった円錐形状の出土状況から、ピット状の掘り込みを掘り、その中に原石を埋めたとも考えられる。しかし、調査段階ではピットの存在や、それを掘り込んだ面が特定できない状況であった。また、本遺跡では細石刃だけではなく、石鏃でも桑ノ木津留産の黒曜石を素材とするものもあるということからも、出土原石が後期旧石器時代のものか縄文時代のものかといった時期の確定が難しいことが問題である。

### （1）法量について

本遺跡で出土した65点の原石の形状は縦長が多く、最大長の平均2.34cm、最大幅の平均1.79cm、最大厚の平均1.2cm、重量の平均4.81gと、親指の先ほどの大きさの原石が多い。少量だが、石器製作には適さないような小型のものもある（第91・92図）。

### （2）県内出土黒曜石の石材組成

以下では、数点程度の製品のみ出土しているものは省き、素材の搬入や、遺跡内で石器製作した可能性を示す原石・石核・剥片が一定量出土している遺跡を挙げ、概要を述べる。

#### 【後期旧石器時代】

後期旧石器時代における黒曜石の利用は主に細石刃製作である。ただし、現段階で、原石での流通は認められず、遺跡内で見られるものは、細石刃核・細石刃が主であり、遺跡内から原石の状態出土する例は1.2点と少ない。細石刃製作に利用される黒曜石の種類は桑ノ木津留産が大半である（文献17）。

#### 【縄文時代】

縄文時代では、早期において石鏃・楔形石器・異形石器などの小型の素材として黒曜石が利用されている。

県内で確認されている原石が出土している遺跡はえ

びの市妙見遺跡と宮崎市天ヶ城跡と本遺跡の3遺跡のみである。いずれも50点以上の原石がまとめて出土している。その中に石器製作に適さない小型の原石が含まれることは注目すべき点であり、交易を考える上で重要な視点となるだろう。

### （3）出土原石の用途について

#### 【石器素材としての黒曜石】

宮崎県内における桑ノ木津留産黒曜石の原石を素材とする石器は細石刃、もしくは石鏃である。細石刃の素材として搬入されたと考えると、一次調査で出土している石核や細石刃の存在から、本遺跡出土原石は細石刃の素材として搬入した可能性が高いことが伺える。ただし、接合関係による十分な検討がなされていないため、可能性域を越えない。また、打製石鏃に関しては、出土したものはすべて製品であったことや、接合関係が不明瞭のため、調査区内で製作した可能性はきわめて低い。よって、石鏃の素材として搬入されたとはいえがたい。いずれにしても、本遺跡内での石器製作状況が明らかでないため、現段階では積極的に出土原石を石器製作のために搬入されたものと評価するに至っていない。

#### 【交換財としての黒曜石】

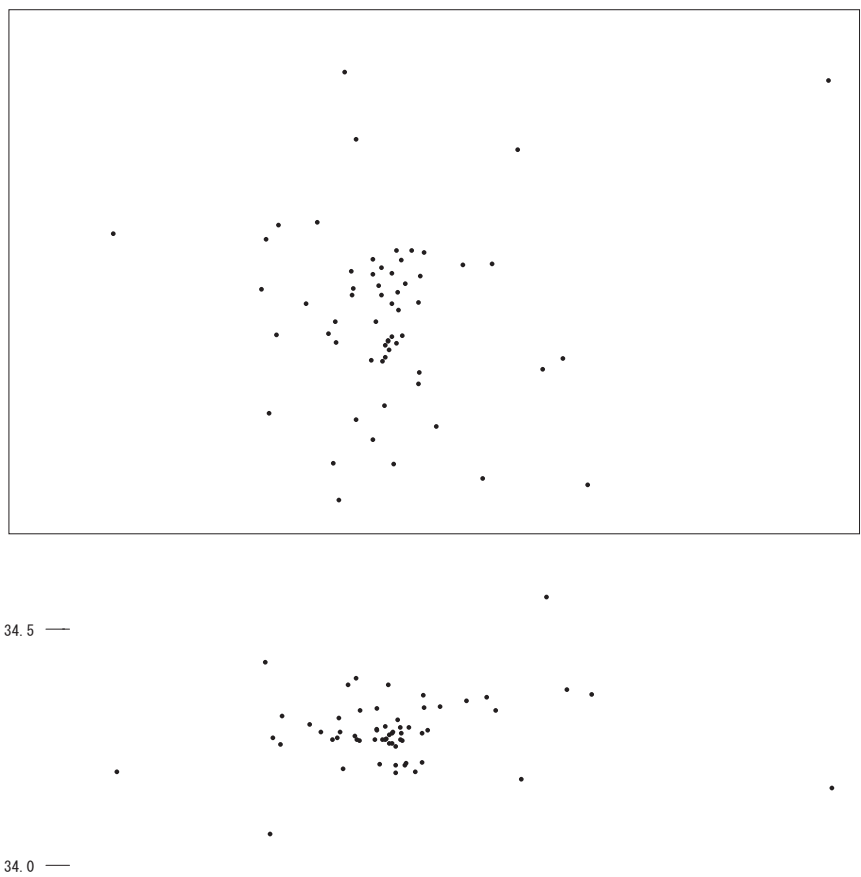
黒曜石の利用目的としても一つ挙げられるのは、代価として黒曜石を利用することである。このように考えた理由として、①原石の状態出土している、②石器素材として適さない大きさのものが含まれるといったことがある。そこで、研究が進んでいる関東・中部地方の縄文時代前期と中期末葉における黒曜石交易システムを参考に考えてみたい（文献16）。概要を挙げると、前期から中期初頭までは内陸と沿岸部では交易が異なり、主に石器素材取得を目的とした流通であり、一部に威信財としての原石流通が存在するといったものである。中期初頭で黒曜石の交易は一旦下火になるが、中期末以降に再び黒曜石の流通が活発になり、交易システムが変化する。活発な流通により、粗悪な原石を流通せざるをえない状況になったことで産地の違いに関わらず超小型原石の混入が見られる。石器製作に適さない超小型原石の流通の背景には素材としての原石獲得を目的とした交易ではなく量単位での流通による交易があり、後・晩期の特徴であること

が挙げられている。本遺跡出土原石の中にも「石器製作に適さない小型の原石」が混入している。元来小型である桑ノ木津留産黒曜石だが、その中にも石器製作に適さない「小型」品が含まれることは、石材として搬入するというよりも、黒曜石自体に価値があり、交易が行われていたと考えられる。しかし、先に挙げたように、現状では宮崎県内で50点以上の原石がまとまりをもって出土している例は旧石器時代では確認できていない。また、縄文時代早期でも原産地に近いえびの市妙見遺跡や、宮崎市天ヶ城跡と本遺跡を含めても3遺跡とごくわずかである。また、本遺跡を含め宮崎県内で出土している黒曜石の石材組成が十分に明らかにされていないため、交易の根拠としては薄い。

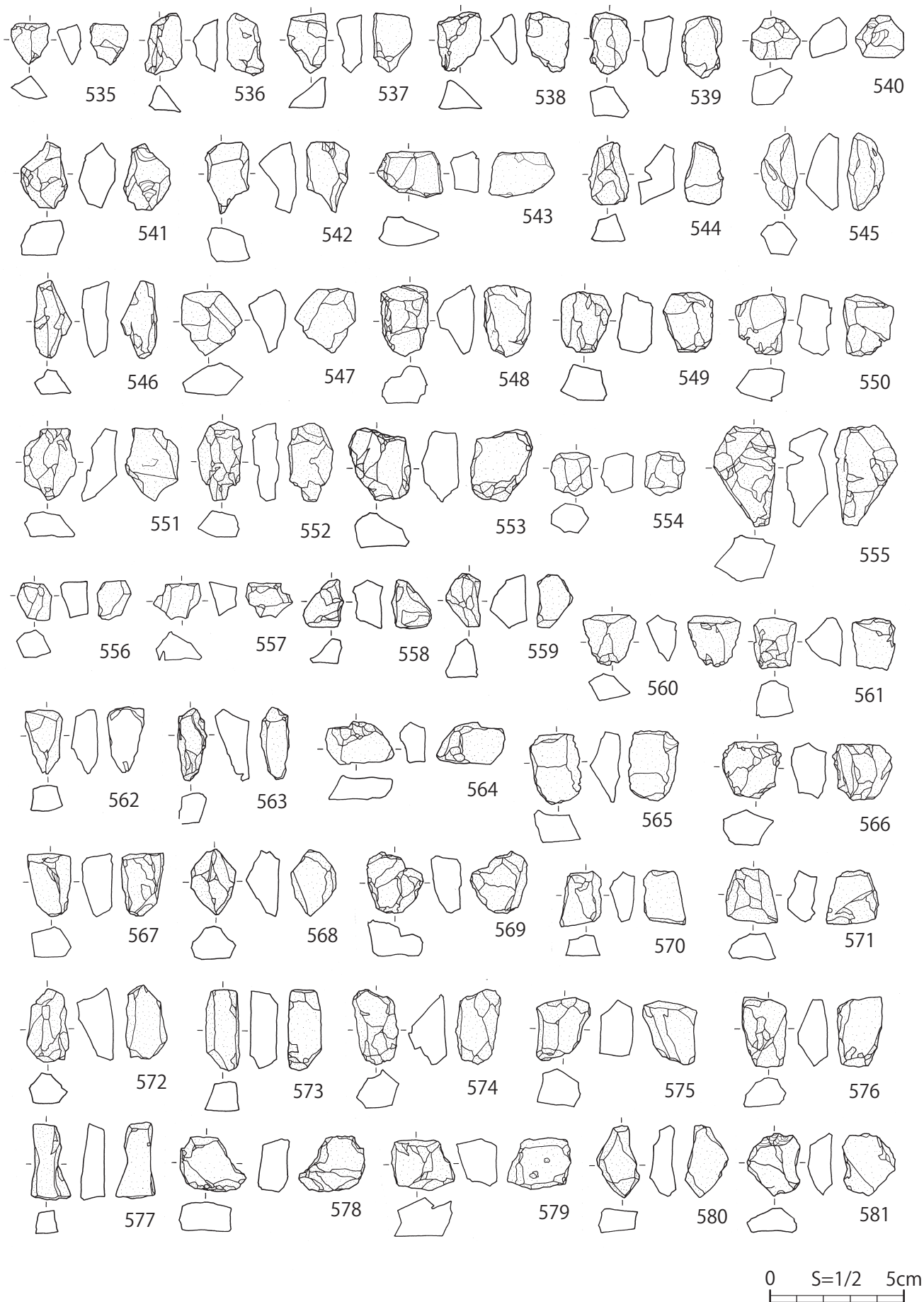
#### (4) 今後の課題

今回の調査では、野首第2遺跡に原石がまとまりをもって持ちこまれていたことを確認することができた。これらの原石がどのような状況下で野首第2遺跡までもたらされたのかは不明である。また、搬入時期についても疑問が残ったため、今後の資料増加と検討を待ちたい。

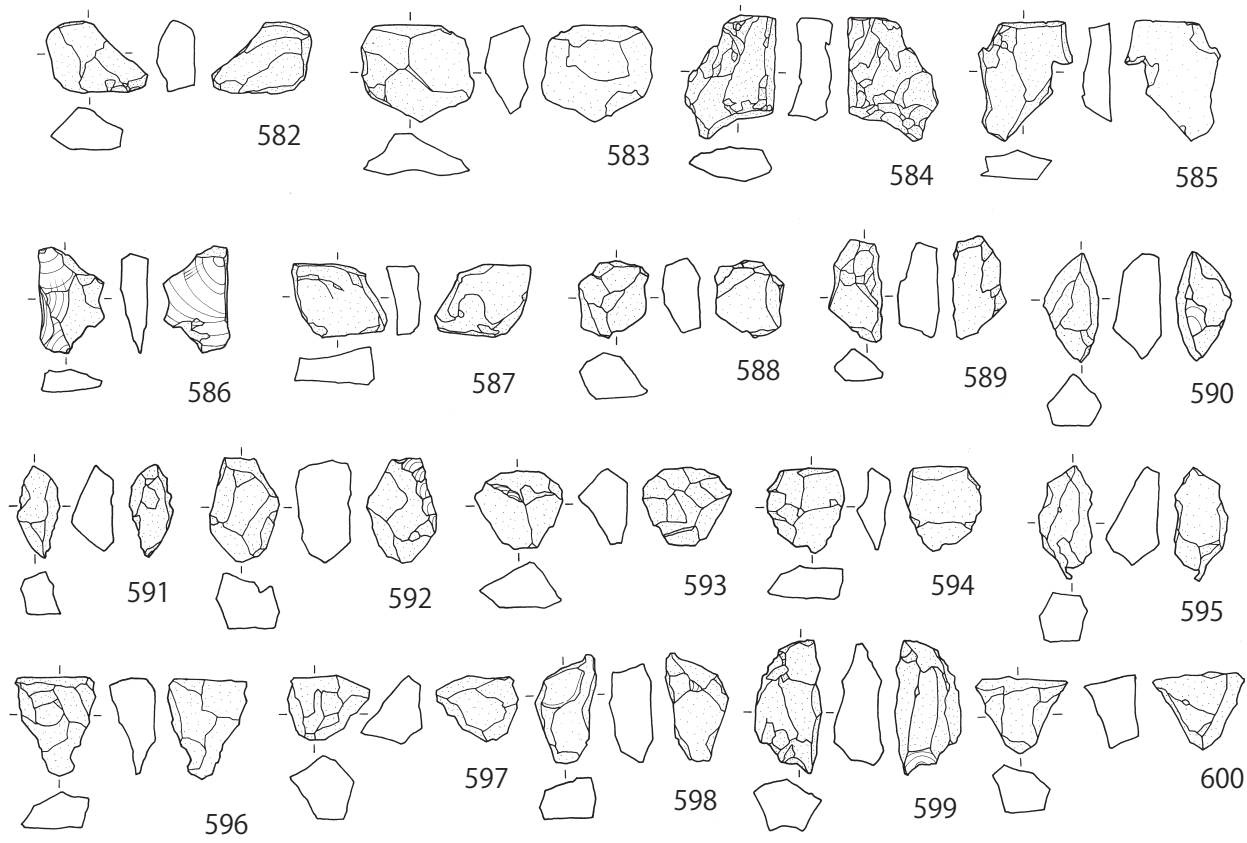
今後の課題としては、宮崎県内における桑ノ木津留産黒曜石は小型石器の素材として組成の主体占めることから、後期旧石器時代から縄文時代にかけての小型石器の石材組成の再整理と桑ノ木津留産を素材とする石器における製作技術の検討を行うことが必要である。それにより、本遺跡出土原石のあり方が明らかになるであろう。



第 89 図 黒曜石原石出土状況図 (S=1/80)



第90图 F区出土黑曜石原石实测图(1)



0 S=1/2 5cm

第 91 图 F 区出土黑曜石原石实测图 (2)

## 第V章 まとめ

今回の調査をもって、東九州自動車道建設に伴う高鍋地区の発掘調査は全て終了となる。そこで、野首第2遺跡を中心とした周辺遺跡の発掘調査成果をまとめてみたい。

### 旧石器時代

野首第2遺跡に人々の生活の痕跡が残されたのは今から約25,000年前以上も前のことである。

遺跡の近隣では、谷地形である野首第1遺跡から、現在も湧水がみられ、野首第2遺跡のC区南側にある南中原第1遺跡でも湧水地点が確認され、恵まれた水利環境であるといえる。本遺跡の南西側に台地が広がり、過去には絶好の狩猟場として利用されていたであろう。それを裏付けるように、周辺には大野寅男氏の表面採集活動によって確認された遺跡が多く存在する。

近年では、東九州自動車道建設に伴う発掘調査により、A T層を境に、下位・上位ともに資料数は増えている。本遺跡ではA T層を境に計7時期の遺物および礫群の集中層が認められる。第I期の石器組成は安定しないが、第II・III期では、二側縁加工ナイフ形石器や台形様石器や、接合資料などが出土している。第IV期のA T直上での切出形石器（狸谷型ナイフ形石器）が一定量出土したことや、第V期は、大型・鋸歯状縁加工を特徴とする石器群であること、第VI期は、ナイフ形石器の終末期に関わる石器群が多く出土しており、ほぼ同じ層から、第VII期の細石刃石器群も出土している。以上のことから、本遺跡が該当期において、長い間生活の場として機能していたことがうかがえる。

### 縄文時代

本遺跡では縄文時代草創期後半～早期初頭と想定される爪形文土器が1点確認されている。縄文時代早期には、この地域には数多くの集石遺構と炉穴が残される。集石遺構が多数検出された周辺遺跡には野首第1遺跡、崩戸遺跡、南中原第1遺跡、老瀬坂上第3遺跡、下耳切第3遺跡、大戸ノ口第2遺跡が挙げられる。本遺跡もその一つに挙げられる。縄文時代早期中葉～後葉をピークに牛牧台地には集石遺構と炉穴が大規模に作られている。本遺跡の炉穴は二つの土坑を連結し使用するものを基本とするが、中には複数の炉穴が切り

合った状態であるヤツデ状もしくはアメーバ状に広がりを持つものもあり、焚き口とされる赤化部分を複数持つものがある。一方、集石遺構は炉穴と切り合うものは見られるが、集石遺構同士で切り合うものは少なく、単独で存在するものが多い。集石遺構には5タイプあり、それぞれの分布区域や時期は異なる。縄文時代前期に関しては、宮崎県下でも著しく事例は少ない。野首第1遺跡、崩戸遺跡、大戸ノ口第2遺跡で前期の土器が出土している。中期では下耳切第3遺跡の集落が確認されている。本遺跡では、後期中葉の堅穴住居跡（凹地状遺構）と、後期後葉以降の堅穴住居跡の計26軒の堅穴住居からなる集落が確認されている。円形プランを基調とするが、隅丸方形のものも確認されている。後期後葉以降は、土地改変の可能性を示す痕跡がみられる。土地改変に関しては、調査成果では自然現象か人為的な現象なのか判然としないため一概には言えないが、人為的な現象であれば集落形成に伴い、立地する台地上は、この時期に大規模な造成が行われていると捉えることができる。また、堅穴住居跡が集中する地区と、「土器捨て場」のような空間が認められ、当該期の集落の在り方を示す貴重な調査成果となった。また、北陸地域からの流通品であろうヒスイ輝石製の玉類が一定量出土したことは特筆すべき点である。

### 弥生時代

中期～後期頃にかけて洪積台地上でいくつか集落が見られるのだが、前期の集落の数は少ない。その中でも持田中尾遺跡は前期末～中期初頭にかけての集落として希少な事例である。松菊里型住居に類似した住居跡が確認されおり、大陸系磨製石器の出土からも、大陸との関係を知る上で貴重な調査成果となっている。大戸ノ口第2遺跡でも下城式の甕や瀬戸内系の壺の破片などが出土している。これらは、持田中尾遺跡出土の土器と共通する特徴をもつ。本遺跡では、弥生時代後期の土器片がわずかに確認されており、弥生時代に帰属する可能性が高い磨製石鏃、打製石包丁などの石器類が確認されている。周辺遺跡では、野首第1遺跡（県道）からは、弥生時代後期の土坑と土器集中区が確認されている。また遺構は確認されていないが、前期～後期にかけての破片が数十点出土している（東九州自動車道関連）。前述した大戸ノ口第2遺跡でも弥

生時代後期後半～終末の竪穴住居跡が12軒確認されている。特に一括資料が確認される住居跡からは、土師器にみられる特徴を持つものも見られる。

## 古墳時代

小丸川流域の台地の縁辺には古墳群や横穴墓群、それに伴う集落が集中して存在する。本遺跡の近隣の古墳群としては、小丸川右岸に牛牧古墳群・山王古墳群・野首古墳群、老瀬横穴墓群があり、左岸には持田古墳群や川南古墳群などがある。特に野首古墳群は本遺跡の北斜面上に立地し、近隣の野首第1遺跡では、古墳時代中期後半～後期初頭、後期後半～終末期にかけての集落が調査されている。野首1号墳は、出土遺物から7世紀前半と位置付けられており、後期後半～終末期にかけての竪穴住居跡2軒が、野首古墳群との関連性が高いとされている。その他の古墳時代の集落としては、大戸ノ口第2遺跡があり、その調査区は東側丘陵と西側丘陵の2分され、前者は6世紀初頭の竪穴住居跡が1軒、後者は竪穴住居跡16軒を中心とする6世紀後半の集落跡が確認されている。本遺跡では、34軒の竪穴住居跡が確認されているが、これら住居跡同士の切り合いは少なく、5～6世紀という限られた範囲に営まれた集落であることがわかっている。集落の中には、貯蔵穴も存在し、それらは一時期数軒の住居を一単位としたものに伴うということが調査の結果から明らかになっている。

## 古代

古代の遺構・遺物に関しては、数は少なく、第I章でも触れたとおり、老瀬坂上第3遺跡、下耳切第3遺跡などがある。老瀬坂上第3遺跡では、8世紀後半の転用された須恵器を蔵骨器としたものを埋葬した土坑墓が検出されている。年代測定で、790～880年といった結果が得られているため、埋葬された時期は平安時代の初期と考えられている。また、8世紀代の坏蓋を転用した硯が出土していることや、下耳切第3遺跡からも7世紀末に推定される円面硯が出土している。これらは、この頃に「識字者」がこの地域に存在していたことを示す貴重な資料である。本遺跡でも、坏蓋を転用した硯が表土中からではあるが出土しており、一次調査でも当該期と思われる道路状遺構・掘立柱建物跡が確認されており、土師器や緑釉陶器、布目瓦等が

出土している。これらの遺物の検討は不十分であるので、今後の課題である。

## 中世

中世になると、周辺に高城（山城）をはじめとした「耳川（高城）の戦い」に関連する遺跡・遺構が多数ある。近隣遺跡では、野首第1遺跡で掘立柱建物跡2棟・石塔群がある。掘立柱建物跡の立地する場所は、北西は木城から尾鈴山、東には川南・持田の台地と小丸川が見渡せる好条件の場所である。小丸川の水運を考えると、戦乱に備えた施設もしくは、交通の要所としての機能を果たした建物と推測されている。また、崩戸遺跡でも掘立柱建物跡2棟・土坑墓が検出されている。崩戸遺跡の北側は急激に下り、小丸川の現河床に至る地形からも小丸川の水運の要所となっていた場所といえる。本遺跡では、墓穴と考えられる土坑が確認されているが、遺物の出土は少ない。

## 近世

近世では、高鍋城は高鍋藩の藩庁となり、秋月氏が居城している。野首第1遺跡では、18～19世紀にかけての遺物が出土しており、大規模な造成によって作り出した平場に縁辺を石垣と土塁で囲む屋敷が確認されており、屋敷に関連する墓も2基確認されている。

## 近・現代

大正12年の高鍋～木城間の鉄道敷設経営計画の議決を受けて、高鍋停車場から木城へ向かう路線が計画された。野首第1遺跡（県道）から南側丘陵にかけて大規模な掘削の跡が3箇所確認されている。調査当初は中世の山城を想定していたが、調査の結果、この鉄道事業に関連するものと推測されている。

第二次世界大戦時には、高鍋は戦場となり、下耳切第3遺跡から老瀬坂上第3遺跡近辺の山中に機関銃台座や砲台を設置し、米軍に備えていた。関連遺物として、南中原第1遺跡で銃剣と認識票が、本遺跡では南部弾が出土している。また、第二次世界大戦前後の入植によってこの地区は大きく改変されており、現在の風景に至っている。そして、野首第2遺跡の三次調査をもって、高鍋町の東九州自動車道関連の調査は全て終了となる。現在、高速道路の建設が進み、周辺はわずかな宅地と畑が残るのみとなった。高速道路の開通により、かつての風景はさらに変わろうとしている。

## 引用・参考文献

- 文献1：北郷泰道 編1982『持田中尾遺跡発掘調査報告書』高鍋町教育委員会
- 文献2：山本 格 編1995『中尾・牛牧地区遺跡農村基盤総合整備パイロット事業尾鈴2期地区に伴う埋蔵文化財調査報告書』高鍋町文化財調査報告書第7集 高鍋町教育委員会
- 文献3：吉本正典 編2005『崩戸遺跡 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書11』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第103集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献4：阿部直人・竹田享志 編2005『老瀬坂上第3遺跡 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書23』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第118集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献5：田中 光・藤木 聡・飯田博之 編2004『野首第1遺跡 県道木城高鍋線高速関連道路・河川等緊急整備事業（青木地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第86集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献6：柳田 晴子『尾花坂上遺跡 一般県道高鍋美々津地方道路交付金事業（鬼ヶ久保1区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献7：出山真次・高橋浩子・松林豊樹他 編『尾花A遺跡I 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書62』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第185集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献8：堀田孝博 編2007『野首第1遺跡II 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書50』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第157集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献9：今塩屋毅行・都成 量・永田和久 編2006『下耳切第3遺跡 東九州自動車道（都農～西都間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書30』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第125集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献10：岩永哲夫・戸高真知子 編1991『大戸ノ口第2遺跡』高鍋町文化財調査報告書第5集 高鍋町教育委員会
- 文献11：松本 茂・重留康宏2007『野首第2遺跡 第一分冊：後期旧石器時代～縄文時代早期編 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書51』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第158集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献12：重留康宏・松本 茂2008『野首第2遺跡 第二分冊：縄文時代後・晩期以降編 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書59』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第172集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献13：堀口悟史 編2007『南中原第2遺跡（一次） 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書54』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第162集 宮崎県埋蔵文化財センター

- 文献14：土屋雄毅2009『南中原第2遺跡（二次） 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書61』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第179集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 文献15：今塩屋毅行・松永幸寿2002『日向における古墳時代中～後期の土師器—宮崎平野部を中心にして—』『古墳時代中・後期の土師器—その編年と地域性—』第5回九州前方後円墳研究会実行委員会
- 文献16：大工原 豊2007『黒曜石交易システム—関東・中部地方の様相』『縄文時代の考古学6ものづくり道具製作の技術と組織』同成社
- 文献17：芝 康次郎2008『宮崎県における黒曜石製石器の原産地推定とその意義—細石刃石器群を中心として—』『宮崎考古』第21号 宮崎考古学会
- 文献18：藤木 聡2002『先史時代における黒曜石の利用—黒曜石の消費地 宮崎—』『Stone Sources』No.1 石器原産地研究会
- 参考文献
- 文献：岩永哲夫2006『南九州の押型文』『宮崎考古』第20号 宮崎考古学会
- 文献：水ノ江和同1997『北部九州の縄文後・晩期土器—三万田式から刻目突帯文土器直前まで—』『縄文時代』第8号 縄文時代文化研究会
- 文献：坂本嘉弘1993『東九州における縄文時代晩期開始の問題—大野町夏足原遺跡採集の遺物紹介を兼ねて—』『おおいた考古』第8号

第6表 旧石器時代礫郡集石遺構観察表

礫群No.	出土層位	時期認定	調査区	礫分布	構成資料数	石器点数	共伴石器	炭化物	備考
1	IV b 上	VI期	A	やや密	66	0	×	×	
2	V 中	V期	A	疎	19	0	×	×	
3	V 中+IV b 中	V期	A	疎	6	0	×	×	
4	V 上	V期	A	小密	11	0	×	×	
5	V 上	V期	A	小密	16	0	×	×	10は配石
6	V 上	V期	A	疎	12	0	×	×	
7	V 上	V期	A	疎	8	0	×	×	完形円礫が目立つ
8	V 上	V期	A	単	1	0	×	×	
9	V 上	V期	A	小密	5	0	×	×	縄文早期か
10	V 上	V期	A	小密	5	0	×	×	
11	V 上	V期	A	疎	11	0	×	×	
12	V 上~中	V期	A	疎	9	0	×	×	
13	V 上	V期	A	疎	6	0	×	×	No. 14と近接
14	V 上	V期	A	小密	4	0	×	×	No. 13と近接
15	V 上	V期	A	疎+小密	73	0	×	×	広範囲に分布 細分可能か 構成礫66・67はV下VI上
16	V下VI上	IV期	A	密?	3	0	×	×	配石
17	V 上~中	V期	A	やや密	64	0	×	×	構成礫21はV中~下、63・64はV下VI上
18	V下VI上	IV期	A	密?	3	0	×	×	構成礫1~3は同一個体
19	V下VI上	IV期	A	密			△	○	No. 19-1~7に細分 縄文早期のビットに切られる
20	V下VI上	IV期	A	密	31	0	×	○	
21	V 上	V期	A	疎	23	0	×	×	
22	VII中	II期	A	疎	2	0	×	×	
23	VII中	II期	A	疎	7	0	×	×	
24	V 上~中	V期	A	疎+やや密	62	0	×	×	
25	V 上	V期	A	やや密	70	0	×	×	
26	V下VI上~IV b	IV期	A	疎	36	0	×	×	
27	V下VI上	IV期	A	密	79	0	×	×	
28	IV下V上	V期	A	疎+やや密	132	4	×	×	
28-3	V 上~中	V期	A	やや密+密	121	0	×	×	
29	V下VI上	IV期	A	疎+密	76	0	×	×	
30	V 下	IV期	A	やや密	10	0	×	×	No. 27・29とは若干レベル差があり上位に位置
31	VII中~下	II期	A	疎	4	1	○	×	
32	VII中~下	II期	A	疎+密	12	1	○	×	
33	VII上~中	III期	A	疎	5	0	×	×	
34	VII中	II期	A	疎+やや密	38	0	×	×	
34-2	VII中	II期	A	密	74	0	×	×	
35	VII中	II期	A	疎	1	0	×	×	配石に変更 近隣礫群と合成
36	IV b	V期	A	やや密	23	0	×	×	S194に隣接
37	VII中	II期	A	疎+やや密	31	0	×	×	
38	VI下VII上	III期	A	やや密	2	0	×	×	
39	VII上~中	III期	A	疎	6	0	×	×	構成礫6はVII下VIII上 (I期)
40	VII上	III期	A	疎	26	0	×	×	
41	V 上	V期	A	疎+やや密	17	0	×	×	
42	IV b	V期	A	疎	5	0	×	×	
43	IV b~V上	V期	A	やや密	35	0	×	×	
44	IV b	V期	A	疎	12	0	×	×	
45	V 上	V期	A	疎	15	0	×	×	
46	V 上	V期	A	疎	14	0	×	×	
47	V 上	V期	A	やや密	25	0	×	×	
48	V 上	V期	A	やや密	23	0	×	×	
49	V 上	V期	A	疎	25	5	○	×	
50	V 上	V期	A	疎	10	2	○	×	
51	VII上~中	III期	A	疎	30	0	×	×	
52	VII中	II期	A	疎	8	0	×	×	
53	VII中~下	II期	A	密	80	0	×	×	
53+61	VII中	II期	A	やや密+密	39	2	○	×	
54	VII中~下	II期	A	やや密	32	0	×	×	
55	VII中~下	II期	A	疎	8	0	×	×	完形円礫が目立つ



磔群No.	出土層位	時期認定	調査区	磔分布	構成資料数	石器点数	共伴石器	炭化物	備考
56	Ⅶ中～下	Ⅱ期	A	疎	3	0	×	×	
57	Ⅶ中	Ⅱ期	A	密+やや密	128	2	○	×	
58	Ⅶ中～下	Ⅱ期	A	やや密	9	0	×	×	
59	Ⅶ中～下	Ⅱ期	A	疎+やや密	3	0	×	×	
60	Ⅶ下	Ⅰ期	A	やや密	3	0	×	×	
61	Ⅶ中～下	Ⅱ期	A	やや密	11	0	×	×	
62	Ⅳa	Ⅵ期	A	やや密	7	0	×	×	縄文早期台石群と隣接
63	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	6	0	×	×	
64	Ⅶ下～Ⅷ上	Ⅰ期	A	やや密	8	0	×	×	
66	Ⅴ上～中	Ⅴ期	A	やや密	7	0	×	×	
67	Ⅴ上	Ⅴ期	A	疎	23	0	×	×	
68	Ⅴ上～中	Ⅴ期	A	疎	16	0	×	×	
69	Ⅳb	Ⅴ期	A	やや密	13	0	×	×	
70	Ⅶ上～中	Ⅱ期	A	疎+やや密	35	0	×	×	
71	Ⅴ下Ⅵ上	Ⅳ期	A	密	4	0	×	×	
72	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	5	0	×	×	
73	Ⅳb	Ⅴ期	A	やや密	40	0	×	×	
74	Ⅳbか	Ⅴ期	A	やや密	25	0	×	×	
77	Ⅳb～Ⅴ上	Ⅴ期	A	疎+やや密	70	0	×	×	一部Ⅴ下
79	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	18	0	×	×	
80	Ⅴ中	Ⅴ期	A	やや密	68	0	×	×	
81	Ⅵ下Ⅶ上	Ⅲ期	A	疎	5	0	×	×	
82	Ⅵ下Ⅶ上	Ⅲ期	A	疎	4	0	×	×	
83	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	5	2	○	×	
84	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	9	0	×	×	
85	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	12	5	○	×	
86	Ⅴ上	Ⅴ期	A	疎+やや密	29	0	×	×	
87	Ⅴ中	Ⅴ期	A	疎	9	0	×	×	
88	Ⅴ中	Ⅴ期	A	疎	2	0	×	×	
89	Ⅴ上	Ⅴ期	A	疎	17	0	×	×	
90	Ⅶ中	Ⅱ期	A	密	113	4	○	×	
91	Ⅶ上	Ⅲ期	A	疎	8	0	×	×	
92	Ⅶ上	Ⅲ期	A	疎	5	0	×	×	
93	Ⅶ中	Ⅱ期	A	密	57	0	×	×	
94	Ⅳb	Ⅴ期	A	やや密	63	0	×	×	
95	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	5	0	×	×	
96	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	2	0	×	×	
97	Ⅳ	Ⅵ期	A	密	13	0	×	×	
98	Ⅵ下Ⅶ上	Ⅲ期	A	疎	6	0	×	×	
99	Ⅶ上～下	Ⅲ期	A	疎	33	5	○	×	
100	Ⅳb～Ⅴ上	Ⅴ期	A	疎	23	0	×	×	
101	Ⅴ上	Ⅴ期	A	疎+やや密	49	7	×	×	
102	Ⅴ上	Ⅴ期	A	疎+やや密	60	0	×	×	
103	Ⅴ上	Ⅴ期	A	疎+小密	11	0	×	×	
104	Ⅶ中	Ⅱ期	A	疎	5	0	×	×	
105A	Ⅶ中～下	Ⅱ期	A	疎	6	0	×	×	
106	Ⅵ下Ⅶ上	Ⅲ期	A	疎	7	0	×	×	
107	Ⅶ上	Ⅲ期	A	やや密	10	0	×	×	
108	Ⅶ上	Ⅲ期	A	疎	4	0	×	×	
109	Ⅳb	Ⅴ期	A	疎	15	0	×	×	
110	Ⅳb	Ⅴ期	A	疎+密	17	0	×	×	
111	Ⅴ上	縄文早期	A	小密	11	0	×	○	
112	Ⅶ下	Ⅰ期	A	やや密	5	0	×	×	
113	Ⅶ下	Ⅰ期	A	疎	4	0	×	×	
114	Ⅶ下	Ⅰ期	A	疎+やや密	7	0	×	×	
115	Ⅶ下	Ⅰ期	A	やや密	5	0	×	×	
116	Ⅴ下Ⅵ上	縄文早期	A	小密	11	0	×	○	
117	Ⅵ上～Ⅴ中	Ⅳ期	A	やや密	9	0	×	×	No. 9のみⅤ中、要分離
122	Ⅳb	Ⅴ期	C	疎+やや密	10	0	×	×	

磔群No.	出土層位	時期認定	調査区	磔分布	構成資料数	石器点数	共伴石器	炭化物	備考
123	VII上~中	III期	B	疎	8+2	2	○	○	
124	V上	V期	B	疎	1	0	×	×	
125	V上	V期	B	疎+ やや密	6	0	×	×	
126	V上	V期	B	疎	2	0	×	×	
127	V中~下	V期	C	やや密	18	1	○	×	No. 4 はナイフ形石器
128	V上	V期	C	疎	12	0	×	×	
129	V上	V期	C	疎	2	0	×	×	
131	V中~下	V期	C	やや密	4	0	×	×	
132	V中	V期	C	疎	4	0	×	×	
133	VI下VII上	III期	C	やや密	9	0	×	×	
134	V下VI上	IV期	C	単	1	0	×	×	
135	VII中	II期	C	疎	2	0	×	×	
140	VII上	III期	B	疎	21	0	×	×	
141	V上~中	V期	C	やや密	32	0	○	×	
142	V中	V期	C	疎	5	1	○	×	
143	V中	V期	B	やや密	13	0	×	○	
144	V中	V期	B	やや密	15	0	×	×	
145	V上~中	V期	B	やや密	15	0	×	×	
146	V下VI上	IV期	B	疎	2	0	×	×	
147	VII上	III期	B	やや密	8	0	×	×	
148	VII上~中	III期	B	疎	2	0	×	×	
149	V中	V期	B	やや密	6+2	2	○	×	
150	V上	V期	B	疎	5	0	×	×	
151	V中	V期	B	やや密	11+2	2	○	×	
152	V中	V期	B	疎	2	0	×	×	
153	V上	V期	B	疎	4	1?	○?	×	
154	V下	IV期	B	やや密	4	0	×	×	
155	V下	IV期	B	やや密	3	0	×	×	
156	V下VI上	IV期	B	密	34	1	○	○	
157	VII中	II期	B	単	1	0	×	×	
158	IV b	縄文早期	B	小密	6	0	×	×	
159	V上	V期	B	疎	11	2	○	○	
160	V上	V期	B	疎	15	0	×	○	
161	IV a~ b	VII期	C	やや密	149	0	×	×	
162	V上~中	V期	C	やや密	4	1?	○?	×	
163	V中	V期	C	疎	4	0	×	×	
164	V上~中	V期	C	疎	13	0	×	×	
165	V中~下	V期	C	やや密	32	0	×	×	
166	V下VI上	IV期	B	疎	2	0	×	×	
167	V下VI上	IV期	C	やや密+密	69	0	×	×	
168	V上~中	V期	C	やや密	22	1?	○?	×	
169	V上	V期	B	やや密	8	0	×	×	
170	V上	V期	C	疎	4	0	×	×	
171	V上~中	V期	C	疎	4	0	×	×	
172	V上~下	V期	C	やや密	36	0	×	×	
173	IV b~V上	V期	C	やや密	4	2	○	×	
174	V上	V期	C	疎	8	0	×	×	
175	V上	V期	C	疎	2	0	×	×	
176	V上~下	V期	C	疎	7	0	×	×	
177	V上	V期	C	単	1	0	×	×	
178	V下	IV期	C	疎	3	0	×	×	
179	V上	V期	C	やや密	14	0	×	×	
180	V中~下	V期	C	疎+ やや密	41	1	○	○	
181	V下VI上	IV期	B	密	89	0	×	×	
182	V下VI上	IV期	B	疎+ やや密	5	0	×	×	
183	V中	V期	B	やや密	13	3	○	○	
184	V上~下	V期	C	疎	28	0	×	×	
185	V下VI上	IV期	C	疎+ やや密	78	0	×	○	
186	V上~中	V期	B	疎	3	0	×	×	

磔群No.	出土層位	時期認定	調査区	磔分布	構成資料数	石器点数	共伴石器	炭化物	備考
187	V上	V期	B	疎	2	0	×	×	
190	VII中～下	II期	B	疎	6	0	×	×	
191	V中	V期	C	疎+やや密	13	0	×	×	
192	V下VI上	IV期	C	疎	5	0	×	×	
193	V上～中	V期	B	疎	2	0	×	×	
194	VI上	IV期	B	密	2	0	×	×	
195	V中～下	V期	B	やや密	15	0	×	×	
196	IV b	V期	B	疎	2	0	×	×	
197	V上	V期	B	やや密	9	2	○	×	
198	VII下	I期	B	疎	3	0	×	×	
199	V中～下	V期	B	疎	7	0			
200	V下	IV期	B	やや密	9	0	×	×	
210	V上～中	V期	B	密	10	0	×	×	
211	V下	IV期	B	密	3	0	×	×	
212	V上	V期	B	疎	7	2	○	×	
213	V上	V期	B	やや密	10	0	×	×	
214	IV b～V上	V期	C	疎+やや密	24	3	○	×	
215	V下VI上	IV期	C	単	1	0	×	×	
216	V中～下	V期	C	疎+やや密	17	0	×	×	
217	V上	V期	C	密	23	0	×	×	
217-2	V中	V期	C	やや密	31	0	×	×	
218	VI下VII上	III期	C	疎	2	0	×	×	
219	V上	V期	C	疎+やや密	14	0	×	×	
220	V下	IV期	C	疎	2	0	×	×	
221	IV b	V期	C	疎	2	0	×	×	
222	V中	V期	C	疎	6	0	×	×	
223	IV a・b	VI期	C	やや密	12	0	×	○	
224	IV b	V期	C	やや密	4	0	×	×	
225	V上	V期	C	疎	5	0	×	×	
226	V中	V期	C	疎	2	0	×	×	
227	V下VI上か	IV期	C	やや密	6	0	×	×	
228	IV a・b	VI期	C	疎	213	0	×	×	
229M	IV b～V上	V期	C	やや密	46	1	○	×	
229S	V上～中	V期	C	疎	26	0	×	×	
230	V中	V期	C	密+やや密	25	0	×	×	
231	V下	IV期	C	やや密	44	0	×	×	
232	V上～中	V期	C	疎+やや密	14	0	×	×	
233	V中	V期	C	疎	8	0	×	×	
234	IV b下V上	V期	C	疎	4	0	×	×	
235	V上	V期	C	疎+やや密	6	0	×	×	
236	IV b～V上	V期	C	疎	4	0	×	×	
237	V下VI上	IV期	C	疎	8	0	×	×	
238	VI上	IV期	C	密	63	0	×	×	
239	V上～中	V期	C	疎+やや密	16	0	×	×	
240	V中	V期	C	やや密	17	0	×	×	
240 - 2	V中～下	V期	C	疎+やや密	20	0	×	×	
241	V上	V期	C	やや密	17	0	×	×	
242	V下VI上	IV期	C	密+やや密	56	1	○	×	
243	V上	V期	C	やや密	10	0	×	×	
244	V上	V期	C	やや密	8	0	×	×	
245	V中	V期	C	疎	7	0	×	×	
246	V中	V期	C	やや密	10	0	×	×	
247	V下	IV期	C	疎	6	0	×	×	
248	IV b	V期	C	密	2	0	×	×	
249	IV b	V期	C	疎+やや密	12	0	×	×	
250	IV b下V上	V期	C	疎	6	0	×	×	
251	IV b下V上	V期	C	疎	6	0	×	×	
252	IV b	V期	C	疎	4	0	×	×	
253	V上	V期	C	疎	10	0	×	×	

礫群No.	出土層位	時期認定	調査区	礫分布	構成資料数	石器点数	共伴石器	炭化物	備考
254			C	疎	4	0	×	×	
255	V中～下	V期	C	疎	6	0	×	×	
256	IV b～V上	V期	C	やや密	84	2	○	×	
257			C	やや疎	18	0	×	×	
258	V上	V期	C	疎	10	0	×	×	
259	V上～中	V期	C	やや密	28	0	×	×	
260A	V下	IV期	C	密+やや密	40	0	×	×	
260B	V	V期	C	密	100 ?	0	×	×	
261	V上～中	V期	C	疎+やや密	10	0	×	×	
262	V下	IV期	C	やや密	2	0	×	×	
263	VI下VII上	III期	C	疎	3	0	×	×	
264	V中～下	V期	C	密+やや密	99	0	×	×	
265	V中	V期	C	やや密	25	0	×	×	
266	V下VI上	IV期	C	小密	8	0	×	×	
267	IV b	V期	C	やや密	26	0	×	×	
268	V下	IV期	C	やや密	13	0	×	×	
269	V中	V期	C	やや密	7	0	×	×	
270	V下	IV期	C	やや密	71	0	×	×	
271	V下	IV期	C	やや密	53	0	×	×	
272	VII上～中	II期	C	やや密	13	0	×	×	
273	V下	IV期	C	疎+やや密	9	0	×	×	
274	VII上	III期	C	疎	2	0	×	×	
275	V下	IV期	C	密+やや密	46	0	×	×	
276	V下VI上	IV期	C	密+やや密	131	0	×	×	
E1	IV b	V期	E	やや疎	20	0	×	×	
E2	V上～下	V期	E	やや疎	15	0	×	×	
E3	V	V期	E	やや密	55	0	×	×	
E4	IV a	VI期	E	やや密	59	0	×	×	
E5	V	V期	E	やや密	63	0	×	×	
E6	V	V期	E	やや密	40	0	×	×	
E7	VI	IV期	E	小密	15	0	×	×	
E8	VI	IV期	E	小密	17	0	×	×	
E9	V～VI	IV期	E	やや密+小密	93	0	×	×	
E10	V	V期	E	やや密	23	0	×	×	
E11	V	V期	E	密	47	0	×	×	
E12	V	V期	E	小密	8	0	×	×	
E14	V	V期	E	やや密	137	0	×	×	
E15	V	V期	E	密	53	0	×	×	
E16	V	V期	E	やや密	42	0	×	×	
E17	IV b	V期	E	密	44	0	×	×	
E18	V	V期	E	密	190	0	×	×	
E19	V	V期	E	密	28	0	×	×	
E20	V	V期	E	やや密	7	0	×	×	
E21	V	V期	E	密	15	0	×	×	
E22	V下VI上	IV期	E	小密	43	0	×	×	
E23	Vか	V期	E	やや疎	14	0	×	×	
E24	V	V期	E	密	21	0	×	×	
E25	V	V期	E	やや疎	36	0	×	×	
E26	V	V期	E	密	63	0	×	×	
E27	V	V期	E	やや密	58	0	×	×	
E28	V	V期	E	密	29	0	×	×	
E29	V	V期	E	やや密	42	0	×	×	
E30	VI	IV期	E	小密	10	0	×	×	
E31	V	V期	E	やや密	76	0	×	×	

第7表 縄文時代早期集石遺構観察表

遺構番号	出土位置 (グリッド)	検出面 (層)	礫範囲 (cm)		掘り込み (cm)			配石 有無	分類	備考
			長径	短径	長径	短径	深さ			
1	H 5	IV a	180	98	—	—	—	×	I?散礫か?	二・三次
2	H 5	IV a	40	38	—	—	—	×	I	二・三次
3	H 5	IV a	155	95	170	—	30	×	II b	水道管理設用溝により一部欠
4	I 5	IV a	183	127	200	143	65	○	III a	二・三次
5	I 5	IV b	103	82	88	—	22	×	II b	ゴミ穴により一部欠
6	I 4	III	97	72	85	—	20	×	II b	二・三次
7	H 5	IV a	155	150	157	165	56	○	III a	二・三次
8	N 5	IV a	103	79	108	100	16	×	II b	二・三次
9	O 5	IV a	67	65	67	60	8	×	II b	二・三次
10	O 5	IV a	110	105	93	—	8	×	II b	カクランにより礫散乱
11	P 6	IV a	95	92	80	67	9	×	II b	二・三次
12	Q 8	IV a	167	138	165	138	21	○	II a	二・三次
13	A A 1	VI	—	—	—	—	—	—	分類不可	配石のみ
14	B 2	IV a	200	70	125	87	5	×	II b	二・三次
15	C 1	IV b	127	116	140	122	16	×	II b	二・三次
16	C 1	IV b	82	50	107	—	10	×	II b	二・三次
17	C 1	IV b	85	63	101	74	40	○	III a	二・三次
1			233	124	137	96	42	○	III a	一次
2			110	142	133	111	37	○	III a	一次
3			113	104	109	100	52	○	II a	一次
4			149	141	180	153	11	×	II b	一次
5			114	103	123	122	49	○	III a	一次
6			125	96	72	70	16	×	II b	一次
7			158	138	103	104	36	○	III a	一次
8			100	103	103	85	21	×	II b	一次
10			96	78	112	83	9	×	II b	一次
11			200	50	84	79	11	×	II b	SI11・SI12 隣接
12			—	58	110	93	10	×	II b	一次
13			98	79	85	77	11	○	II a	一次
14			146	122	145	138	40	○	III a	一次
16			135	98	—	—	—	×	I	一次
17			59	38	—	—	—	×	I	一次
19			113	99	110	102	45	○	III a	一次
20			105	83	—	—	—	×	I	一次
21			95	55	—	—	—	×	I	一次
25			113	110	116	114	78	○	III a	SP73 と切り合う
26			68	57	82	95	9	×	II b	
27			130	102	98	80	32	○	III a	一次
29			138	87	—	—	—	×	I	一次
32			64	62	86	77	12	×	II b	一次
33			52	38	57	48	21	×	III b	一次
34			82	61	124	96	5	×	II b	一次
35			114	103	100	90	12	○	II a	一次

遺構番号	出土位置 (グリッド)	検出面 (層)	礫範囲 (cm)		掘り込み (cm)			配石 有無	分類	備考
			長径	短径	長径	短径	深さ			
36			60	58	—	—	—	×	Ⅱ b	一次
37			109	92	76	72	11	×	Ⅱ b	一次
38			63	60	63	60	6	×	Ⅱ b	一次
39			119	109	110	89	18	○	Ⅱ a	一次
40			101	40	—	—	—	×	I	一次
41			98	85	95	83	35	×	Ⅱ b	一次
42			113	109	100	87	33	○	Ⅲ a	一次
43			138	96	107	104	26	○	Ⅱ b	一次
44			137	116	132	135	45	○	Ⅲ a	一次
45			233	118	100	92	34	○	Ⅱ a	一次
46			—	88	—	—	—	×	I ?	一次
47			123	68	—	—	—	×	I	一次
48			50	40	—	—	—	—	配石のみ	一次
49			63	28	—	—	—	×	分類不可	一次
50			88	59	—	—	—	×	I	一次
51			93	89	90	78	12	×	Ⅱ b	一次
52			225	100	135	134	31	○	Ⅲ a	52 → 53
53			—	124	130	123	42	○	Ⅲ a	52 → 53
54			111	87	103	—	10	○	Ⅱ b	一部カクラン
55			147	123	—	—	—	×	I	一次
56			77	65	83	67	15	×	Ⅱ b	一部カクラン
57			97	90	—	—	—	×	I	一次
58			144	128	178	163	45	○	Ⅲ a	58 ~ 60
61			193	156	205	180	65	○	Ⅲ a	一次
62			320	160	168	165	27	○	Ⅱ b	63 → 62、一連の施設か？
63			—	—	—	—	—	×	分類不可	一次
64			130	100	150	145	23	○	Ⅱ a	一次
65			50	50	85	85	10	×	Ⅱ b	一次
66			90	61	105	80	20	×	Ⅱ b	一次
67			210	100	100	90	15	○	Ⅱ a	S168 → S167
68			—	—	90	80	5	×	Ⅱ b	一次
69			176	135	158	155	74	○	Ⅲ a	一次
70			155	147	145	142	75	○	Ⅲ b	93 と一連
71			112	110	116	110	35	○	Ⅲ a	
72			65	48	—	—	—	×	I	S171 と一連か？
73			97	83	98	—	32	○	Ⅲ a	一次
74			167	100	120	90	16	×	Ⅱ b	一次
75			146	130	162	133	50	○	Ⅲ a	ピットに切られる
76			109	107	113	108	41	○	Ⅱ a	一次
77			137	122	141	125	63	○	Ⅲ b	一次
78			143	113	159	128	12	×	Ⅱ b	一次
79			256	152	132	—	23	○	Ⅱ a	炉穴と切り合う
80			158	142	112	110	48	○	Ⅱ a	炭化材あり

遺構番号	出土位置 (グリッド)	検出面 (層)	礫範囲 (cm)		掘り込み (cm)			配石 有無	分類	備考
			長径	短径	長径	短径	深さ			
82			78	73	73	58	8	×	II b	一次
83			135	113	127	104	32	×	II b	一次
84			128	123	123	118	35	○	III a	一次
85			75	73	—	—	—	×	II b	一次
86			180	169	121	116	45	×	III a	一次
88			80	58	90	65	10	×	II b	一次
87			113	78	87	58	16	×	II b	一次
89			130	90	75	70	13	○	II a	一次
90			137	126	140	140	42	○	II a	一次
91			105	72	90	—	22	×	II b	一次
92			120	100	—	—	—	×	II b	一次
95			183	152	168	140	9	×	II b	一次
96			153	146	—	—	—	×	I	一次
97			155	87	—	—	—	×	I	一次
98			68	40	—	—	—	×	II b	一次
101			83	74	105	110	14	×	II b	一次
103			134	96	85	55	57	○	III a	一次
104			73	26	—	—	—	×	分類不可	一次
105			125	210	131	116	45	○	III a	一次
130			342	248	—	—	—	×	散礫か?	一次
131			65	54	80	58	6	×	II b	一次
132			118	106	126	118	10	○	II a	一次
133			126	90	110	75	10	×	II b	一次
134			105	80	100	99	8	×	II b	一次
136			97	72	82	81	5	×	II b	一次
137			85	85	105	102	18	×	II b	一次
138			152	88	—	—	—	×	I	一次
139			74	63	82	68	18	×	II b	一次
140			—	—	—	—	—	—	—	炉穴と切り合う?
141			50	35	—	—	—	×	I	一次
142			92	78	80	78	5	×	II b	一次
143			127	83	103	100	18	×	II b	一次
144			130	87	—	—	—	×	I	一次
146										一次
148			110	106	102	97	6	×	II b	一次
149			113	52	117	—	63	○	III a	一次
150			51	52	108	99	4	×	II b	一次
152			147	125	156	137	40	○	II a	一次
153			173	162	167	166	63	○	III a	一次
161			123	119	137	133	54	○	II a	一次
162			152	118	133	120	43	○	II a	一次
163			149	145	175	172	75	○	III a	一次
169			105	73	100	77	12	×	II b	一次

遺構番号	出土位置 (グリッド)	検出面 (層)	礫範囲 (cm)		掘り込み (cm)			配石 有無	分類	備考
			長径	短径	長径	短径	深さ			
135-1			228	63	95	91	25	×	II	3基切り合う
135-2			—	48	89	73	11	○	II a	一次
135-3			—	35	—	—	20	×	II b	一次
⑩			110	93	75	68	18	×	II b	委託
①			100	106	113	97	27	○	II a	委託
15			178	108	145	155	62	○	III a	委託
22			77	68	85	74	7	×	II b	委託
23			117	107	125	105	45	○	III a	委託
24			100	90	97	96	20	○	II a	委託
2ESI1			93	82	—	—	—	×	II b	E区
2ESI2			97	67	—	—	—	×	II b	E区
2ESI3			107	91	110	95	13	×	II b	E区
2ESI4			72	55	—	—	—	×	I	E区
2ESI5			160	105	57	50	12			E区
2ESI6			141	110	91	90	21	○	II a	E区
2ESI7			171	126	—	—	—	×	I	E区
2ESI8			112	95	—	—	—	×	I	E区
2ESI9			129	125	—	—	—	×	I	E区
2ESI10			87	85	80	65	7	×	II b	E区
2ESI11			107	103	90	80	7	×	II b	E区
2ESI12			171	125	—	—	—	×	I	E区
2ESI13			68	43	—	—	—	×	I	E区
2ESI14			47	38	57	41	6	×	II b	E区
2ESI15			70	52	—	—	—	×	I	E区
2ESI16			37	27	—	—	—	×	I	E区
2ESI17			130	90	83	—	8	×	II b	E区
2ESI18			82	80	107	100	10	×	II b	E区
2ESI19										
2ESI20			88	71	—	—	—	×	I	E区



第8表 縄文時代早期炉穴観察表

遺構番号	検出面 (層)	遺構規模 (m)			床面 (層)	焼土面
		長軸	短軸	深さ		
1	IV b	2.36	0.80	0.36	V	×
2	IV b	2.02	0.70	0.47	VI	1
3	IV b	2.28	0.87	0.43	VI	1
4	IV b	2.21	1.25	0.61	VI	1
5	IV b	2.98	2.10	0.49	VI	4
6	IV b	1.62	1.42	0.38	VI	2
7	IV b	1.72	0.60	0.32	VI	×
8	IV b	—	—	—	VI	×
9	IV b	2.94	2.33	0.46	VI	2
10	IV b	1.93	0.94	0.20	VI	1
11	IV b	1.46	0.81	0.15	VI	1
12	IV b	3.01	2.10	0.36	VI	1
13	IV b	2.71	0.65	0.55	VI	2
14	IV b	2.86	2.70	0.30	VI	1
15	IV b	4.26	2.18	0.35	VI	1
16	IV b	4.02	1.56	0.27	VI	2
17	IV b	2.67	2.65	0.36	VI	×
1-1	IV a - IV b	1.33	0.83	0.40	—	×
1-2	IV b	(0.49)	(0.91)	0.50	—	×
1-3-3	IV a - IV b	2.55	1.17	0.32	—	1
1-3-4		1.62	1.03	0.41	—	1
1-4	V	1.46	0.72	0.35	VII	1
1-5	V	0.94	0.66	0.15	V - VI	1
1-6	V	1.52	(0.93)	0.24	VI	1
1-7-2	III	1.30	0.86	0.08	III - IV	1
1-8-2	IV	0.98	0.82	0.18	IV - VI	×
1-9	IV	0.88	0.60	0.13	IV - V	×
1-10	IV	3.00	1.33	0.37	V	△
1-11	V	2.26	0.84	0.10	V	×
1-12	IV	1.81	1.03	0.33	VI	1
1-13	IV	1.86	0.91	0.34	VI	1
1-14	IV b	3.46	2.04	0.51	V	1
1-15	V	1.42	0.41	0.10	V	△
1-16	IV	1.44	0.73	0.27	VI	△
1-17	IV	2.20	0.96	0.37	VI	1
1-18-1	IV 111	(1.44)	0.54	0.24	V	△
1-18-2		(1.76)	1.06	0.20	V	△
1-18-3		1.26	1.00	0.57	VII	1
1-19	IV	0.72	0.56	0.34	VI	×
1-20	IV b	(1.15)	0.68	0.14	IV b	△
1-21-1	IV b	2.12	(0.78)	0.39	V - VI	×
1-21-2		1.62	(0.90)	0.30		△
1-21-3		(1.03)	(0.74)	0.23		×
1-22	IV b	(1.14)	0.59	0.07	IV b	△
1-23	V	(2.00)	(0.94)	0.13	VI	△

遺構番号	検出面 (層)	遺構規模 (m)			床面 (層)	焼土面
		長軸	短軸	深さ		
1-24	IV b	2.34	0.90	0.16	V - VI	1
1-25	IV b	1.51	1.06	0.10	V	△
1-26-1	IV b	1.97	1.03	0.35	VI	1
1-27-1	IV	2.50	1.68	0.41	—	×
1-27-3		1.29	(0.97)	0.31	IV	△
1-27-4		(1.17)	1.11	0.21	V	—
1-27-5		(1.94)	1.12	0.52	VI	1
1-27-6		1.36	0.66	0.40	VI	×
1-27-7		2.16	0.94	0.28	V	△
1-27-8		2.50	1.23	0.57	VI	1
1-28	V	0.49	0.41	0.16	VI	×
1-29-1・2	—	3.04	1.95	—	—	—
1-30	IV	2.18	1.17	0.54	VI	△
1-31	IV	(3.60)	1.34	0.51	VI	1
1-32	IV - V	1.13	0.86	0.39	VI	△
1-33	—	1.37	0.70	0.29	—	△
1-34-1	III	1.48	0.95	0.08	—	△
1-34-2		(1.76)	0.90	0.42		△
1-35-1	IV - V	1.46	0.97	0.24	V	△
1-35-2		1.16	0.70	0.14		△
1-35-3		2.05	0.80	0.43		△
1-36	—	1.46	1.20	0.22	—	△
1-37-1	IV	(1.70)	(0.83)	0.90	—	1
1-38	IV b	0.94	0.80	0.33	IV b - V	×
1-39	IV b	1.23	0.66	0.46	IV b - V	×
1-41	IV b	1.01	0.47	0.20	IV b - V	×
1-42	IV b	(1.66)	(1.31)	0.57	V - VI	×
1-43-1	IV b	1.07	0.81	0.69	VI	×
1-44-1	IV a - IV b	2.21	0.74	0.74	VI - VII	×
1-45-1	IV	(1.31)	(0.25)	0.32	IV	1
1-45-2		(1.65)	(1.08)	(0.12)		△
1-46	IV a - IV b	0.80	0.75	0.83	VI	×
1-47	IV a - IV b	1.74	0.78	0.16	IV b	×
1-48	IV a - IV b	(1.00)	0.59	0.19	IV b	×
1-49	—	1.03	0.93	0.13	—	△
1-50-3	—	1.42	0.50	0.30	—	△
1-50-4		1.60	0.70	0.52		△
1-51	III	1.74	1.11	0.41	—	×
1-52	—	2.50	0.95	0.31	—	1
1-53-1	—	2.50	1.01	0.39	—	1
1-54	—	(0.91)	0.39	0.09	—	×
1-55	—	1.25	0.63	0.26	—	×
1-56	—	1.76	0.91	0.34	—	1
1-57-1	—	1.47	(0.53)	0.23	—	1
1-57-2・3		1.94	1.24	0.32		2

遺構番号	検出面 (層)	遺構規模 (m)			床面 (層)	焼土面
		長軸	短軸	深さ		
1-57-4	—	(1.50)	0.60	0.31	—	1
1-58-2	V	0.67	0.59	0.12	V - VI	×
1-59	V	1.02	0.48	0.70	VI - VII	×
1-60	V	0.80	0.72	0.47	—	×
1-61-1	—	(2.15)	0.95	0.41	—	1
1-61-2	—	2.15	1.34	0.39	—	1
1-62	—	1.94	0.81	0.16	—	×
1-63	—	1.60	0.91	0.23	—	1
1-64-1	—	(1.24)	0.88	0.24	—	1
1-64-2	—	1.58	0.78	0.17	—	1
1-65	—	(0.45)	(0.72)	0.24	—	—
1-66	—	0.84	0.82	0.14	—	1
1-67-1	—	2.02	0.74	0.20	—	×
1-67-2	—	1.54	1.12	0.16	—	1
1-67-3	—	2.15	1.44	0.16	—	1
1-68-1	—	2.43	(1.30)	0.10	IV - V	×
1-68-2	IV	(1.14)	0.84	0.31	V - VI	1
1-68-3	—	1.99	1.30	0.45	VI	1
1-69	IV	2.40	0.98	0.38	VI	1
1-70	—	0.80	0.52	—	—	—
1-71	—	0.86	0.42	—	—	—
1-72	—	(2.16)	(1.15)	0.35	—	△
1-73-1	IV	2.95	1.03	0.47	VI	2
1-74	—	1.74	1.29	0.23	—	×
1-75	IV	(1.43)	(0.65)	0.13	IV - V	×
1-76	—	(1.84)	(0.81)	0.13	—	1
1-77-1・2	—	2.09	1.24	0.36	—	1
1-77-3	—	(1.26)	0.68	0.17	—	1
1-78-1	—	(1.38)	0.82	0.29	—	1
1-78-2	—	(1.31)	0.62	0.31	—	1
1-PS178	IV b	(0.55)	(0.55)	0.20	IV b - V	×
1-79	—	1.82	1.22	0.22	—	1
1-80	—	1.24	0.67	0.47	—	×
1-81	—	(1.55)	0.56	0.27	—	△
1-82	—	1.04	0.74	0.19	—	×
1-83	—	1.03	0.81	0.30	—	△
1-84	IV b	1.96	0.78	0.27	IV a - V	×
1-85	—	1.03	0.70	0.18	—	△
1-86	IV b	(2.56)	(0.66)	0.30	IV a - V	×
1-87-1	—	1.36	0.62	0.20	—	1
1-87-2	—	(2.60)	1.56	0.76	—	1
1-88	—	—	—	0.24	—	—
1-89	—	0.72	0.36	0.10	—	1
1-90	IV b	1.58	1.00	0.09	IV b - V	×
1-91	IV	1.90	1.25	0.53	VI	×
1-92	IV b	(0.85)	(0.59)	0.31	V	△

遺構番号	検出面 (層)	遺構規模 (m)			床面 (層)	焼土面
		長軸	短軸	深さ		
1-93	VI - VII	1.11	0.81	0.21	VII	1
1-94	IV b	—	—	0.15	IV b - V	×
1-S194	IV b	2.31	1.11	0.65	V - VI	1
1-95	IV b - V	(2.10)	0.84	0.59	—	1
1-97	IV b - V	(1.36)	1.36	0.17	V	△
1-98	IV b	(1.26)	0.62	0.24	V	△
1-99	IV b	2.12	0.84	0.15	V	×
1-100	V	(1.10)	(0.93)	0.18	V - VI	△
1-102	IV	1.31	0.62	0.33	V	×
1-103	IV	(0.76)	(0.58)	0.60	VII	×
1-104	V	(1.22)	(0.76)	0.13	V - VI	△
1-105	IV	0.75	0.39	0.21	V	×
1-112	V中 - V下	1.51	0.79	—	—	—
1-120	—	2.45	1.10	0.33	—	×
1-121-1	—	1.90	1.20	0.62	—	×
1-122	IV b	2.30	0.84	0.49	V - VI	1
1-123	III	2.33	1.06	0.49	V - VI	1
1-125	IV a	1.23	0.68	0.11	IV a - IV b	×
1-126	IV a	1.80	0.37	0.19	IV a - IV b	×
1-127	—	1.03	0.58	0.27	—	×
1-157	IV a	2.29	1.18	0.40	V - VI	1
1-160-1	—	2.22	0.87	0.40	V - VI	1
1-160-2	IV	2.13	0.80	0.26	V - VI	1
1-161	IV	1.75	0.96	0.22	V - VI	△
1-162	IV	1.58	0.92	0.38	V - VI	△
1-163	V下 - VI上	2.04	0.82	0.18	VI	1
1-164	IV	0.52	0.42	0.21	V - VI	×
1-165	IV a	1.03	0.56	0.15	IV a - IV b	×
1-166-1	IV a	(1.55)	1.18	0.38	IV a - IV b	1
1-167	IV a	2.69	0.97	0.61	VI - VII	1
1-168	IV b	1.90	0.96	0.11	IV b - V	×
1-169	IV b	1.50	0.74	0.18	VI	1
1-170-1	IV b	0.64	0.44	0.25	—	×
1-171	IV b	0.94	0.50	0.21	—	×
1-172	—	2.52	0.99	0.50	—	1
1-173	IV b	1.85	1.12	0.57	VI	1
1-174	IV b	1.75	1.10	0.41	—	1
1-175	III	(2.16)	1.08	0.53	—	1
1-178	IV b	(1.19)	0.82	0.47	—	×
1-179	IV a	1.69	0.88	0.63	VI	×
1-184	IV b	1.35	0.59	0.05	IV b	×
1-185-1	IV b	1.61	0.78	0.48	—	1
1-185-2	IV b	1.19	0.66	0.32	—	×
1-186-1	—	(1.47)	0.60	—	—	×
1-186-2	—	1.06	0.69	—	—	×

第9表 旧石器時代石器計測表

No.	器種	石材	出土地区	出土層位	計測値				備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
1	剥片	Ssh I	I	VII	3.0	1.2	0.4	2.0	
2	剥片	Ssh I	I	VII	2.6	1.3	1.0	3.0	
3	剥片	Ho	I	VII	5.1	1.9	0.9	7.0	
4	剥片	Ssh	I	VII	5.5	4.3	1.3	14.0	
5	搔器	Ssh	I	VII	5.0	2.9	1.4	20.0	
6	剥片	Ho	I	VII	6.4	5.5	2.4	71.0	
7	剥片	Ssh	I	VII上	4.45	7.55	3.1	73.4	
8	剥片	Ho I	I	VII上	6.4	7.2	2.45	77.1	
9	原石	Ssh	I	VII上	8.0	7.4	6.1	491.0	
10	二次加工剥片	Ssh	I	VII上	4.35	4.1	2.0	26.3	
11	接合資料1	Ssh	—	—	7.9	8.4	5.2		
12	剥片	Ssh	I	VII上	4.6	4.7	2.25	47.1	
13	剥片	Ssh	I	VII上	3.0	6.15	2.85	41.9	
14	剥片	Ssh	I	VII上	5.0	4.1	2.0	34.2	
15	剥片	Ssh	I	VII上	4.95	5.1	3.3	52.4	
16	剥片	Ssh	I	VII上	5.8	4.1	3.05	56.0	
17	接合資料2	Ho II	—	—	10.2	8.5	6.9	407.1	
18	石核	Ho II	I	VII上	8.4	8.5	4.8	342.6	
19	剥片	Ho II	I	VII上	10.4	4.9	1.6	64.5	
20	接合資料3	Ho I	—	—	8.45	7.1	4.1	241.1	
20 a	接合資料	Ho I	—	—	6.9	7.2	5.1	130.1	
20 b	接合資料	Ho I	—	—	6.05	6.3	3.65	111	
21	剥片	Ho I	A	VII	2.65	3.0	2.1	16.4	
22	剥片	Ho I	A	VII	5.95	5.45	3.45	94.6	
23	剥片	Ho I	I	VII	5.7	2.65	1.15	17.3	
24	剥片	Ho I	I	VII	4.95	1.8	1.45	12.0	
25	剥片	Ho I	A	VII	7.05	4.6	2.1	73.8	
26	剥片	Ho I	I	VII	4.1	1.95	0.9	6.1	
27	剥片	Ho I	A	VII	5.2	2.05	1.5	12.6	
28	ナイフ形石器	CH I	F	IV a	4.3	1.30	0.5	2.5	
29	ナイフ形石器	Ssh I	F	IV a	4.7	1.8	0.8	7.0	
30	ナイフ形石器	Ry I	H	IV b	3.8	2.05	0.85	5.2	
31	ナイフ形石器	Ho II	H	IV b	4.4	1.9	0.7	5.0	
32	ナイフ形石器	Ssh I	F	IV b	4.1	1.2	0.6	4.0	
33	ナイフ形石器	Ssh I	H	V	6.35	1.6	1.0	7.2	
34	ナイフ形石器	CH I	I	—	3.4	1.1	0.7	3.0	遺構埋土
35	ナイフ形石器	Ho I	H	V	4.6	1.98	0.8	8.73	
36	ナイフ形石器	Ssh II	H	V	3.2	1.1	0.5	2.0	
37	素材剥片	Ssh II	I	IV	3.3	1.1	0.3	2.0	
38	ナイフ形石器	Ssh II	F	V	4.7	1.2	0.6	4.0	
39	ナイフ形石器	Ssh I	G	V	9.0	2.9	1.6	34.0	
40	角錐状石器	Ry I	H	IV b	3.1	1.0	0.8	2.1	
41	角錐状石器	Ho	H	V	2.7	1.4	1.2	3.5	
42	角錐状石器	Ssh	H	V	4.6	2.1	1.7	13	
43	角錐状石器	Ry I	H	V	6.35	2.30	1.5	17.9	
44	尖頭器	Ssh I	H	V	3.6	1.5	0.8	4.28	
45	削器	Ssh III	H	V	2.6	3.55	0.6	4.2	
46	ブランディングチップ	Ry I	H	V	1.9	0.6	0.5	0.56	
47	削器	Ry I	H	IV b	3.8	4.0	0.7	10.6	
48	剥片	Ssh I	H	V	5.3	1.65	1.0	8.0	
49	搔器	Ssh I	H	V	4.3	2.45	1.65	18.9	
50	搔器	Ssh II	F		5.7	3.5	1.1	25.0	
51	搔器	Ssh III	G	V	4.2	5.45	4.2	45.8	
52	搔器	Ssh I	G	V	4.15	4.25	1.45	30.6	
53	二次加工剥片	Ho	H	IV b	5.1	2.5	1.1	16.0	
54	二次加工剥片	Ho	F	IV b	5.8	2.1	1.1	11.0	
55	剥片	Ssh III	I	IV b	4.2	2.4	1.0	5.0	
56	剥片	Ssh III	F	V	3.8	1.2	0.6	3.0	
57	二次加工剥片	Ssh I	H	V	3.0	1.0	0.5	2.0	
58	二次加工剥片	Ssh I	I	V	4.7	1.5	0.8	7.0	
59	剥片	Ssh II	H	V	3.5	2.2	0.9	6.3	
60	二次加工剥片	Ssh VI	H	V	4.3	2.0	1.2	10.32	
61	剥片	Ssh II	H	V	2.9	2.1	0.4	1.8	
62	二次加工剥片	Ssh I	H	I	8.7	3.1	1.6	17.0	

No.	器種	石材	出土地区	出土層位	計測値				備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
63	二次加工剥片	Ssh I	I	—	5.1	3.5	1.2	26.0	溝埋土
64	剥片	Ssh III	H	V	5.25	2.3	0.95	9.1	
65	剥片	Ssh I	H	IV a	6.9	3.60	1.5	37.2	頭部調整あり
66	剥片	Ssh I	G	IV	4.3	2.5	1.1	17.0	頭部調整あり
67	剥片	Ry I	F	IV b	5.4	2.2	0.9	10.0	
68	剥片	Ssh II	F	IV b	4.3	2.1	0.9	7.0	
69	剥片	Ssh I	F	V	4.9	2.0	1.0	11.0	頭部調整あり
70	剥片	Ho I	F	IV a	3.3	1.3	0.4	2.0	風化著しい
71	剥片	Ry I	H	VII	2.15	1.45	0.35	0.8	
72	剥片	Ry I	H	V	5.3	4.15	1.05	30.0	
73	剥片	Ry I	H	V	6.1	2.7	1.6	20.0	
74	剥片	Ssh II	H	V	5.7	1.2	0.7	5.0	
75	剥片	Ssh I	H	V	7.2	2.7	1.2	17.0	
76	剥片	Ssh I	H	V	4.6	3.1	0.7	8.9	
77	剥片	Ssh I	H	V	5.9	3.1	0.72	15.8	
78	敲石	Sa	H	V	7.1	5.2	2.8		
79	敲石	Sa	H	V	7.6	4.7	3.5		
80	接合資料 4	Ho	—	—	17.80	15.70	8.9		
80 a	接合資料	Ho	—	—	8.0	13.9	3.4	205.3	
81	剥片	Ho	F	IV b	1.9	7.6	4.85	57.4	
82	剥片	Ho	F	IV b	4.6	10.5	0.8	75.9	
83	剥片	Ho	F	IV b	3.6	7.4	1.2	22.6	
84	剥片	Ho	F	IV b	4.35	7.55	1.5	33.0	
80 b	接合資料	Ho	—	—	6.0	11.1	5.3	249.0	
85	剥片	Ho	F	IV b	4.15	6.3	1.1	32.8	
86	剥片	Ho	F	IV b	3.0	3.0		9.3	
87	剥片	Ho	F	IV b	3.05	4.4	0.85	10.3	
88	剥片	Ho	F	IV b	4.6	4.6	1.15	24.4	
89	剥片	Ho	F	IV b	3.45	3.15	0.9	6.4	
90	剥片	Ho	F	IV b	3.1	2.9		9.3	
91	剥片	Ho	F	IV b	6.15	6.6	1.65	49.9	
92	剥片	Ho	F	IV b	6.1	6.95	2.7	77.0	
93	剥片	Ho	F	IV b	5.0	5.2	1.85	29.6	
80 c	接合資料	Ho	—	—	8.1	14.3	2.5	2133.0	
94	剥片	Ho	F	IV b	2.05	1.75	0.55	1.8	
95	剥片	Ho	F	IV b	2.2	1.75	0.75	1.7	
96	剥片	Ho	F	IV b	2.1	2.5	0.5	2.4	
97	剥片	Ho	F	IV b	4.55	4.2	1.45	12.5	
98	剥片	Ho	F	IV b	5.45	8.8	2.65	67.2	
99	剥片	Ho	F	IV b	4.85	9.3	1.75	58.7	
100	剥片	Ho	F	IV b	5.5	8.25	1.55	69	
80 d	接合資料	Ho	—	—	7.25	12.9	5.0	207.6	
101	剥片	Ho	F	IV b	2.8	5.05		9.5	
102	剥片	Ho	F	IV b	2.5	2.6	0.65	3.6	
103	剥片	Ho	F	IV b	2.3	4.24	0.8	5.5	
104	剥片	Ho	F	IV b	3.5	5.05	0.9	16.4	
105	剥片	Ho	F	IV b	2.7	7.5	1.05	15.5	
106	剥片	Ho	F	IV b	3.45	4.7	1.3	21.3	
107	剥片	Ho	F	IV b	4.5	5.9	1.85	34.6	
108	剥片	Ho	F	IV b	3.9	7.95	1.15	28.7	
109	石核	Ho	F	IV b	3.9	9.0	2.15	67.9	
110	剥片	Ho	F	IV b	4.9	4.25	1.25	21.0	
111	接合資料 5	Ho II	—	—	8.4	13.7	4.9	182.5	
111 a	接合資料	Ho II	—	—	7.2	3.45	3.25	71.9	
112	剥片	Ho II	H	IV b	4.25	2.1	1.4	12.9	
113	剥片	Ho II	H	V	7.25	3.55	2.05	59.0	
111 b	接合資料	Ho II	—	—	10.4	8.3	2.85	110.6	
114	剥片	Ho II	H	V	2.05	4.95	0.90	7.5	
115	剥片	Ho II	H	表サイ	3.8	3.75	1.1	14.7	
116	剥片	Ho II	H	V	3.8	2.4	0.9	5.9	
117	剥片	Ho II	H	V	2.5	3.3	1.1	6.9	
118	剥片	Ho II	H	V	5.55	5.2	1.7	43.6	
119	剥片	Ho II	H	V	6.5	5.15	1.3	32.0	
120	接合資料 9	Ho II	—	—	8.0	3.2	3.7	64.2	
121	剥片	Ho II	H	V	8	2.7	2.1	40.2	
122	剥片	Ho II	H	V	3.2	3.7	1	11.4	
123	剥片	Ho II	H	V	2.4	4.3	1.6	13.1	
124	接合資料 6	Ho II	—	—	6.6	10.75	5.8	211.9	
125	剥片	Ho II	H	V	3.25	3.0	1.15	10.6	
126	剥片	Ho II	H	V	4.55	3.25	1.3	14	
127	剥片	Ho II	H	V	5.6	6.05	1.55	37.6	

No.	器種	石材	出土地区	出土層位	計測値				備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
128	剥片	Ho II	H	V	4.05	4.45	0.9	9.0	
129	剥片	Ho II	H	V	2.9	3.8	2.6	21.3	
130	石核	Ho II	H	V	6.4	5.55	3.3	96.3	
131	剥片	Ho II	H	V	5.3	4.7	1.25	23.1	
132	接合資料 7	Ssh I	—	—	7.2	14.1	7.5		
132 a	接合資料	Ssh I	—	—	6.0	11.95	4.8		
133	剥片	Ssh I	E	V	3.35	4.85	0.75	9.4	
134	剥片	Ssh I	H	V	1.75	3.0	0.5	1.7	
135	剥片	Ssh I	H	IV b	3.0	3.9	1.05	8.2	
136	剥片	Ssh I	H	V	3.4	4.15	0.95	10.0	
137	石核	Ssh I	H	V	5.7	5.3	3.01	59.4	
138	剥片	Ssh I	E	V	6.85	5.4	1.8	41.0	
132 b	接合資料	Ssh I	—	—	3.3	9.65	3.15		
139	剥片	Ssh I	F	IV b	3.0	2.3	1.15	5.3	
140	剥片	Ssh I	H	V	1.85	2.45	0.85	3.5	
141	剥片	Ssh I	H	V	3.65	5.4	1.9	26.0	
142	剥片	Ssh I	H	V	3.55	6.8	1.95	31.2	
143	接合資料 8	Ssh I	—	—	7.8	11.4	6.2		
143 a	接合資料	Ssh I	—	—	6.95	7.7	4.9		
144	剥片	Ssh I	C	VI a	1.5	1.2	0.7	0.9	
145	剥片	Ssh I	C	V中	1.7	1.0	0.85	0.9	
146	剥片	Ssh I	C	V下IV上	1.45	2.05	0.75	1.7	
147	剥片	Ssh I	C	V中	1.65	2.35	0.6	1.1	
148	剥片	Ssh I	C	V上~中 / IV上	2.5	2.45	0.75	2.7	
149	剥片	Ssh I	C	V中	1.85	3.1	0.7	3.7	
150	剥片	Ssh I	C	IV	2.7	2.8	1.05	4.5	
151	剥片	Ssh I	C		3.65	3.5	1.6	20.0	
152	剥片	Ssh I	C	IV	5.65	4.7	2.05	37.1	
153	剥片	Ssh I	C	IVb下V上 / IVb下	5.1	3.45	1.95	24.6	
143 b	接合資料	Ssh I	—	—	8.55	6.9	5.25		
154	剥片	Ssh I	C	V上	1.35	0.85	0.75	0.6	
155	剥片	Ssh I	C	IV	1.0	1.3	0.5	0.8	
156	剥片	Ssh I	C	V下IV上	0.95	2.2	0.95	1.6	
157	剥片	Ssh I	C	V中	1.65	1.3	0.55	0.9	
158	剥片	Ssh I	C	V下	1.35	1.3	0.25	0.4	
159	剥片	Ssh I	C	V上~中 / IV	1.6	2.65	0.65	1.8	
160	剥片	Ssh I	C	IV b	3.05	1.65	1.05	3.6	
161	剥片	Ssh I	C	V下IV上	2.9	1.9	0.65	2.7	
162	剥片	Ssh I	C	IV b / V中	3.05	1.6	0.65	2.6	
163	剥片	Ssh I	H	IV	3.05	2.6	0.7	4.4	
164	剥片	Ssh I	C	V中	1.85	1.75	0.85	1.8	
165	剥片	Ssh I	C	IV b	3.05	3.15	1.75	13.6	
166	剥片	Ssh I	C	IV b	3.5	1.75	0.9	4.4	
167	剥片	Ssh I	C	IV b	3.4	2.35	1.15	7.5	
168	剥片	Ssh I	C	V中	4.4	3.25	1.6	15.8	
169	剥片	Ssh I	C	V下	5.4	3.6	2.7	37.7	
170	剥片	Ssh I	C	IV上	4.35	4.0	1.85	35.5	
171	剥片	Ssh I	C	IV b下 / IV上	4.55	4.35		27.7	
143 c	接合資料	Ssh I	—	—	6.45	7.1	2.9		
172	剥片	Ssh I	C	IV a / V下	3.35	1.95	0.95	4.4	
173	剥片	Ssh I	C	V下	2.05	1.15	0.45	0.5	
174	剥片	Ssh I	C	V上~中	1.5	1.0	0.85	0.9	
175	剥片	Ssh I	C	V上~中	5.15	2.95	2.15	17.2	
176	剥片	Ssh I	C	V下	3.25	1.95	1.15	6.2	
177	剥片	Ssh I	C	V上	1.9	1.75	1.35	1.8	
178	剥片	Ssh I	C	IVb下V上 / V中 / V下	5.3	4.8	2.55	35.4	
179	細石刃	Ssh I	H	V	2.1	1.2	0.1	0.26	
180	細石刃	Ssh I	F	I	2.2	0.6	0.2	0.32	

第 10 表 縄文時代早期後・晚期石器計測表

No.	器種	石材	出土地区	出土層位	計測値				分類	備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
249	石鏃	Ob I	IV a	2G 67	1.6(1.35)	1.10	0.40	0.47		
250	石鏃	Ch II		2I-S82	1.65(1.4)	1.30	0.30	0.53		
251	石鏃	Ch I	III	2F-H4	1.35(0.9)	1.55	0.30	0.45		
252	石鏃	Ch I	I	2H-P5	1.75(1.2)	2.10	0.30	0.77		
253	石鏃	Ch I	I	2F-J3	2.3(1.7)	1.90	0.30	1.03		

No.	器種	石材	出土地点	出土層位	計測値				分類	備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
254	石鏃	Ch I	I	2G-P4	3.0(2.25)	1.65	0.35	1.0		
255	石鏃	X II	I	ノクビ 2	2.7(2.25)	1.75	0.40	1.72		
256	石鏃	Ssh I	I	2H-P5	2.55(2.1)	1.20	0.40	0.84		
257	石鏃	Ch II	I	2F-J3	2.85(2.05)	1.30	0.30	0.78		
258	石鏃	Ssh I	IV b	2F 23	2.05(1.7)	1.60	0.35	0.89		
259	石鏃	Ch I	Ⅲ	2F 31	(2.1)	1.70	0.50	1.95		
260	石錘	Sa	表土	I4	4.30	3.60	1.20	31.0	I	
261	石錘	Sa	I	K3	4.90	3.60	1.50	40.0	I	
262	石錘	Sa	表土	H3	4.40	3.40	1.30	32.0	I	
263	石錘	Sa	埋土中	SA10	4.40	3.40	1.30	34.0	I	
264	石錘	Sa	埋土中	S1	4.10	3.50	1.20	28.0	I	
265	石錘	Ho	表土	I4	4.70	3.70	1.00	32.0	I	
266	石錘	Sa	埋土中	S1	4.60	3.80	1.00	26.0	I	
267	石錘	Sa	I	H4	4.70	3.80	1.20	36.0	I	
268	石錘	Sa	I	H4	5.60	3.60	1.10	40.0	I	
269	石錘	Sa	I	H4	5.10	3.90	1.00	35.7	I	
270	石錘	Sa	I	K3	4.20	3.70	1.00	34.0	I	
271	石錘	Sa	I	2T	4.60	4.50	1.40	48.0	I	
272	石錘	Sa	I	04	4.30	4.20	1.60	52.0	I	
273	石錘	Sa	表土	2F	5.60	3.80	1.10	39.0	I	
274	石錘	Sa	表土	K3	5.50	5.40	1.70	82.0	I	
275	石錘	Sa	表土	2F	4.80	5.00	2.00	71.0	I	
276	石錘	Sa	I	I4	5.30	5.20	1.60	70.0	I	
277	石錘	Sa	I	H4	5.30	5.30	1.50	63.0	I	
278	石錘	Sa	表土	G3	5.40	5.20	2.00	93.0	I	
279	石錘	Sa	I	K3	5.90	5.40	1.60	82.0	I	
280	石錘	Sa	I	G4	5.30	5.50	1.30	69.0	I	
281	石錘	Sa	表土	H3	6.70	6.40	2.40	180.0	I	
282	石錘	Sa	I	G5	5.00	5.40	1.90	84.0	I	
283	石錘	Sa	表土	Q5	5.10	5.40	2.10	93.0	I	
284	石錘	Sa	I	R8	5.70	5.50	1.70	81.0	I	打欠 4 つ有り
285	石錘	Sa	表土	Q7	5.60	6.50	1.90	122.0	I	
286	石錘	Sa	埋土中	S1	7.00	7.20	2.50	202.0	I	
287	石錘	Sa	埋土中	S20	7.80	7.10	2.10	197.0	I	
288	石錘	Sa	表土	R9	7.60	6.40	3.20	244.0	I	
289	石錘	Sa	埋土中	S105	7.60	6.10	3.70	255.0	I	
290	石錘	Sa	I	F5	7.60	7.10	2.50	224.0	I	
291	石錘	Sa	I	G4	7.10	6.70	1.60	143.0	I	打欠 3 つ有り
292	石錘	Sa	表土	AC ア	6.60	6.90	2.70	183.0	I	打欠 3 つ有り
293	石錘	Sa	I	K3	8.90	7.40	3.40	338.0	I	
294	石錘	Sa	I	Q7	9.60	7.00	2.90	330.0	I	
295	石錘	Sa	表土	N4	9.30	4.50	1.40	124.0	I	
296	石錘	Sa	I	H4	11.00	3.70	2.20	151.0	I	
297	石錘	Sa	I	G4	10.40	5.30	2.70	304.0	I	
298	石錘	Sa	I	K3	8.00	7.40	2.70	288.0	I	
299	石錘	Sa	I	K3	9.70	8.20	2.00	265.0	I	
300	石錘	Sa	I	2T	8.90	7.30	3.80	399.0	I	
301	石錘	Sa	表土	2I ウネ	10.40	8.00	2.70	361.0	I	
302	石錘	Sa	I	K3	10.10	7.80	2.40	283.0	I	
303	石錘	Sa	表土	I3	4.60	5.40	2.00	72.0	Ⅱ	
304	石錘	Sa	I	N4	4.90	4.80	1.10	48.0	Ⅱ	
305	石錘	Sa	表土	2F	4.60	5.20	2.40	85.0	Ⅱ	
306	石錘	Sa	表土	2H	5.90	6.30	2.00	109.0	Ⅱ	
307	石錘	Sa	表土	2F	4.50	5.80	1.30	61.0	Ⅱ	
308	石錘	Sa	I	I3	5.40	6.50	2.50	132.0	Ⅱ	
309	石錘	Sa	表土	N4	4.40	6.90	2.40	127.0	Ⅱ	
310	石錘	Sa	表土	H3	7.30	7.70	1.20	128.0	Ⅱ	
311	石錘	Sa	I	I3	6.80	7.20	2.10	167.0	Ⅱ	
312	石錘	Sa	表土	I4	6.70	7.60	2.10	173.0	Ⅱ	
313	石錘	Sa	表土	N4	7.60	6.30	2.20	177.0	Ⅲ	打欠 4 つ有り
314	石錘	Sa	表土	I4	9.60	7.60	2.00	259.0	Ⅲ	打欠 4 つ有り
315	石錘	Sa	I	L4	8.80	6.80	2.90	287.0	Ⅲ	打欠 4 つ有り
316	石斧	Sa	表探	ノクビ 2	10.50	5.40	2.20	181.0	I	基部欠損
317	石斧	Sa	I	I4	12.40	4.80	1.20	109.0	Ⅲ a	基部欠損
318	石斧	Sa	表土	AB ア	12.90	5.70	1.90	196.0	Ⅲ a	基部欠損
319	石斧	Sa	I	J3	12.50	6.40	2.60	316.0	Ⅲ a	基部欠損

No.	器種	石材	出土地区	出土層位	計測値				分類	備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
320	石斧	Ho II	表採	N4	10.70	4.20	2.50	176.0	III b	
321	石斧	Ho II	I	K3	13.30	5.20	2.60	234.0	III a	
322	石斧	Ho II	表土	I4	15.20	6.30	3.80	428.0	III a	
323	石斧	Sa	表土	O6	11.60	4.90	1.40	132.0	IV a	
324	石斧	Sa	表土	2I ウネ	14.20	6.10	2.20	307.0	IV a	
325	石斧	Ho	I	K3	14.40	4.70	3.30	288.0	IV a	
326	石斧	Ho	表土	2F	16.00	9.10	3.20	692.0	VI b	
327	石斧	Ho	I	T3	10.50	3.60	1.70	150.0	VI b	
328	石斧	Ho	I	G5	11.20	3.70	2.60	208.0	VI b	
329	石斧	Ho	I	L4	10.70	4.40	1.80	133.0	VI b	
330	石斧	Ho	表採	2G1	9.60	5.40	2.70	196.0	VI b	基部欠損
331	石斧	Ho	表土	2H	7.50	4.00	2.50	121.0	VII a	基部欠損
332	石斧	Ho	I	L4	10.40	3.70	1.20	106.0	X a	刃部欠損
333	石斧	Ho	I	M4	10.60	5.40	1.00	125.0	X a	基部・刃部欠損
334	石斧	Ho	I	K3	11.30	4.10	1.80	219.0	X a	刃部欠損
335	石斧	Ho	I	2F 風倒木痕	11.60	5.60	2.70	228.0	IX	刃部欠損
336	石斧	Ho	表土	J3	12.90	4.30	1.20	131.0	IX	
337	石斧	Ho	表土	J3	11.90	2.90	2.10	98.0	V	
338	石斧	Ho	I	J3	12.50	6.40	2.60	316.0	V	
339	石斧	Ho	I	G4	14.00	4.90	2.00	216.0	VIII b	
340	石斧	Ho	I	K3	13.40	4.00	1.90	197.0	X	
341	石斧	Ho	I	K3	14.10	4.00	1.60	177.0	X	
342	石斧	Ho	表土	I4	11.30	5.70	3.40	335.0	磨製	基部欠損
343	石斧	Ho	表土	AB 了	12.30	5.0	3.4	344.0	磨製	刃部欠損
344	石斧	Ho	表土	O5	11.90	5.50	3.10	274.0	磨製	刃部欠損
345	石斧	Ho	表土	2G	9.90	5.00	2.70	179.0	磨製	刃部欠損
346	石斧	Ho	I	AB 了	11.30	4.30	3.50	294.0	磨製	
347	石斧	Ho	表採	2H	13.40	5.30	3.00	265.0	磨製	刃部欠損
348	石斧	Ho	表土	2G	13.90	4.90	3.70	292.0	磨製	刃部欠損
349	石斧	Ho	I	K3	14.10	4.90	2.50	231.0	磨製	
350	石斧	Ho	表土	2I ウネ	12.20	5.50	2.70	265.0	磨製	刃部欠損
351	石斧	Ho II	I	J3	8.70	2.80	1.50	54.0	磨製	
352	磨石	Os-Tu	I	FG4/5	10.70	9.60	4.50	662.0	I	
353	磨石	Os-Tu	I	P5	7.00	6.70	3.10	206.0	III b	
354	磨石	Os-Tu	I	T3	6.60	5.70	2.70	156.0	III a	
355	磨石	Os-Tu	I	P5	6.20	5.60	2.10	122.0	III a	
356	磨石	Os-Tu	埋土中	S1	9.80	8.80	4.70	660.0	III a	
357	磨石	Sa	III	H4	9.40	8.70	4.10	493.0	III b	
358	磨石	Os-Tu	I	T3	8.20	7.90	4.00	381.0	III a	
359	磨石	Os-Tu	I	G4	9.10	8.10	3.90	433.0	IV b	
360	磨石	Os-Tu	I	K3	7.20	7.10	4.00	277.0	IV b	
361	磨石	Os-Tu	I	K3	9.80	9.40	5.60	793.0	IV a	
362	磨石	Os-Tu	I	T3	8.80	8.00	3.40	371.0	IV a	
363	磨石	Os-Tu	I	T3	7.00	7.10	3.50	262.0	IV a	
364	凹石	Sa	I	P5	9.90	8.50	2.30	320.0	-	
365	凹石	Os-Tu	I	T3	12.70	8.50	5.00	851.0	-	
366	凹石	Os-Tu	I	N4	12.00	6.70	4.00	394.0	-	
367	凹石	Sa	I	H4	10.00	8.70	8.60	979.0	-	
368	凹石	Sa	I	L4	7.50	5.60	2.20	153.0	-	
369	凹石	Os-Tu	I	H4	11.00	6.60	2.70	306.0	-	
370	凹石	Os-Tu	I	K3	9.90	6.80	3.30	247.0	-	
371	敲石	Os-Tu	表採	G3	12.30	7.90	4.60	730.0	-	
372	敲石	Os-Tu	I	H4	7.60	6.20	4.60	349.0	-	欠損
373	敲石	Os-Tu	I	H4	10.40	8.00	4.30	464.0	-	
374	敲石	Os-Tu	埋土中	P5	16.40	7.60	4.80	1018.0	-	
375	敲石	Sa	表土	2I ウネ	15.30	7.40	4.30	745.0	-	
376	敲石	Sa	I	K3	10.50	4.60	2.60	181.0	-	
377	敲石	Sa		ノクビ2	10.20	8.50	2.70	361.0	-	欠損
378	敲石	Os-Tu	I	I4	9.90	6.60	4.80	520.0	-	欠損
379	円盤状石器	Ho	表採	2G	8.00	8.70	2.00	192.0	-	
380	円盤状石器	Ho	表採	S105	6.20	6.30	1.70	89.0	-	
381	円盤状石器	Ho	I	2I	9.50	11.50	4.00	520.0	-	
382	台石	Sa	I	J3	26.20	10.80	6.90	2742.0	-	欠損
383	台石	Sa	I	J3	16.10	11.60	7.60	2345.0	-	欠損

第11表 縄文土器観察表

No.	出土地点	器種	部位	調整・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
181	1号炉穴	深鉢	頸部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色・白色粒子	
182	1号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	褐色	白色透明粒子	
183	1号炉穴	深鉢	口縁部	網目状襷糸文	ナデ→口縁部上端のみ網目状襷糸文施文	赤褐色	赤褐色	白色粒子・白色透明粒子	
184	2号炉穴	深鉢	口縁部～胴部	ナデ→縦走する山形押型文	ナデ→横走する山形押型文	暗褐色	赤褐色	赤褐色・白色粒子	
185	2号炉穴	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色・白色粒子	
186	2号炉穴	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色・白色粒子	
187	2号炉穴	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→口唇部に	暗褐色	赤褐色	赤褐色・白色粒子	
188	2号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	褐色	褐色	黒色透明・白色粒子	
189	4号炉穴	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文(粒丸)	ナデ	暗褐色	にぶい黄褐色	白色粒子・小礫	
190	4号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文(粒丸)	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	透明粒子・黒色透明粒子	
191	4号炉穴	小型鉢	口縁部	ナデ	ナデ→口縁部上端にのみ楕円押型文?	褐色	暗褐色	白色粒	
192	4号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
193	4号炉穴	深鉢	胴部	横走する粗大楕円押型文→口縁部上端ナデ	ナデ	褐色	褐色	白色粒・小礫	繊維痕
194	4号炉穴	深鉢	口縁部	横走する粗大楕円押型文	ナデ	暗褐色	褐色	白色粒・小礫	繊維痕
195	4号炉穴	深鉢	胴部	縦・斜走する楕円押型文→文様一部ナデ消す	ナデ	黄褐色	橙色	赤褐色粒子・小礫	
196	4号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	にぶい橙色	黒色透明粒子	
197	3号炉穴	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文	ナデ→口縁部上端に斜め方向の強いナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色・白色粒子	
198	3号炉穴	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文	ナデ→横走する山形押型文	赤褐色	暗褐色	赤褐色・白色粒子	口唇部フック状
199	3号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色・白色粒子	
200	3号炉穴	深鉢	胴部	縦・斜走する楕円押型文	ヘラナデ	赤褐色	暗赤褐色	赤褐色粒子	
201	3号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	褐色	褐色		
202	3号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	小礫	
203	13号炉穴	鉢	口縁部	横走する楕円押型文→口縁部上端ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	白色透明粒子・小礫	
204	15号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ・工具痕	赤褐色	暗褐色	赤褐色粒子・小礫	15と同一個体か?
205	15号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	褐色	赤褐色・白色粒子	
206	15号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	赤褐色	赤褐色	赤褐色・白色粒子	
207	15号炉穴	深鉢	胴部	縦・斜走する楕円押型文	ナデ・工具痕	赤褐色	暗褐色	赤褐色粒子・小礫	
208	5号炉穴	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文→口縁部ナデ	ナデ→口縁部上端に斜め方向の強いナデ	褐色	黄褐色	赤褐色粒子・小礫	繊維痕
209	5号炉穴	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文→口縁部ナデ	ナデ→口縁部上端に斜め方向の強いナデ	褐色	黄褐色	赤褐色粒子・小礫	繊維痕
210	5号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ→補修孔(未貫通)	暗褐色	褐色	赤褐色粒子	
211	5号炉穴	深鉢	胴部	縦・斜走する楕円押型文	ナデ	橙色	褐色	小礫(少ない)	繊維痕・32と同一個体
212	5号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	橙色	褐色	小礫・白色粒子	繊維痕
213	5号炉穴	深鉢	胴部	縦・斜走する楕円押型文	ナデ	橙色	褐色	小礫(少ない)	繊維痕
214	16号炉穴	深鉢	口縁部～胴部	縦走する楕円押型文→帯状にナデ消す	ナデ→横走する楕円押型文	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子・小礫	
215	16号炉穴	深鉢	胴部	横走する楕円押型文を帯状に施す→ナデ	ナデ	褐色	褐色	白色・黒色透明粒子	
216	17号炉穴	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文→帯状にナデ消す	ナデ→横走する楕円押型文	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子・小礫	12と同一個体?
217	17号炉穴	深鉢	口縁部～胴部	縦走する楕円押型文→帯状にナデ消す	ナデ→横走する楕円押型文	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子・小礫	12と同一個体?
218	17号炉穴	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文→穿孔(未貫通)	工具ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色・白色粒子	
219	17号炉穴	深鉢	底部付近	縦走する楕円押型文	ヘラナデ・底部付近指ナデ	赤褐色	暗褐色	白色粒子・小礫	
220	G 2	深鉢	口縁部付近	横走する山形押型文	ナデ	赤褐色	黄褐色	小礫・白色粒子	
221	F 4	深鉢	胴部	横走する山形押型文	ナデ	褐色	黄褐色	小礫・透明粒子	
222	J 3	深鉢	胴部	縦走する山形押型文	ナデ	赤褐色	暗褐色	小礫・赤褐色粒子	
223	H 2	深鉢	胴部	縦走する山形押型文	工具ナデ	暗褐色	赤褐色	小礫・赤褐色粒子	
225	J 3	深鉢	胴部	縦走する山形押型文	ナデ	暗褐色	黄褐色	赤褐色粒子・砂粒	
226	I 3	深鉢	胴部	縦走する山形押型文→文様ナデ消し	ナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子・砂粒	
224	K 3	深鉢	胴部	縦走する山形押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・砂粒	
227	H 4	深鉢	胴部	斜走する山形押型文	ナデ	赤褐色	暗褐色	小礫・赤褐色粒子	
228	G 2	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・小礫	
229	A B ア	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文	ナデ→縦走する楕円押型文	黄褐色	暗褐色	白色粒子・砂粒	
230	2 F ベルト	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文	ナデ→横走する楕円押型文	褐色	褐色	砂粒	



No.	出土地点	器種	部位	調整・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
231	H 4	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文	ナデー口唇部に刻み	暗褐色	褐色	赤褐色粒子	
232	G 3	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文	ナデー横走する楕円押型文	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・砂粒	
233	M 4	深鉢	口縁部	ナデー縦走する楕円押型文	ナデ	赤褐色	暗褐色	赤褐色粒子・小礫	
234	H 2	深鉢	口縁部	斜走する楕円押型文	ナデ	褐色	褐色	砂粒・白色粒子	
235	2 I 東西ウネ	深鉢	口縁部	縦走する楕円押型文	ナデー口唇部指押さえ	赤褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
236	G 3	深鉢	口縁付近	縦走する楕円押型文	ナデ	黄褐色	褐色	赤褐色粒子・砂粒	
237	M 4	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	赤褐色	暗褐色	白色粒子・金雲母	
238	H 4	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・砂粒	
239	H 4	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	赤褐色	暗褐色	赤褐色粒子・砂粒	
240	H 3	深鉢	頸部	縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・砂粒	
241	G 4	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子・砂粒	
242	2 I	深鉢	胴部	斜走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色小礫・白色粒子	
243	H 3	深鉢	胴部	横走する楕円押型文→縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	白色粒子・金雲母	
244	A C ア	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文→ナデ消し	工具ナデ	赤褐色	暗褐色	小礫・黒色透明粒子	
245	H 4	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文→ナデ消し	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒・黒色透明粒子	
246	I 3	深鉢	胴部	横走する楕円押型文→縦走する楕円押型文	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・砂粒	風化著しい
247	M 4	深鉢	胴部	縦走する楕円押型文→ナデ消し	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・白色粒子	
248	A B ア	深鉢	胴部	ベルト状の縄目燃糸文	ナデ	褐色	褐色	白色粒子・黒色透明粒子	

縄文時代後・晩期

384	H 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデー貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕→ナデ	暗褐色	褐色	白色粒子	
385	H 4	深鉢	頸部	貝殻条痕→ナデー2段貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕→ナデ	暗褐色	赤褐色	砂粒	
386	I 3	深鉢	口縁部	ナデー口縁部上端二条沈線	ナデ	赤褐色	褐色	赤褐色粒子・砂粒	
387	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	褐色	赤褐色粒子・砂粒	
388	J 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	外面スス付着
389	H 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・砂粒	
390	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子・砂粒	
391	東西ウネ	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	ナデ	褐色	暗褐色	赤褐色粒子・砂粒	
392	T 3 (確認)	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐色	褐色	赤褐色粒子・砂粒	口唇部に圧痕?
393	H 4	脚台付皿	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	褐色	白色粒子	口唇部に粘土粒
394	G 4	脚台付皿	口縁部	ミガキ	血部ミガキ/口縁部ナデー竹管文	黄褐色	黄褐色	小礫	口唇部赤彩
395	K 3	脚台付皿	口縁部	貝殻条痕→ミガキ	貝殻条痕→ナデ	褐色	褐色	赤褐色粒子・砂粒	口唇部に粘土粒2つ
396	S 3 5	脚台付皿	口縁部	ミガキ	血部ミガキ/口縁部ナデー竹管文	褐色	褐色	赤褐色粒子・砂粒	口唇部赤彩
397	H 4	脚台付皿	脚部	ナデ	ナデ	黄褐色	褐色	赤褐色小礫	端部に赤彩
398	P 5	脚台付皿	脚部	ナデ・工具痕	ナデ	赤褐色	暗褐色	砂粒	
399	I 区ウネ	深鉢	口縁部	ナデー口縁部上端二条沈線	ナデ	褐色	暗褐色	白色粒子	
400	I 3	深鉢	口縁部	ナデー口縁部上端二条沈線	ナデ	赤褐色	褐色	赤褐色粒子・砂粒	
401	I 4	深鉢	口縁部	ナデー口縁部上端二条沈線	貝殻状痕→ナデ	黄褐色	暗褐色	赤褐色粒子・砂粒	
402	I 4	深鉢	口縁部	工具によるナデーナデ	ナデー一条の凹線	暗褐色	赤褐色	小礫	
403	H 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	ナデー一条凹線	暗褐色	赤褐色	砂粒	外面にスス付着
404	I 3	深鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ→口縁部上端一条凹線	褐色	赤褐色	白色粒子	
405	G 4	深鉢	口縁部	ナデ?	ナデ?→一条凹線	褐色	褐色	白色粒子・砂粒	
406	南北ウネ	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	赤褐色粒子・砂粒	
407	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデー一条凹線	褐色	褐色	砂粒	
408	2 F	深鉢	口縁部	ナデ	ナデー一条凹線	褐色	褐色	砂粒	外面にスス付着
409	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	
410	H 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	砂粒	
411	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	口縁部粘土貼付・ナデ	褐色	赤褐色	白色粒子	
412	J 3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	褐色	赤褐色	白色粒子	
413	T 2 (確認)	深鉢	口縁部	ナデ	ナデー一条凹線	褐色	赤褐色	白色粒子・砂粒	
414	K 3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデー一条凹線	暗褐色	赤褐色	白色粒子	
415	T 3 (確認)	深鉢	口縁部	ナデ	ナデー一条凹線?	赤褐色	赤褐色	白色粒子	

No.	出土地点	器種	部位	調整・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
416	J 3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→一条凹線	赤褐色	褐色	砂粒・黒色透明粒子	
417	2F	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→二条凹線	褐色	褐色	砂粒	
418	Q 6	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→口縁部整形	赤褐色	赤褐色	砂粒	
419	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ→一条凹線	褐色	褐色	砂粒・赤褐色粒子	
420	I 4	深鉢	口縁部	ナデ→口唇部に沈線	ナデ	褐色	褐色	砂粒・白色粒子	
421	T 3 (確認)	深鉢	口縁部	ナデ→一条沈線	ナデ	褐色	赤褐色	砂粒・白色透明粒子	
422	I 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・黒色透明粒子	
423	J 3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	赤褐色	砂粒・白色粒子	外面スス付着
424	H 4	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ	ナデ	暗褐色	褐色	砂粒・黒色透明粒子	
425	F 区	深鉢	頸部～胴部	ミガキ→磨消縄文	ミガキ	褐色	暗褐色	白色粒子	
426	I 3	深鉢	胴部	ミガキ→磨消縄文	ミガキ	褐色	暗褐色	白色粒子	
427	L 4	深鉢	胴部	ミガキ→磨消縄文	ミガキ	赤褐色	褐色	白色粒子	
428	T 3 (確認)	深鉢	胴部	ミガキ→磨消縄文	ミガキ	暗褐色	褐色	白色粒子	
429	I 4	深鉢	胴部	ナデ→三条沈線→刺突文	ナデ	褐色	褐色	赤褐色粒子・白色粒子	
430	J 3	深鉢	胴部	ナデ→直線状の2条沈線と弧状の二条沈線	ナデ	暗褐色	褐色	白色粒子	
431	S 1 7	深鉢	胴部	縄文原体→二条沈線・波状沈線→刺突文	ナデ	暗褐色	褐色	黒色透明粒子・白色粒子	外面スス付着
432	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二条凹線	ミガキ	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子・白色粒子	
433	J 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二条凹線	ミガキ	褐色	褐色	小礫	
434	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二条凹線	ミガキ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
435	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→三条凹線	ミガキ	褐色	褐色	砂粒	
436	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二条凹線	ミガキ	赤褐色	赤褐色	白色粒子・砂粒	
437	S 1	浅鉢	口縁部	ミガキ→二条凹線	ミガキ	赤褐色	褐色	砂粒	
438	T 3 (確認)	浅鉢	口縁部	ミガキ→三条凹線	ミガキ	暗褐色 / 褐色	暗褐色	白色粒子	
439	I 4	浅鉢	口縁部	ミガキ→二条?凹線	ミガキ	赤褐色	褐色	小礫	
440	G 5	浅鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ→一条凹線	暗褐色	暗褐色	白色粒子少量含む	
441	J 3	浅鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ→一条凹線	暗褐色	暗褐色	白色粒子少量含む	
442	J 3	浅鉢	口縁部	ミガキ→口唇部に一条沈線	ミガキ	褐色	褐色	白色粒子少量含む	
443	J 3	浅鉢	口縁部	ミガキ→一条凹線	ミガキ→一条凹線	黄褐色	褐色	白色粒子少量含む	
444	J 3	浅鉢	口縁部	ミガキ→一条沈線	ミガキ→一条凹線	暗褐色	暗褐色	雲母極わずかに含む	
445	H 4	浅鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ→一条凹線	赤褐色	赤褐色	砂粒極わずかに含む	
446	K 3	浅鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ	灰褐色	灰褐色	砂粒極わずかに含む	丘痕あり
447	2 F	高坏	脚部	ミガキ→端部と血部の連結部に二条凹線	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	
448	G 5	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付(突帯状)	ナデ	黄褐色	黄褐色	小礫・赤褐色粒子	
449	H 4	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付(突帯状)	ナデ	褐色	灰褐色	小礫	
450	G 5	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付(突帯状)	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	
451	S 1 7	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付(突帯状)	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子極わずかに含む	
452	H 4	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付(突帯状)	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
453	G 5	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付(突帯状)	ナデ	褐色	褐色	白色粒子極わずかに含む	
454	2 I ウネ	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付(突帯状)	ナデ	暗褐色	黄褐色	砂粒	
455	S 2 0 6	深鉢	口縁部	貝殻条痕→粘土帯貼付→孔列文	貝殻条痕→ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒・赤褐色粒子	
456	P 5	深鉢	口縁部	ナデ→粘土帯付け足し→孔列文	ナデ	赤褐色	黄褐色	砂粒多く含む	
457	S 2 3 8 9	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付→孔列文	ナデ	褐色	黄褐色	小礫	
458	I 3	深鉢	口縁部	ナデ→粘土付け足し→孔列文	ナデ	褐色	褐色	砂粒	
459	H 4	深鉢	口縁部	ナデ→粘土紐貼付→孔列文	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
460	H 4	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ→粘土付け足し→孔列文	貝殻条痕→ナデ	黒褐色	黒褐色	白色粒子	
461	H 3	深鉢	口縁部	ナデ→孔列文	ナデ	黄褐色	黄褐色	小礫	
462	J 3	土器片鉢	—	ナデ	ナデ	褐色	褐色	白色粒子・赤褐色粒子	
463	G 4	土器片鉢	—	ナデ	ナデ	褐色	暗褐色	砂粒	
464	2 F	土器片鉢	—	ナデ	貝殻条痕→ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒わずかに含む	
465	G 4	土器片鉢	—	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒極わずかに含む	
466	21 東西ウネ	土器片鉢	—	縦走する山形押型文	ナデ	黄褐色	黄褐色	細かい砂粒	
467	L 4	土器片鉢	—	ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	砂粒多く含む	

No.	出土地点	器種	部位	調整・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
468	I 4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒わずかに含む	
469	I 3	深鉢	口縁部	ヘラナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
470	H 4	深鉢	口縁部	ミガキ	ナデ	黒褐色	暗褐色	砂粒・黒色透明粒子	
471	J 3	脚台付皿?	口縁部	ヘラナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒	
472	I 4	鉢	肩部	ナデ→直線的な沈線	ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒	
473	T 3 (確認)	脚台付皿?	皿部	ミガキ→三条沈線・刻み目・穿孔	ミガキ→口縁部に刻み目	暗褐色	暗褐色	砂粒・白色粒子	
474	T 3 (確認)	脚台付皿	皿部	ナデ	ナデ→二条沈線	黄褐色	黄褐色	赤褐色小礫	
475	J 3	鉢	口縁部	ナデ→粘土貼付(突起状)→ナデ	ナデ	褐色	褐色	砂粒	
476	2 I ウネ	鉢	口縁部	ナデ→口縁部に斜め方向の刻み目・穿孔	ナデ	黄褐色	黄褐色	砂粒	
477	H 4	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	
478	T 3 (確認)	深鉢	底部	ナデ	ナデ	黄褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
479	P 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
480	I 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	小礫	
481	I 3	深鉢	底部	ナデ	ナデ	暗褐色	黄褐色	小礫	
482	表土	深鉢	底部	ナデ	ナデ	褐色	暗褐色	白色粒子	
483	H 4	深鉢	底部	ナデ	ミガキ	赤褐色	暗褐色	赤褐色粒子	
484	G 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	木の葉底
485	K 3	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	褐色	暗褐色	赤褐色粒子・白色粒子	内面スス付着
486	T 3 (確認)	深鉢	底部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	赤褐色粒子	
487	K 3	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	褐色	暗褐色	赤褐色粒子・白色粒子	
488	P 5	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	
489	O 4	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子	
490	Q 6	深鉢	底部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	砂粒・赤褐色粒子	木の葉底
491	H 3	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	赤化褐色	砂粒	
492	F 区	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	黄褐色	暗褐色	赤褐色粒子・小礫	
493	H 4	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	暗褐色	小礫	
494	J 3	深鉢	底部	ナデ	ミガキ	褐色	黒褐色	白色粒子・金雲母	
495	H 4	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	暗褐色	赤褐色	赤褐色粒子・白色粒子	
496	J 3	深鉢	底部	ナデ	ミガキ	褐色	黒褐色	白色粒子・金雲母	
497	H 4	深鉢	底部	ヘラナデ	ナデ	褐色	褐色	白色粒子・褐色粒子	
498	J 3	深鉢	底部	ナデ→ミガキ	ナデ	暗褐色	褐色	白色粒子	
499	R 9	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	黒色透明粒子・白色粒子	
500	J 3	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	
501	I 4	深鉢	底部	—	ナデ	—	褐色	赤褐色粒子	内面スス付着
502	I 4	深鉢	底部	ナデ→ミガキ	ナデ	褐色	暗褐色	赤褐色粒子・白色粒子	
503	K 3	深鉢	底部	ミガキ	ミガキ	暗褐色	暗褐色	白色粒子・黒色透明粒子	
504	T 3 (確認)	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	暗褐色	褐色	砂粒	
505	2 F	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	黄褐色	砂粒	
506	G 5	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子	
507	J 3	深鉢	底部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	砂粒	
508	I 3	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	内面スス付着
509	G 5	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子	
510	I 区 欵	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	暗褐色	砂粒	
511	H 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	
512	I 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	赤褐色粒子・白色粒子	内面スス付着
513	H 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子・透明粒子	
514	J 4	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	暗褐色	白色粒子	内面スス付着
515	G 5	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	砂粒	
516	I 4	深鉢	底部	ヨコナデ	ナデ	褐色	暗褐色	白色粒子	
517	H 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	暗褐色	砂粒	内面スス付着
518	J 3	深鉢	底部	ナデ→ミガキ	ヘラナデ	暗赤褐色	赤褐色	白色粒子	
519	K 3	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	褐色	小礫	内面スス付着
520	F 5	深鉢	底部	ミガキ	ナデ	赤褐色	赤褐色	白色粒子	

No.	出土地点	器種	部位	調整・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
521	I 4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	小礫	
522	T 3 (確認)	深鉢	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	砂粒	内面黒斑
523	I 4	深鉢	底部	ナデーミガキ	ナデ	赤褐色	褐色	小礫	内面スス付着
524	I 4	深鉢	底部	ナデ (底部付近ヨコナデ)	ナデ	赤褐色	褐色	白色粒子・砂粒	

第 12 表 古墳時代以降遺物観察表

No.	出土地点	器種	部位	調整・文様		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
526	SA 8	土師器	ミニチュア鉢	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	
527	SA 8	土師器	鉢	タタキ	ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	スス付着
528	SA 8	土師器	高坏・脚部	不明	不明	赤褐色	赤褐色	赤色粒子	
529	SA 8	土師器	壺	ナデータタキ	ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	スス付着
530	SA 8	土師器	壺	ナデータタキ	ナデーハケ目ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	スス付着
531	SA 8	土師器	壺	タタキ、口縁部ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	赤色粒子	
533	表土	須恵器	高坏・坏部	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	灰褐色	灰褐色	砂粒少量	
534	表土	須恵器	蓋部	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	灰褐色	灰褐色	砂粒少量	内面磨り面有り、硯として転用か？

第 13 表 黒曜石原石計測表

No.	器種	石材	出土地点	計測値			
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
535	原石	O b I	F	1.50	1.40	0.95	1.66
536	原石	O b I	H	2.30	1.40	1.00	2.28
537	原石	O b I	F	2.20	1.40	1.15	3.30
538	原石	O b I	F	2.25	1.60	1.15	3.19
539	原石	O b I	F	2.30	1.50	1.15	4.34
540	原石	O b I	F	1.65	1.40	1.80	4.60
541	原石	O b I	F	2.50	1.75	1.40	5.53
542	原石	O b I	F	1.65	1.60	1.40	5.51
543	原石	O b I	F	1.70	2.45	1.20	4.48
544	原石	O b I	F	2.45	1.50	1.40	3.78
545	原石	O b I	F	2.85	1.30	1.30	4.43
546	原石	O b I	F	2.80	1.40	1.05	3.61
547	原石	O b I	F	2.40	2.30	1.40	6.24
548	原石	O b I	F	2.60	1.80	1.45	5.89
549	原石	O b I	F	2.25	1.90	1.35	6.06
550	原石	O b I	F	2.30	1.90	1.25	5.93
551	原石	O b I	F	2.70	2.00	1.20	5.14
552	原石	O b I	F	2.95	1.65	1.10	4.58
553	原石	O b I	F	2.70	2.30	1.40	8.81
554	原石	O b I	F	1.32	1.71	1.20	2.71
555	原石	O b I	F	3.75	2.30	1.80	11.45
556	原石	O b I	F	1.40	1.20	1.00	2.24
557	原石	O b I	F	1.60	1.35	1.10	3.64
558	原石	O b I	F	1.80	1.45	1.15	2.64
559	原石	O b I	F	2.00	1.30	1.60	3.52
560	原石	O b I	F	1.90	2.00	1.15	3.45
561	原石	O b I	F	1.90	1.60	1.45	4.27
562	原石	O b I	F	2.40	1.40	1.05	3.26
563	原石	O b I	F	2.70	1.10	1.20	3.34
564	原石	O b I	F	1.60	2.51	1.05	4.44
565	原石	O b I	F	2.70	1.90	1.30	5.72
566	原石	O b I	F	2.15	2.20	1.45	6.52
567	原石	O b I	F	2.36	1.60	1.20	5.03
568	原石	O b I	F	2.45	1.70	1.30	4.37

No.	器種	石材	出土地点	計測値			
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
569	原石	O b I	F	2.30	2.15	1.40	5.55
570	原石	O b I	F	2.05	1.55	0.90	3.12
571	原石	O b I	F	2.10	1.90	1.10	4.16
572	原石	O b I	F	2.70	1.60	1.40	5.41
573	原石	O b I	F	3.00	1.25	1.15	5.95
574	原石	O b I	F	2.80	1.70	1.50	5.91
575	原石	O b I	F	2.00	2.40	1.40	7.14
576	原石	O b I	F	2.60	1.70	1.20	5.18
577	原石	O b I	F	2.85	1.45	1.05	4.10
578	原石	O b I	F	2.10	2.50	1.20	6.77
579	原石	O b I	H	1.90	2.30	1.60	7.27
580	原石	O b I	F	2.70	1.60	1.05	3.81
581	原石	O b I	F	2.30	2.00	0.95	4.05
582	原石	O b I	F	1.95	2.60	1.20	5.59
583	原石	O b I	F	2.55	3.00	1.20	7.78
584	原石	O b I	F	3.30	2.40	1.05	7.21
585	原石	O b I	F	3.20	2.50	0.85	5.61
586	原石	O b I	F	2.80	1.70	0.75	3.21
587	原石	O b I	F	1.95	2.50	1.05	5.15
588	原石	O b I	F	2.10	1.80	1.20	4.94
589	原石	O b I	F	2.70	1.40	1.10	4.50
590	原石	O b I	F	2.80	1.40	1.30	5.46
591	原石	O b I	F	2.40	1.10	1.10	2.80
592	原石	O b I	F	2.80	1.80	1.40	8.67
593	原石	O b I	F	2.10	2.30	1.45	5.93
594	原石	O b I	F	2.20	2.00	0.95	4.10
595	原石	O b I	F	3.00	1.40	1.40	5.39
596	原石	O b I	F	2.60	1.70	1.20	5.09
597	原石	O b I	F	1.70	2.20	1.50	6.62
598	原石	O b I	F	1.90	1.55	1.20	5.37
599	原石	O b I	F	1.70	1.50	2.20	6.62
600	原石	O b I	G	2.00	2.40	1.40	6.25

# 圖 版





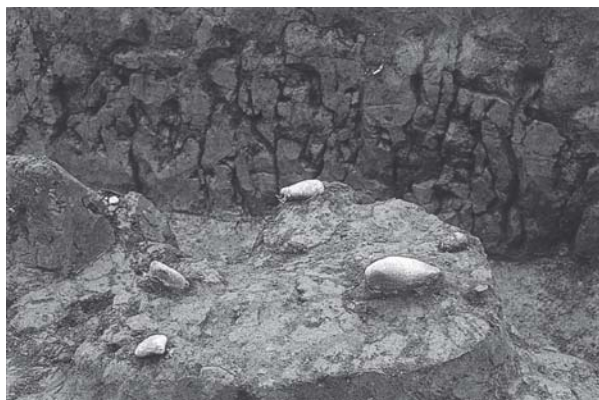
二次調査区全景



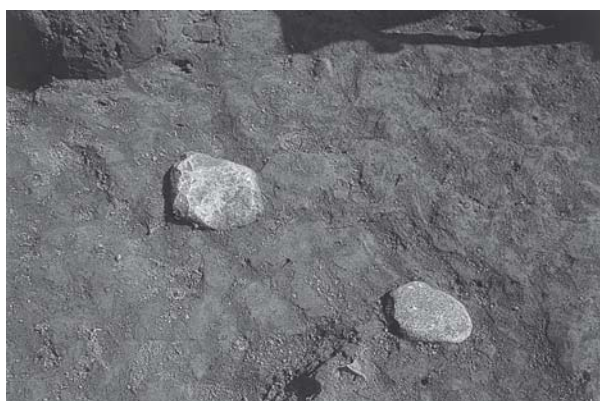
三次調査区全景



11. 26号礫群



12. 30号礫群



13. 27号礫群



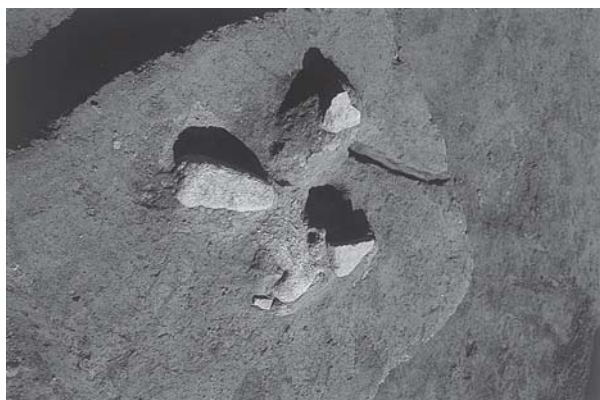
14. 28号礫群



15. 29号礫群



16. 4号礫群



17. 16号礫群



18. 19号礫群



19. 13号礫群



20. 2号礫群



21. 14号礫群



22. 9号礫群



23. 21号礫群



24. 5号礫群



25. 17号礫群



26. 32号礫群



卷末図版 4



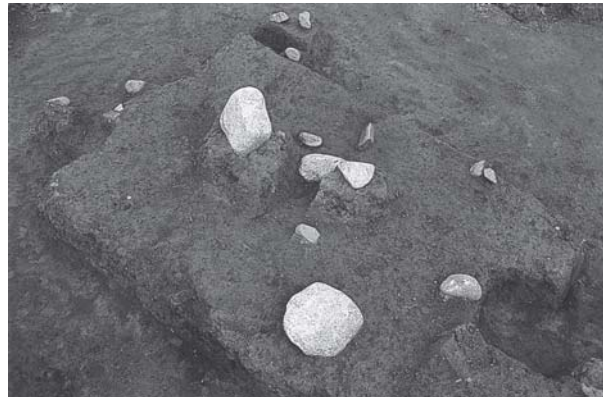
27. 10号礫群



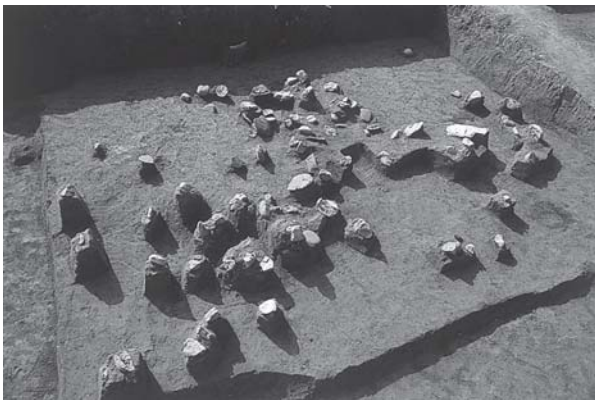
28. 20号礫群



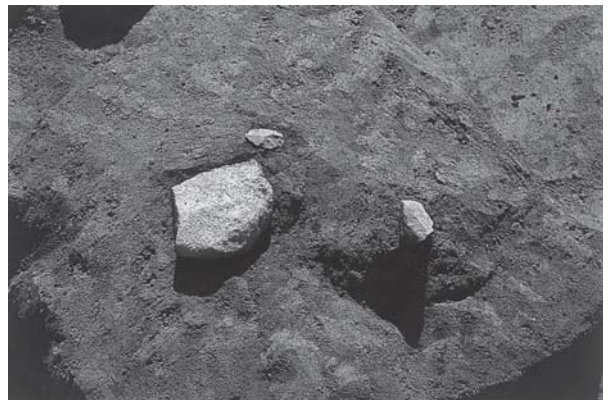
29. 24号礫群



30. 22号礫群



31. 23号礫群



32. 11号礫群



33. 23号礫群



34. 11号礫群



35. 6号礫群



36. 7号礫群



37. F区出土黒曜石出土状況



38. 12号集石遺構



39. 12号集石遺構



40. 12号集石遺構 (配石)



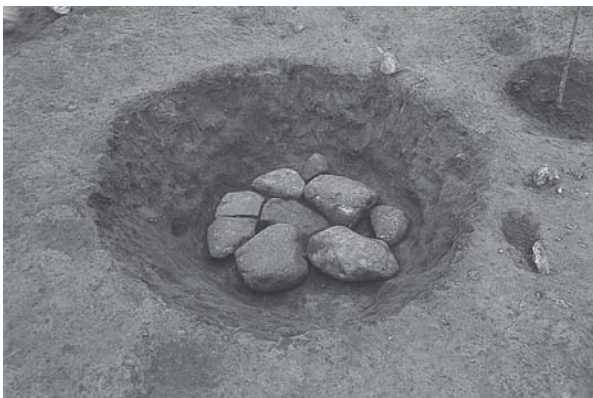
41. 4号集石遺構



42. 4号集石遺構



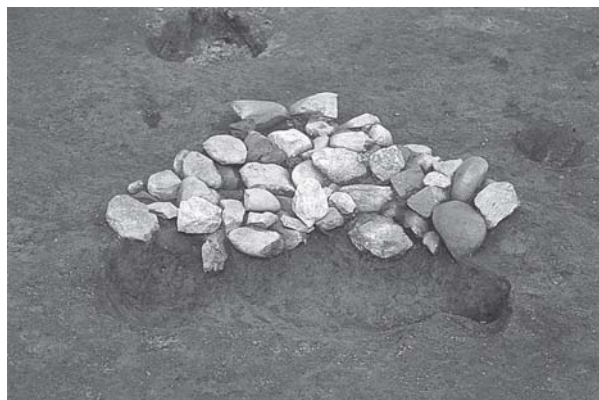
43. 7号集石遺構



44. 4号集石遺構 (配石)



45. 8号集石遺構



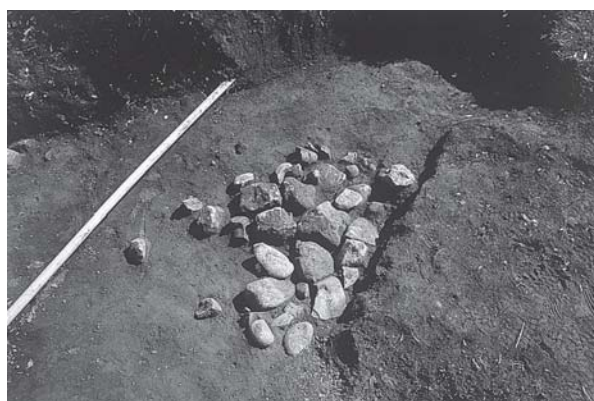
46. 9号集石遺構



47. 5号集石遺構



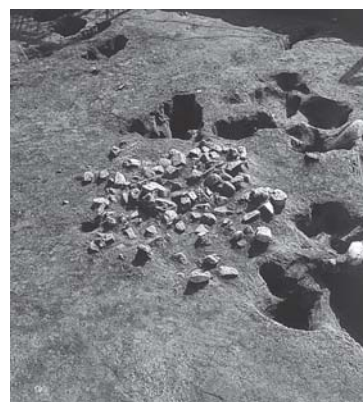
48. 6号集石遺構



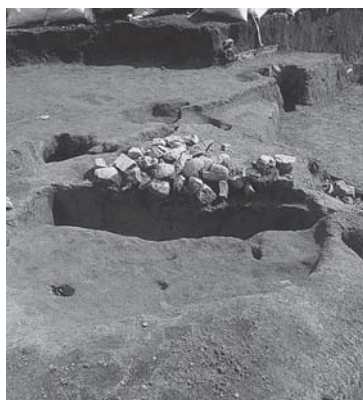
49. 17号集石遺構



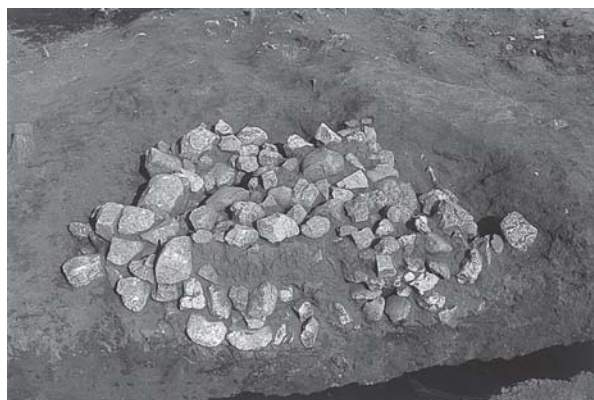
50. 17号集石遺構



51. 11号集石遺構

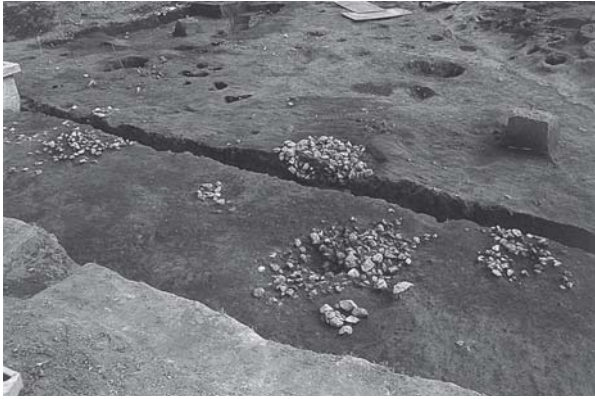


52. 11号集石遺構



53. 3号集石遺構

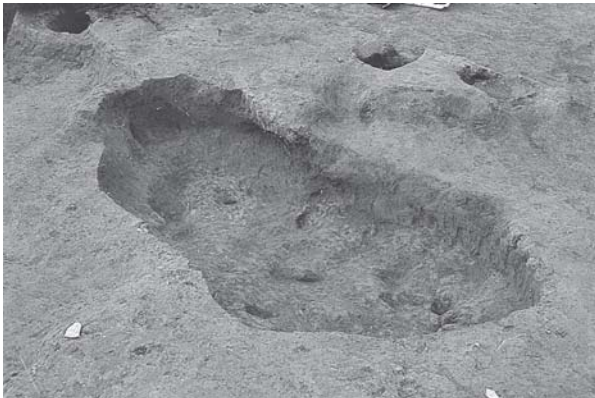
卷末図版 8



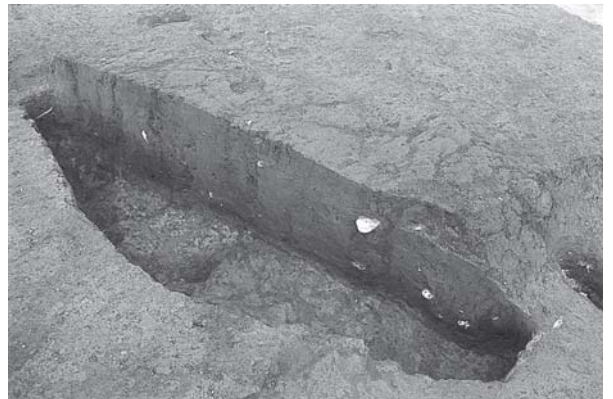
54. 1~5号集石遺構検出状況



55. 1号炉穴



56. 3号炉穴



58. 4号炉穴



57. 4号炉穴



59. 9号炉穴



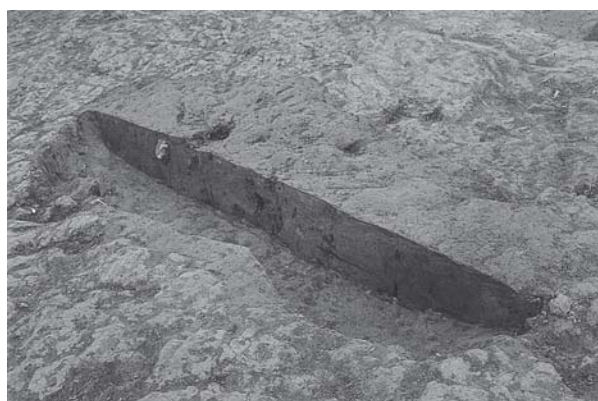
60. 13号炉穴



61. 2号炉穴



62. 2号炉穴



63. 10号炉穴



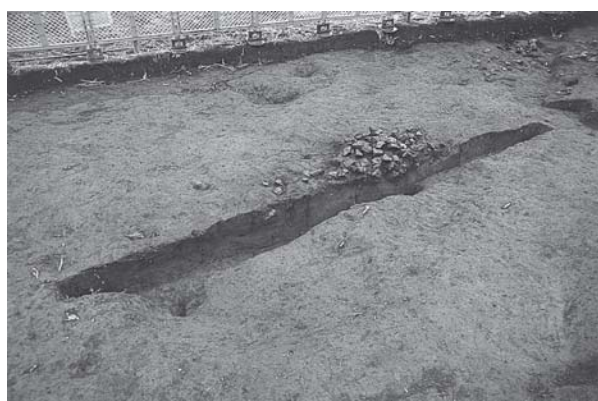
64. 11号炉穴



65. 10·11号炉穴



66. 7号炉穴



67. 16号炉穴

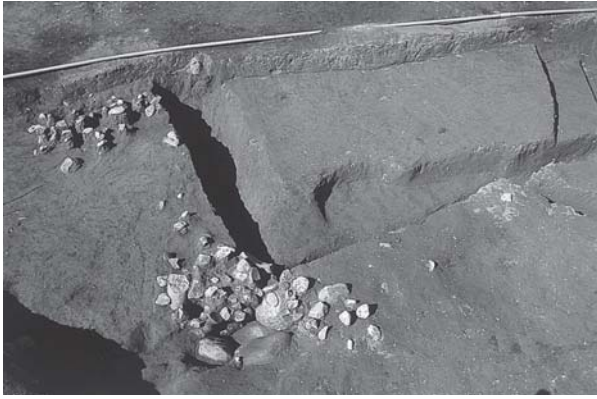
卷末图版 10



68. 16号炉穴



69. 15号集石



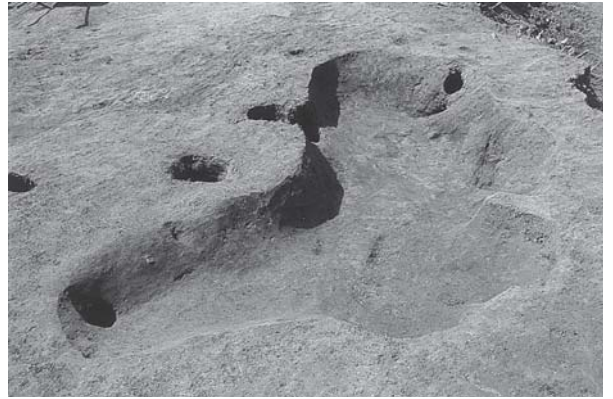
70. 17号炉穴半截



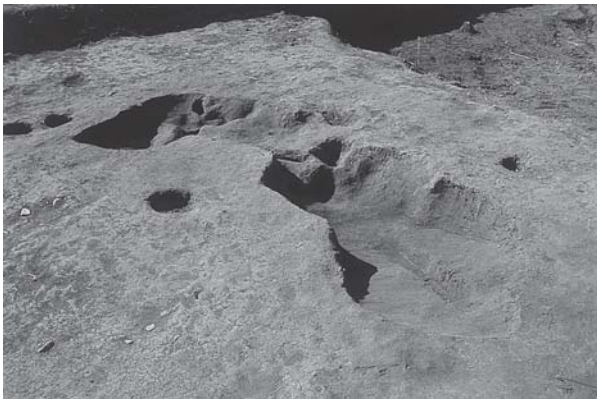
71. 16号集石配石



72. 17号炉穴完掘



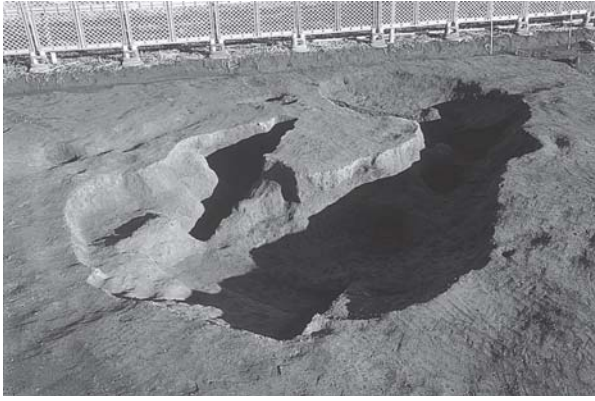
73. 12号炉穴



74. 14号炉穴



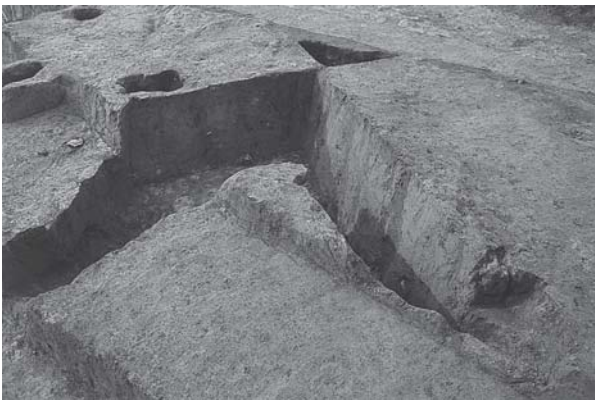
75. 15号炉穴



76. 15号炉穴



78. 8号炉穴



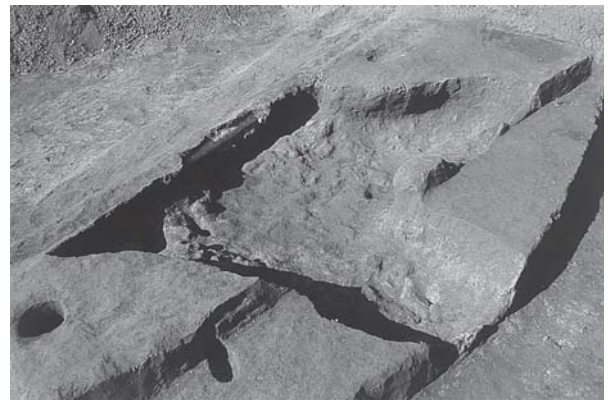
79. 5号炉穴



81. SA8遺物出土状況1



77. 6号炉穴



80. 5号炉穴



82. SA8遺物出土状況2



卷末図版 12



83. SA8小玉出土状況



84. SA8遺物出土状況3



85. SA8住居内土抗土層断面



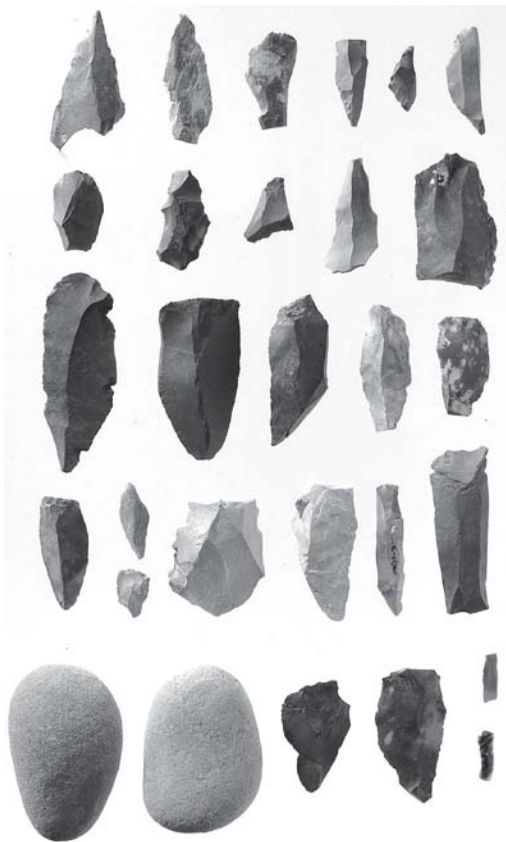
86. SA8完掘状況



87. 後期旧石器時代①石器

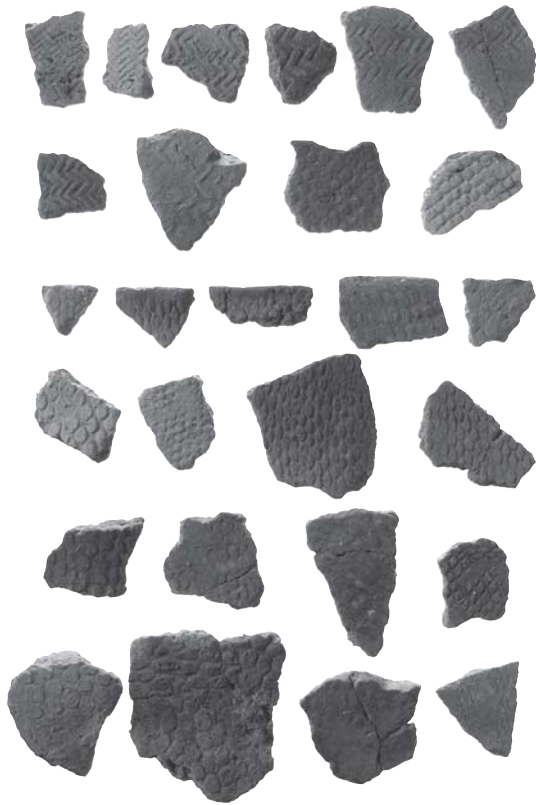


88. 後期旧石器時代②石器1

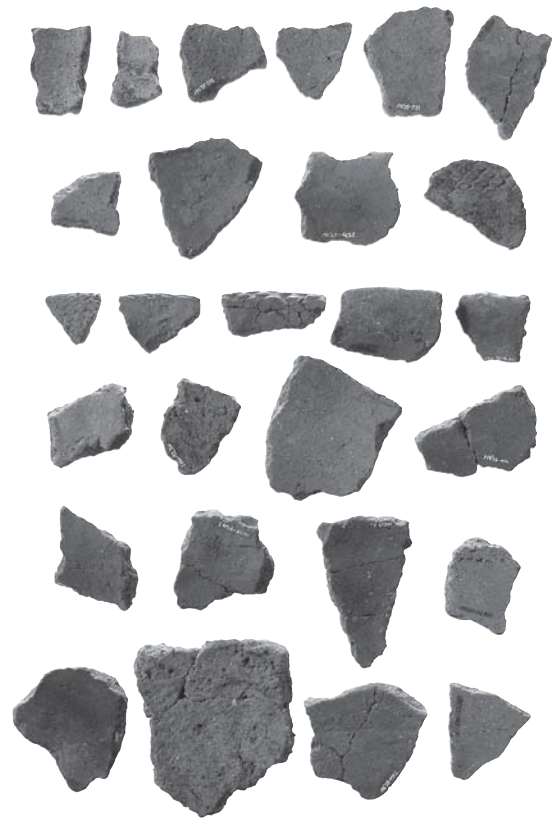


89. 後期旧石器時代②石器2

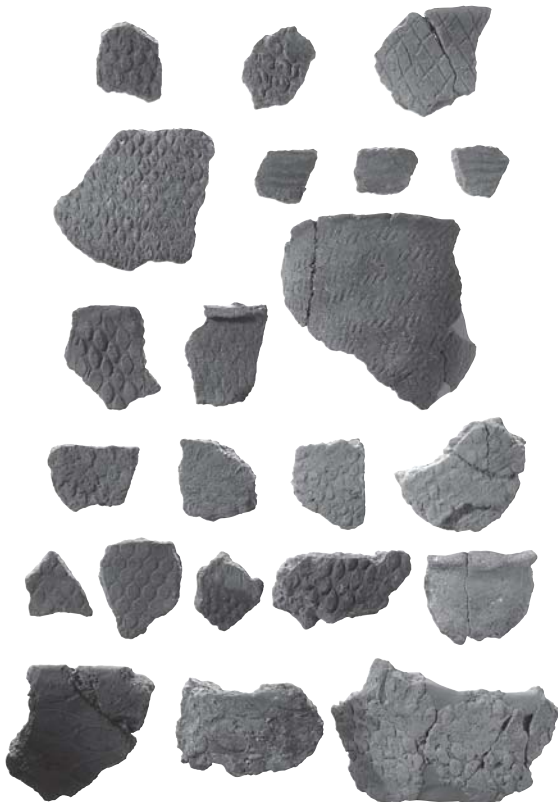
卷末図版 14



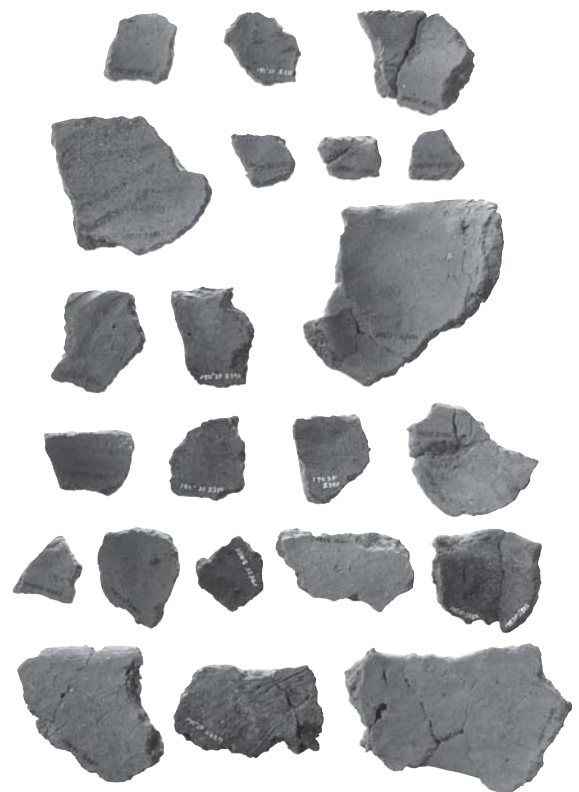
90. 縄文時代早期土器1 (表)



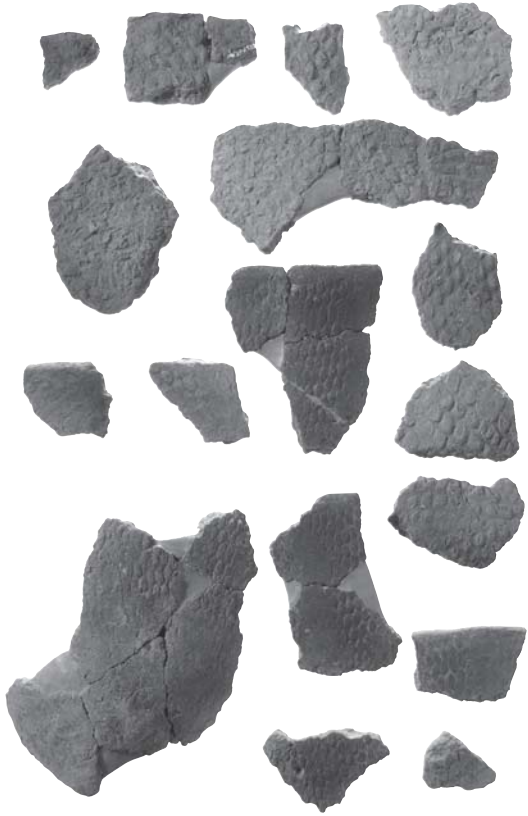
91. 縄文時代早期土器1 (裏)



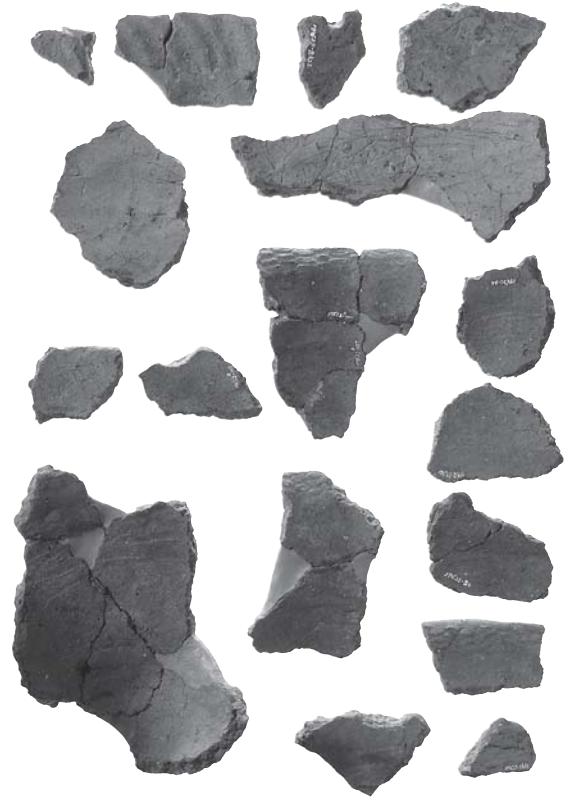
92. 縄文時代早期土器2 (表)



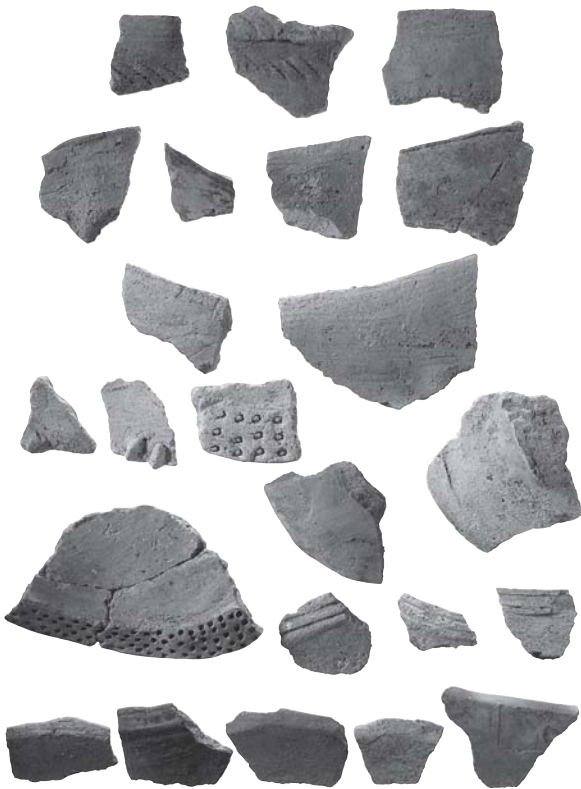
93. 縄文時代早期土器2 (裏)



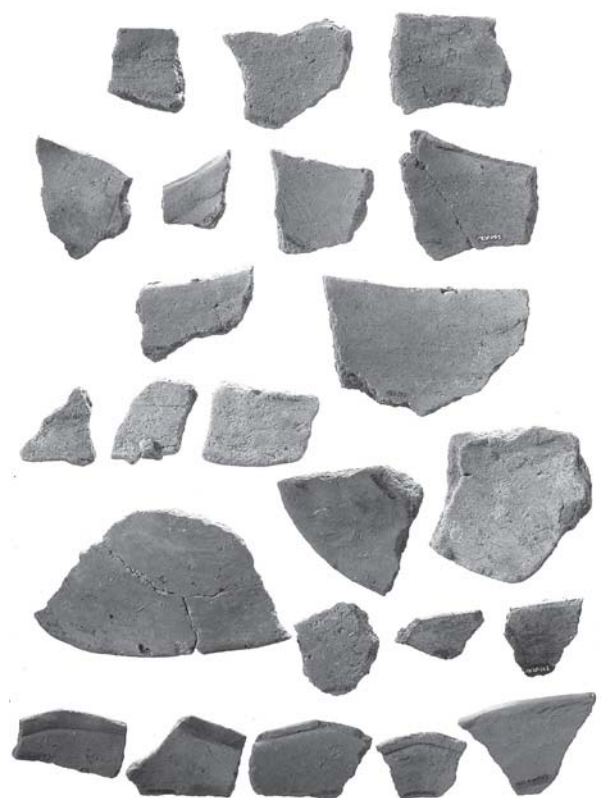
94. 縄文時代早期土器3 (表)



95. 縄文時代早期土器3 (裏)

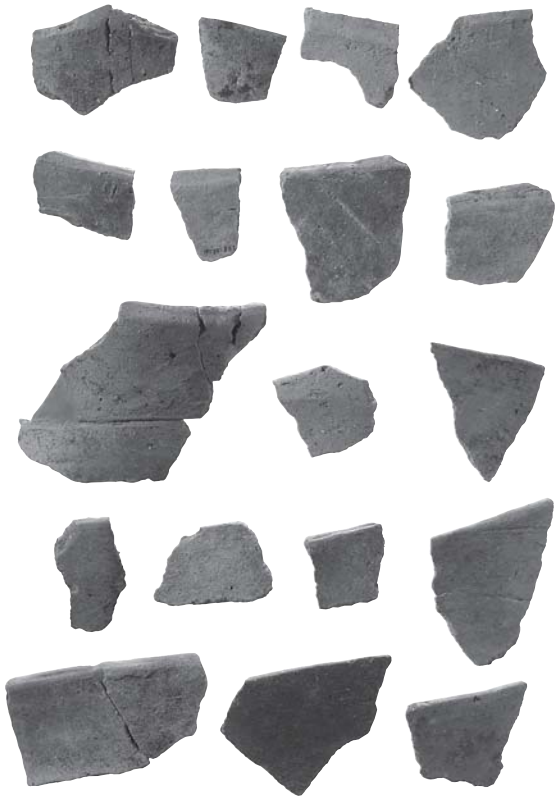


96. 縄文時代後・晚期土器1 (表)

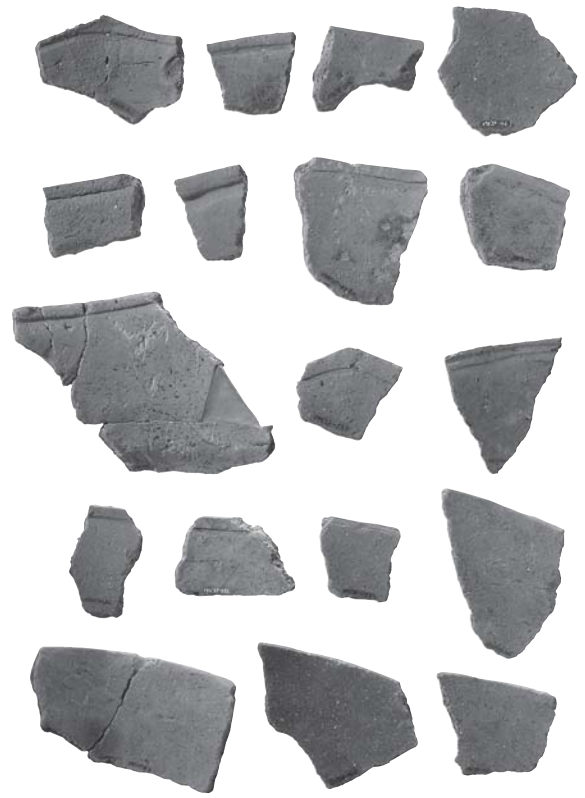


97. 縄文時代後・晚期土器1 (裏)

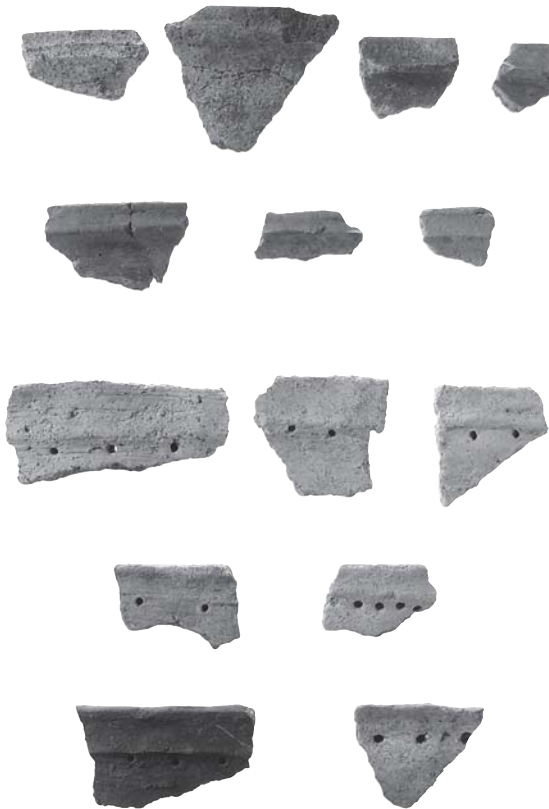
卷末図版 16



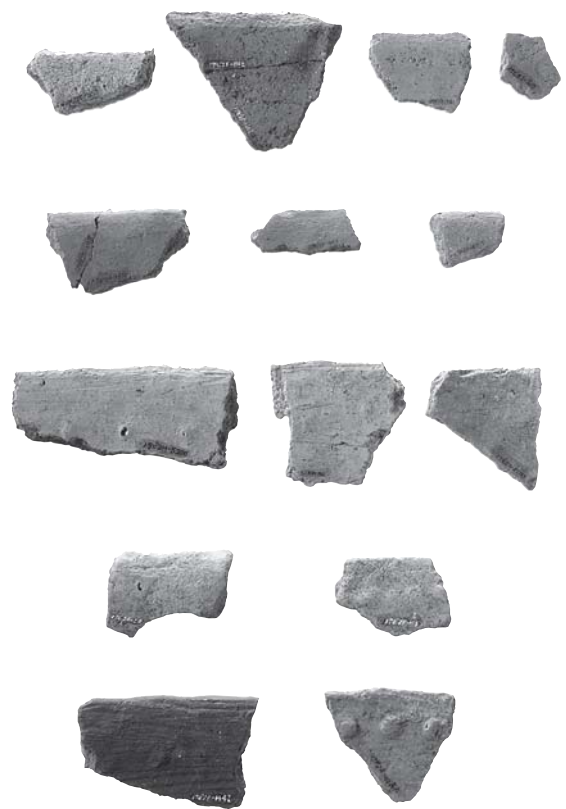
98. 縄文時代後・晩期土器2 (表)



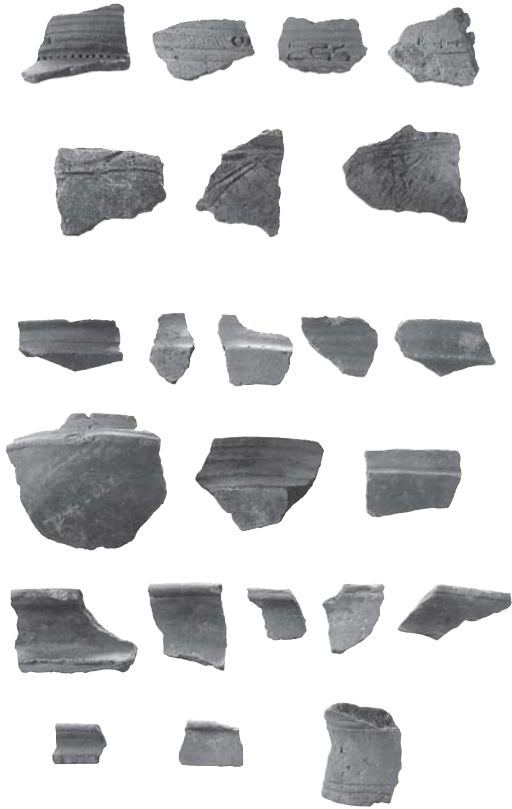
99. 縄文時代早後・晩期土器2 (裏)



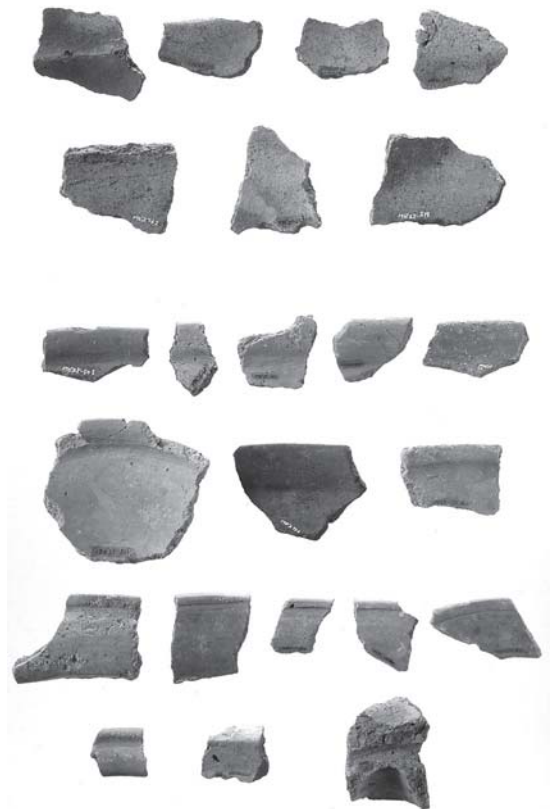
100. 縄文時代後・晩期土器3 (表)



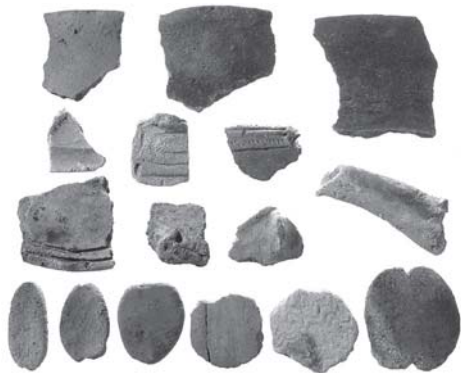
101. 縄文時代後・晩期土器3 (裏)



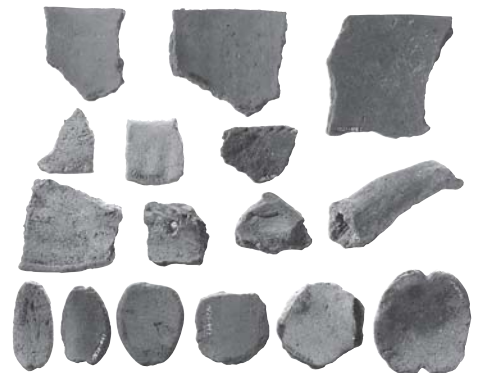
102. 縄文時代後・晩期土器4 (表)



103. 縄文時代後・晩期土器4 (裏)



104. 縄文時代後・晩期土器5 (表)



105. 縄文時代後・晩期土器5 (裏)



104. 縄文時代石鏃5 (表)

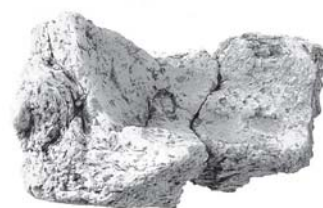
卷末图版 18



477



477



479



478



478



481



483



482



484



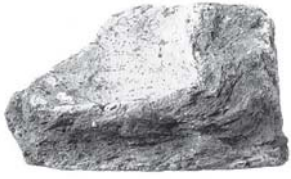
486



485



485



487



488



489



490



491



494



496



497



498



499



500



501





503



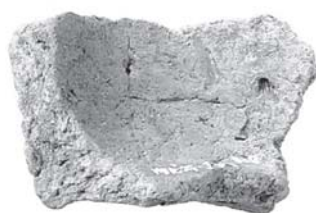
504



505



506



508



509



510



511



513



515



518



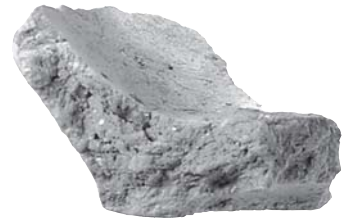
518



519



520



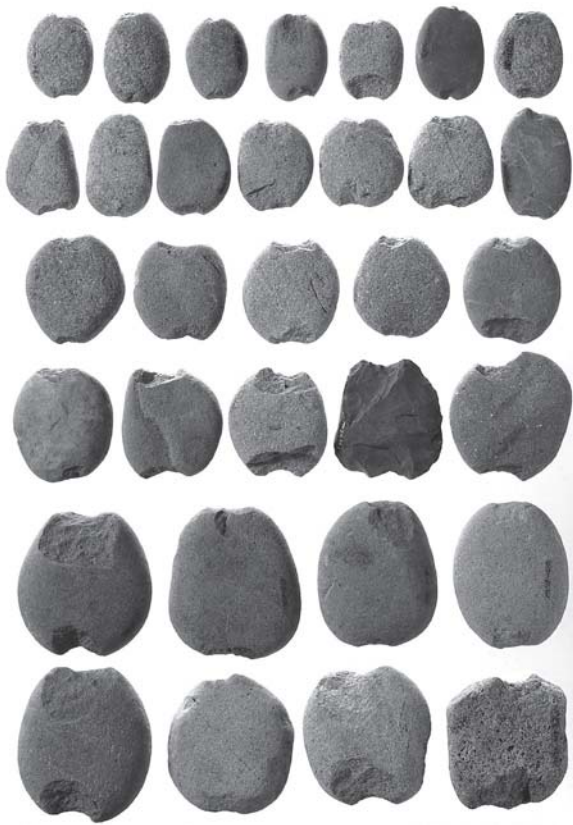
522



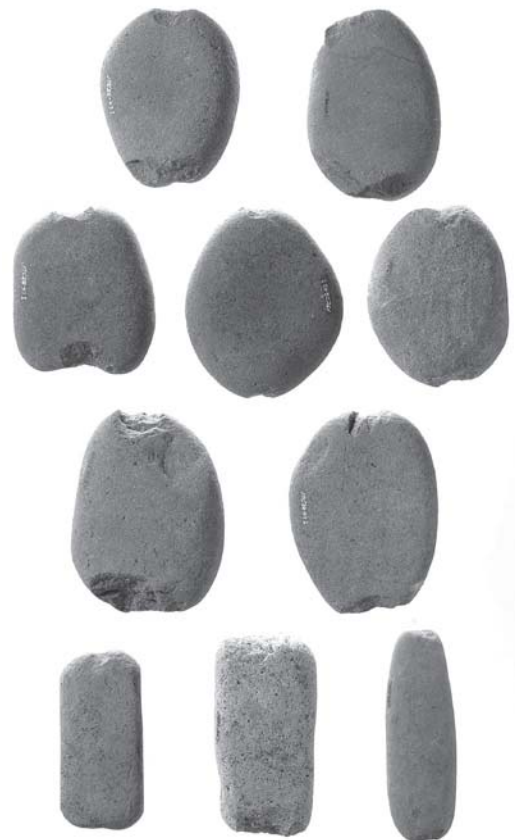
523



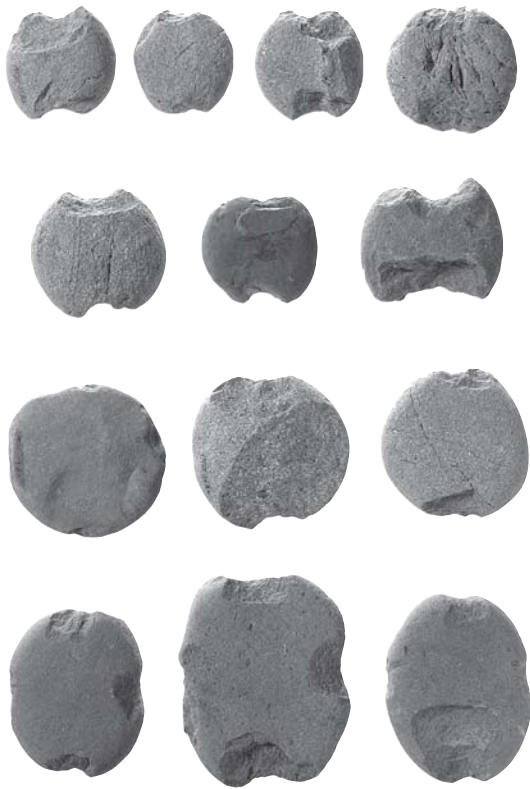
524



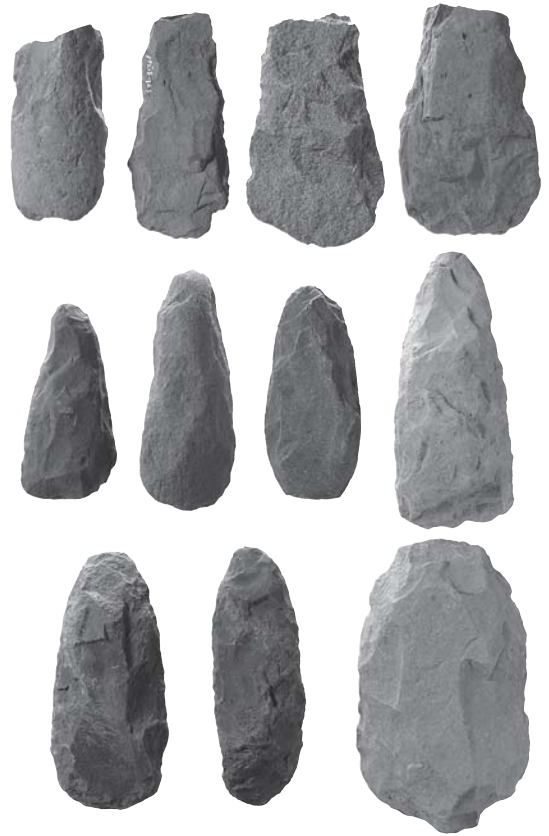
148. 縄文時代後・晚期石器1 (石錘)



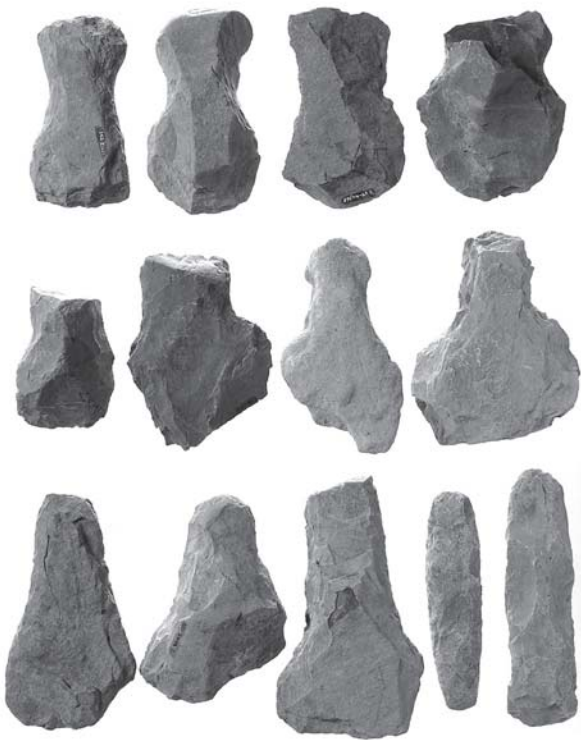
149. 縄文時代後・晚期石器2 (石錘)



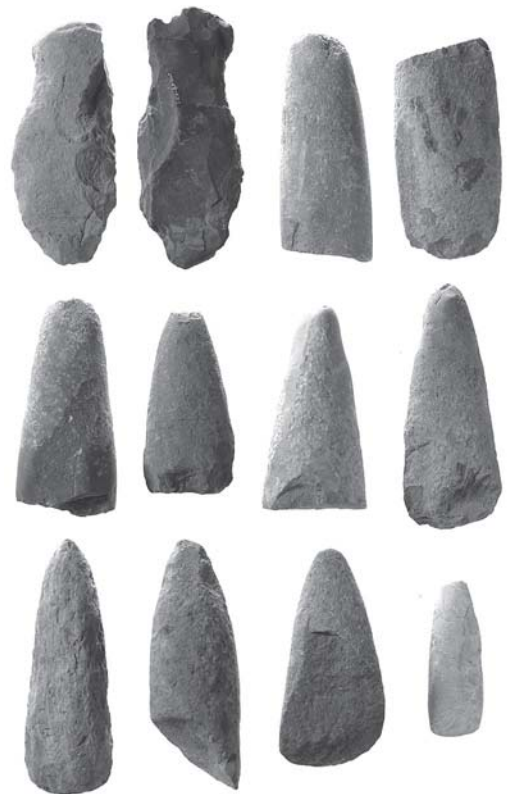
150. 縄文時代後・晚期石器3 (石錘)



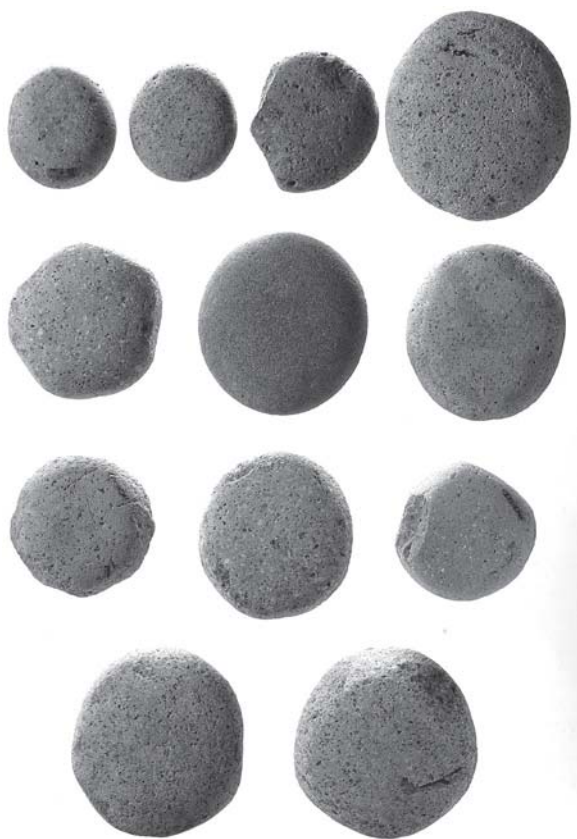
151. 縄文時代後・晚期石器4 (石斧)



152. 縄文時代後・晚期石器5 (石斧)



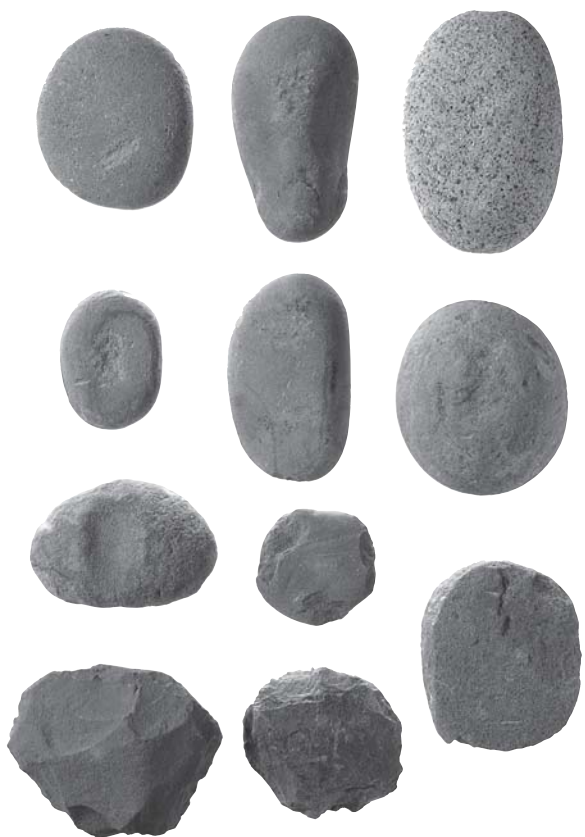
153. 縄文時代後・晚期石器6 (石斧)



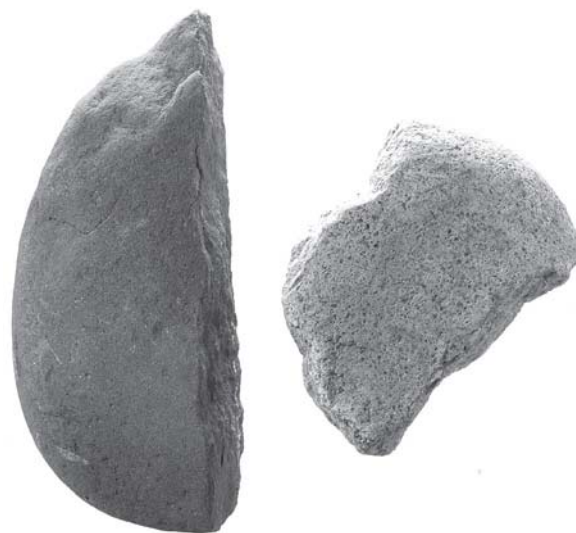
154. 縄文時代後・晚期石器7 (磨石)



155. 縄文時代後・晚期石器8 (凹石・敲石)



156. 縄文時代後・晚期石器9 (敲石・円盤状器)



157. 縄文時代後・晚期石器10 (台石)



158. SA8出土土師器527



159. SA8出土土師器529



160. SA8出土土師器530



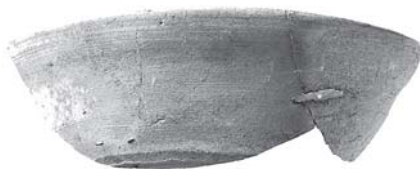
161. SA8出土土師器531



162.532



163. I区包含層出土須恵器534



164. I区出土533須恵器



165.南部弾

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	のくびだいにいせき (に・さんじちょうさ)							
書名	野首第2遺跡 (二・三次調査)							
副書名	東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 63							
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第188集							
編著者名	石津晴菜・松本 茂							
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地 TEL 0985-36-1171							
発行年月日	西暦 2010年2月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
のくびだいにいせき 野首第2遺跡 に・さんじちょうさ (二・三次調査)	こゆぐんたかなべちよう 児湯郡高鍋町 おおあざうわえあざおおき 大字上江字青木	45401	2005	32度 08分 55秒 付近	131度 29分 12秒 付近	2007.07.17~ 2008.04.30	2,380㎡	東九州自動車道(都農 ～西都間)建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
野首第2遺跡		後期旧石器 時代	礫群 7基	石器				
	集落跡	縄文時代 早期	集石遺構 17基 炉穴 17基	縄文土器				
		古墳時代 中期	竪穴住居跡 1軒	土師器、須恵器、鉄製品				
		時期不明	土坑・ピット					
要約	<p>後期旧石器時代の礫群及び石器が、AT層の上下から出土。縄文時代早期の遺構・遺物は、集石遺構、土器・石器類出土。包含層中に、縄文時代早期～古墳時代中期にかけての土器・石器類が多数出土している。</p> <p>古墳時代の竪穴住居跡からは、土器と、瑪瑙製の小玉が出土している。また、桑ノ木津留産黒曜石の原石がまとまって出土している。</p>							

---

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 188 集

**野首第 2 遺跡（二・三次調査）**

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 63

2010年2月26日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒 880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地

TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印刷 株式会社 都城印刷

〒 885-0055 宮崎県都城市早鈴町 1618 番地

TEL 0986(22)4392 FAX 0986(22)4891

---